

葉 山 町
子ども・子育て支援新制度に関する
アンケート調査
報 告 書

平成 26 年 3 月

葉 山 町

－ 目 次 －

I	調査概要	3
II	調査結果	9
1	お住まいの地域について	9
2	子どもと家族の状況について	10
3	子どもの育ちをめぐる環境について	15
4	保護者の就労状況について	24
5	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	39
6	地域の子育て支援事業の利用状況について	52
7	土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について	58
8	子どもが病気の際の対応について	65
9	不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	71
10	小学校就学後の放課後の過ごし方について	78
11	育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	85

I 調査概要

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、子ども・子育て支援新制度の施行に必要な電子システムの規模・仕様の確定及び市町村子ども・子育て支援事業計画の策定に必要な基礎資料の整備を行うことを目的とします。

2. 調査対象者

町内にお住まいの就学前のお子さん（平成19年4月2日以降生まれ） 1,820名

3. 調査方法

調査対象者に対して調査票を郵送配布し、郵送で回収。
葉書による督促を1回実施。

4. 調査期間

調査票発送 平成25年11月7日（木）
調査票回収期限 平成25年11月30日（土）

5. 調査内容

- ・お住まいの地域について
- ・子どもと家族の状況について
- ・子どもの育ちをめぐる環境について
- ・保護者の就労状況について
- ・平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について
- ・地域の子育て支援事業の利用状況について
- ・土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について
- ・子どもが病気の際の対応について
- ・不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について
- ・小学校就学後の放課後の過ごし方について
- ・育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

6. 調査票回収状況

配布数	回収数	有効票	無効票 (子どもの生年月 不明・対象外)	有効回収率
1,820件	1,151件	1,136件	15件	62.4%

7. 報告書中の表記について

- ・本調査は、町内在住の未就学児全員が対象となっているため、保護者は、対象となる子どもの人数分回答することになります。調査の設問には、子どもを特定し、その子どもについてたずねたものと、子どもを特定せずに保護者の考え方等をたずねたものが含まれます。後者については、ひとりの保護者が子どもの人数分の調査票を回答していることから、集計結果について、ある程度の幅をもって見る必要があります。
- ・構成比の算出にあたっては、総数から回答権のない数を減じた有効回答数（n）に対する当該解答数の割合としています。回答権がないとは、ある設問での選択によって、それに続く設問を回答する権利を失ったり、回答する必要がなくなる場合を指します。
- ・構成比は、小数点第2位を四捨五入した数値で表示しているため、合計が100.0%にならない場合があります。また、平均値についても、同様の処理をしていることから、各々の合計が合計欄の数値に一致しないことがあります。
- ・複数回答の設問については、回答比率の合計が100%に一致しません。
- ・本文中の就労形態で「フルタイム」は1週5日程度・1日8時間程度の就労、「パート・アルバイト等」はそれ以外の就労とします。
- ・本文中の子どもの年齢については、平成25年3月31日現在で表記しています（詳細は「子どもの年齢」に記載）。

図表 子どもの年齢の表記

表記	生年月
5歳	平成19年4月～20年3月
4歳	平成20年4月～21年3月
3歳	平成21年4月～22年3月
2歳	平成22年4月～23年3月
1歳	平成23年4月～24年3月
0歳	平成24年4月～25年9月

8. 用語の解説

用 語	
認可保育所	国が定める基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの。（葉山町では、葉山保育園・葉山にこにこ保育園）
認定こども園	保育施設と幼稚園が一体化した施設。（平成26年3月現在、葉山町にはありません。） 就学前の子どもに幼児教育・保育を提供し、地域における子育て支援などの機能も備える施設で4つのタイプがある。
幼保連携型	認可幼稚園と認可保育所とが一体的な運営を行うタイプ。
幼稚園型	認可幼稚園が、保育に欠ける子どものための保育時間を確保するなど、保育所的な機能を備えるタイプ。
保育園型	認可保育所が、保育に欠ける子ども以外の子どもを受け入れるなど、幼稚園的な機能を備えるタイプ。
地方裁量型	認可外の地域の教育・保育施設が認定子ども園の機能を果たすタイプ。
家庭的な保育	いわゆる保育ママなどと呼ばれ、保育者の家庭等で子どもを預かる事業。
事業所内保育施設	企業や病院において、会社、工場、病院などに設置され、事業所の従業員の子どものための保育施設。
認定保育施設	市区町村等自治体独自の認証・認定保育施設。神奈川県では認定保育施設と呼ばれています。（葉山町では、風の子保育園・おひさま保育室）
その他の保育施設	認可外の保育施設等。 例えば企業委託型保育サービスや駅前型保育施設、地域の共同保育所、ベビーホテルなど。
幼稚園	多くは満3歳から就学前まで、通常1日4時間の幼児教育を行っている。 （葉山町では、あおぞら幼稚園・あけの星幼稚園・どれみ幼稚園・明照幼稚園・御国幼稚園）
幼稚園の預かり保育	幼稚園で、通常の就園時間を延長して預かる事業。
居宅訪問型保育	ベビーシッターのような、保育者が保護者などの自宅に出向いて、保護者が不在の間子どもの世話をする事業。
ファミリーサポートセンター	地域住民による会員相互で子どもを預かる事業で、保護者の病気や介護等の事情での一時保育や、保育園・幼稚園・小学校等への送迎、保育施設の時間外の保育等に利用できる。

9. 他用語の説明

- 一時預かり : 買い物や習い事等、私用を含め、理由を問わずに、通常通園していない保育所などを一時的に利用できる事業。
- 病児・病後児保育 : 子どもが病気の時の保育。
- 地域子育て支援拠点事業 : 親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、つどいの広場や子育て支援センター等と呼ばれています。(葉山町では、「子育て支援センターぼけっと」と呼ばれています。)
- 認可外施設 : 例えば企業委託型保育事業や駅前型保育施設、地域の共同保育所、ベビーホテルなど。
- 学童クラブ : 放課後児童クラブや学童保育とも呼ばれ、保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員のもとで子どもの生活の場を提供するものです(葉山町では、青少年会館と3つの児童館で実施)。似たものに、すべての子どもを対象とする放課後子ども教室があります。
- 放課後子ども教室 : すべての子どもを対象として、安全・安心な子どもの居場所を提供し、地域の方々の協力を得て、勉強やスポーツの活動等の取組みをするものです。(平成26年3月現在、葉山町では未実施です。)

Ⅱ 調査結果

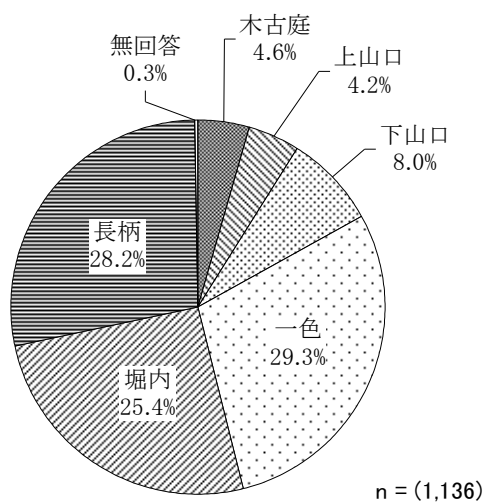
Ⅱ 調査結果

1 お住まいの地域について

(1) 居住地区

回答者の居住地区については、以下のとおりです。

図表 1-1 居住地区



2 子どもと家族の状況について

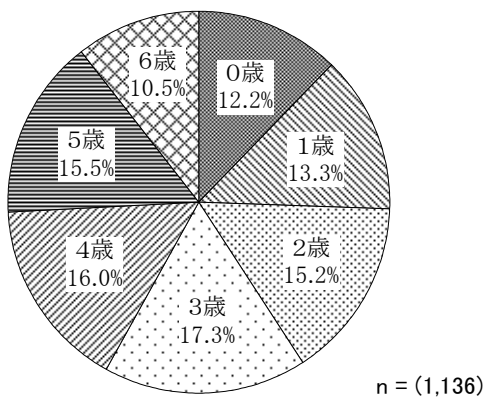
(1) 子どもの年齢

回答者の子どもの年齢は、調査地点（平成25年10月1日現在）で見ると、2歳から5歳がやや高くなっていますが、おおむね0歳から6歳が均等な割合となっています。

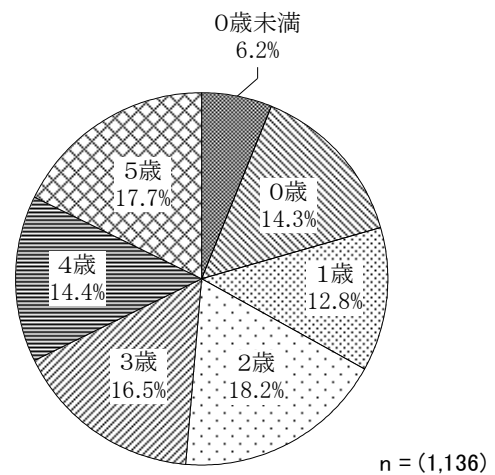
なお、この報告書では教育・保育事業の利用意向等についてふれているため、年齢別でみる場合には、上記の調査時の年齢ではなく、その年度を迎えた時満何歳か（学齢）を使用しています。また、「0歳未満」（平成25年3月31日時点でまだ生まれていなかった子ども）は「0歳」としています。

図表2-1 子どもの年齢

<年齢（平成25年10月1日現在）>



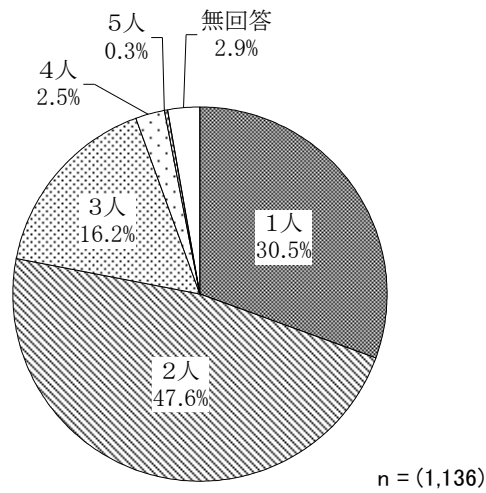
<学齢（平成25年3月31日現在）>



(2) きょうだいの人数

きょうだいの人数をたずねたところ、「2人」(47.6%)が半数弱を占め、「1人」(30.5%)、「3人」(16.2%)と続いています。また、2人以上は66.6%となっています。なお、平均は1.91人となっています。

図表 2-2 きょうだいの人数



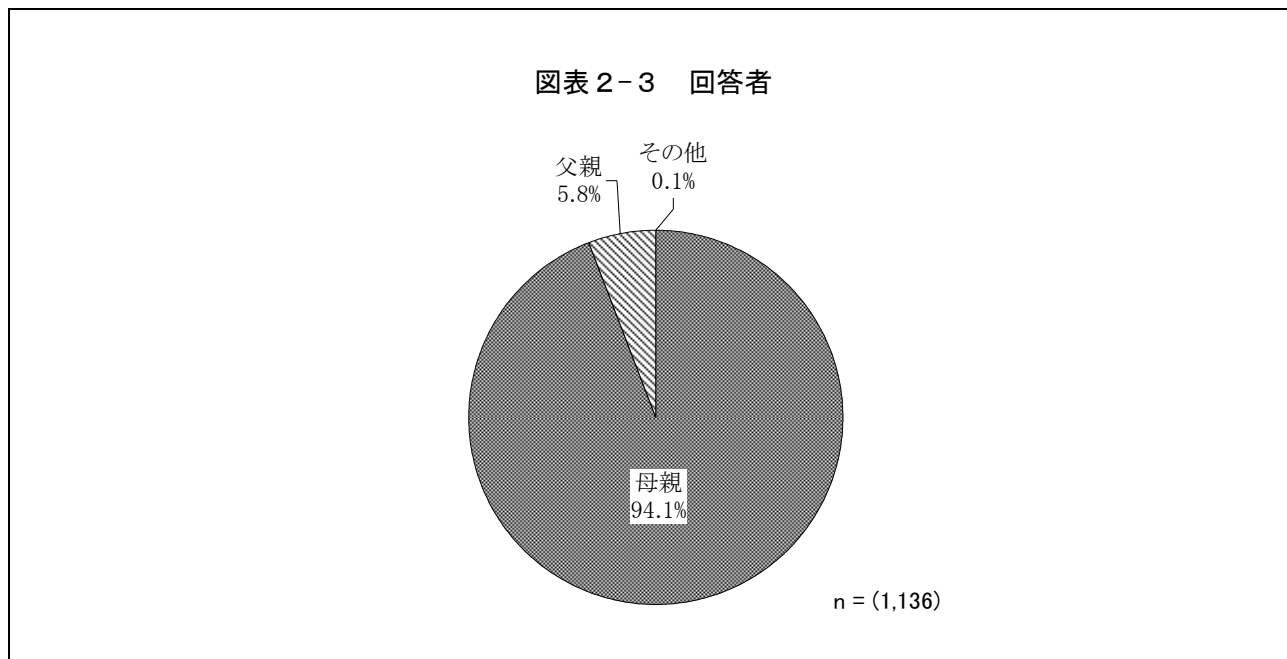
(2-1) きょうだいが多くて困っていること

きょうだいが2人以上と答えた方に、きょうだいが多くて困っていることを自由記入形式でたずねたところ、339人の方の記入がありました。1人の方が複数の内容を記入している場合もあるため、意見の総件数は448件となっています。以下は意見を内容ごとにまとめたものです。

内 容	回答数	構成比
<経済的問題>	145	32.4%
総合的にお金がかかる	47	10.5%
学費や習い事に費用がかかる	43	9.6%
生活費がかかる	26	5.8%
保育費がかかる	23	5.1%
医療費や予防接種にお金がかかる	6	1.3%
<子どもの日常生活上の問題>	134	29.9%
けんかや物の取り合いをする	44	9.8%
1人1人にじっくり向き合えない	27	6.0%
スケジュールが違う、行事が重なる	20	4.5%
上の子にかまってあげられない	16	3.6%
1人が病気になると他の子にうつる	10	2.2%
子どもによって生活リズムが違う	7	1.6%
上の子の都合に合わせてしまう	4	0.9%
遊び方が違う、どの子に合わせればよいかわからない	3	0.7%
物が多い、散らかる	3	0.7%
<親の身体的・精神的な負担>	72	16.1%
外出や買い物が大変	27	6.0%
忙しい、家事がはかどらない、自由時間がない	13	2.9%
通院が大変	10	2.2%
保育施設や習い事の送迎が大変	7	1.6%
同時にぐずったり泣かれると大変	7	1.6%
食事(外食など)が大変	6	1.3%
親が身体的・精神的に大変	2	0.4%
<子どもの預かり先>	51	11.4%
1人の予定に他の子を付き合わせるのが大変、預け先がない	21	4.7%
保育所などが少ない、きょうだいで同じ施設に入れない	16	3.6%
子どもが病気の時の対応が大変、預け先がない	10	2.2%
親の用事などの際の一時的な預け先がない	4	0.9%
<環境面の問題>	18	4.0%
家や部屋が狭い、部屋が少ない	9	2.0%
子どもが遊ぶ場所がない、利用しにくい	9	2.0%
その他	13	2.9%
特にない、良いことの方が多い	15	3.3%
計	448	100.0%

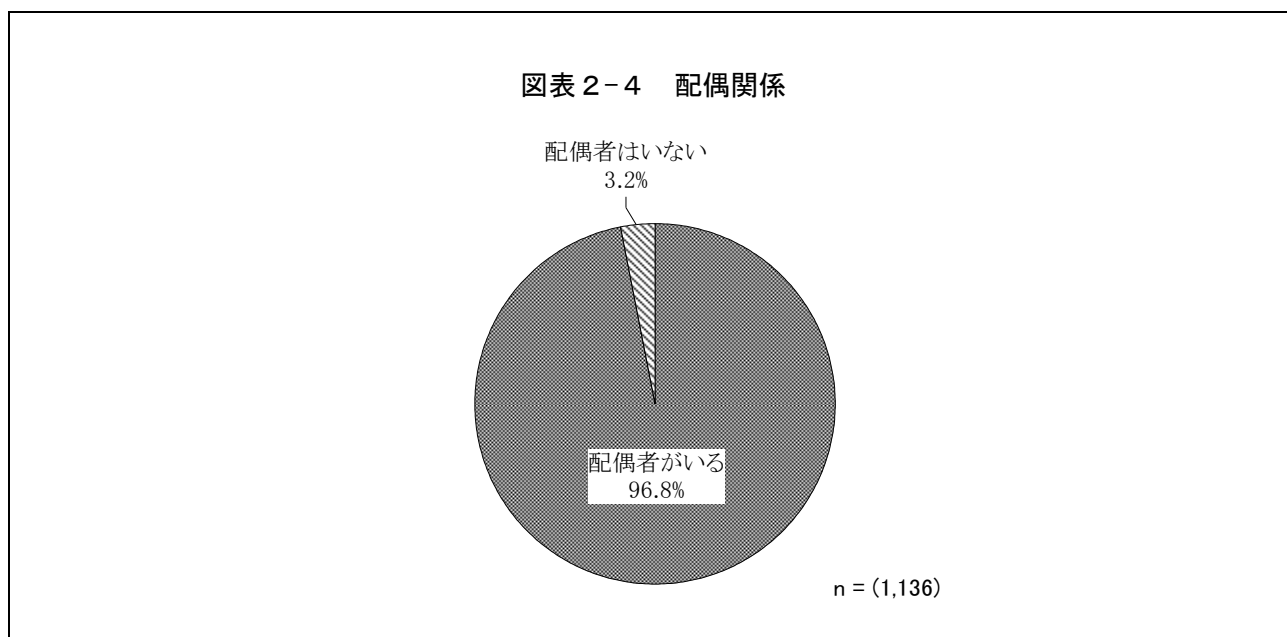
(3) 回答者

回答者をたずねたところ、「母親」が94.1%を占め、「父親」は5.8%となっています。



(4) 配偶関係

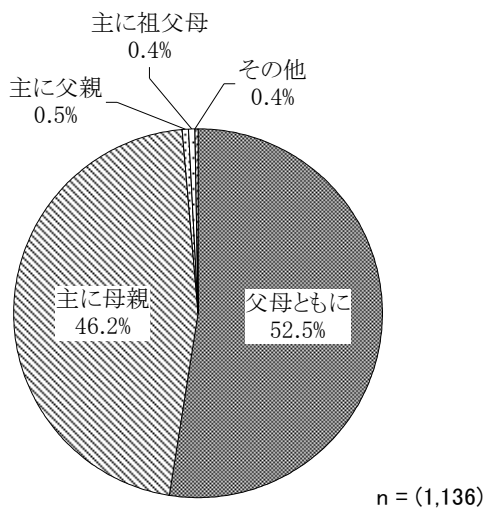
配偶関係をたずねたところ、「配偶者がいる」が96.8%を占め、「配偶者はいない」は3.2%となっています。



(5) 家庭内での子育て分担状況

家庭内での子育て分担状況についてたずねたところ、「父母ともに」(52.5%)と「主に母親」(46.2%)がほぼ半々となっており、「主に父親」(0.5%)などの回答はほとんどありません。

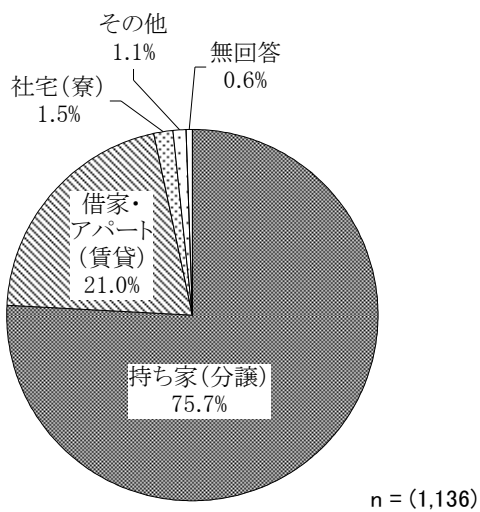
図表 2-5 家庭内での子育て分担状況



(6) 住居の形態

住居の形態をたずねたところ、「持ち家(分譲)」(75.7%)が4分の3を占め、「借家・アパート(賃貸)」(21.0%)が約2割となっています。

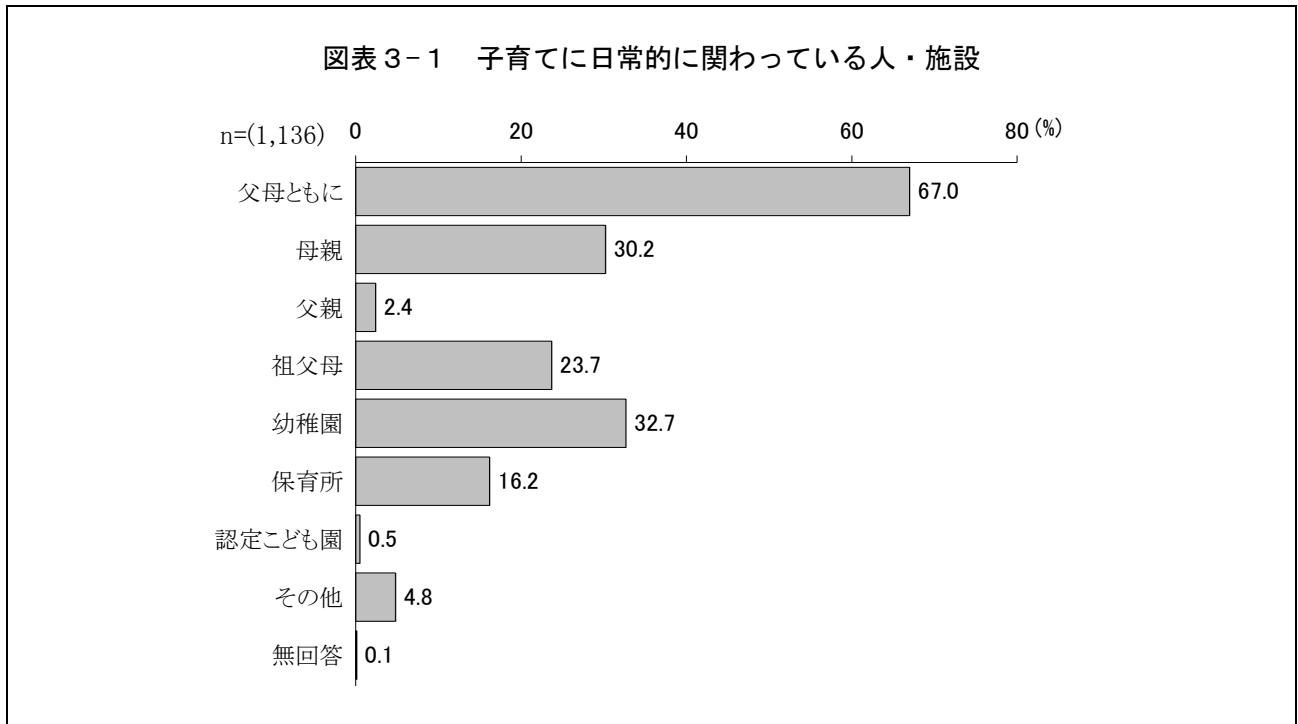
図表 2-6 住居の形態



3 子どもの育ちをめぐる環境について

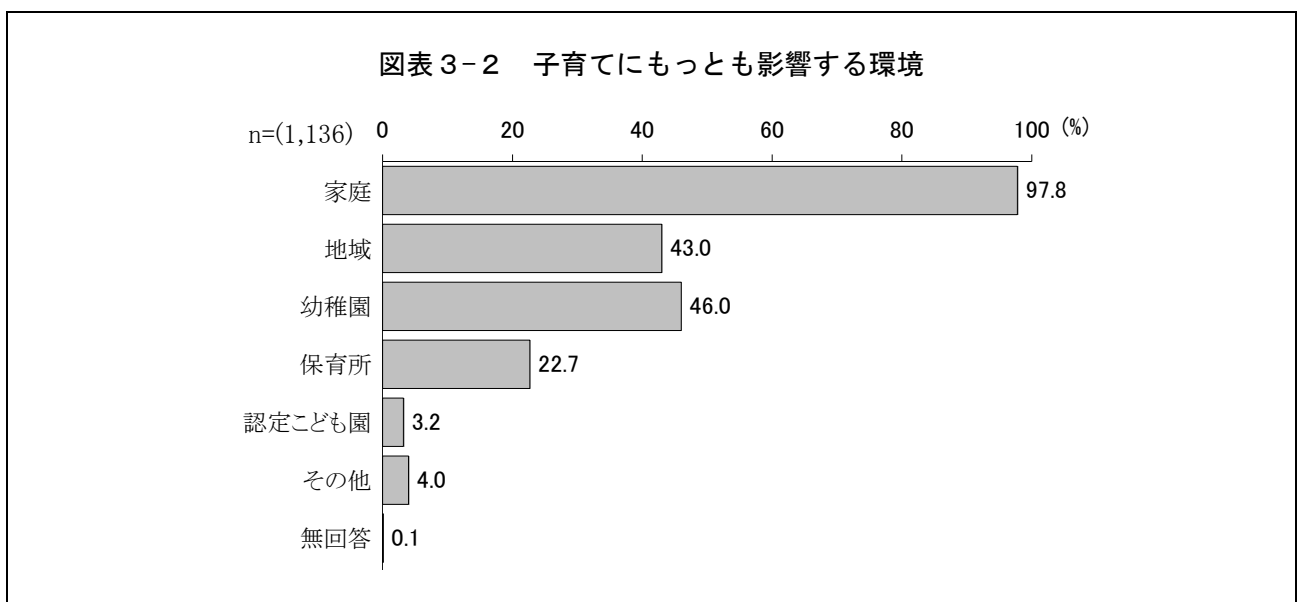
(1) 子育てに日常的に関わっている人・施設

子育てに日常的に関わっている人や施設を複数回答でたずねたところ、「父母ともに」(67.0%)が7割近くで最も高く、「幼稚園」(32.7%)と「母親」(30.2%)が約3割、以下、「祖父母」(23.7%)、「保育所」(16.2%)などが続いています。



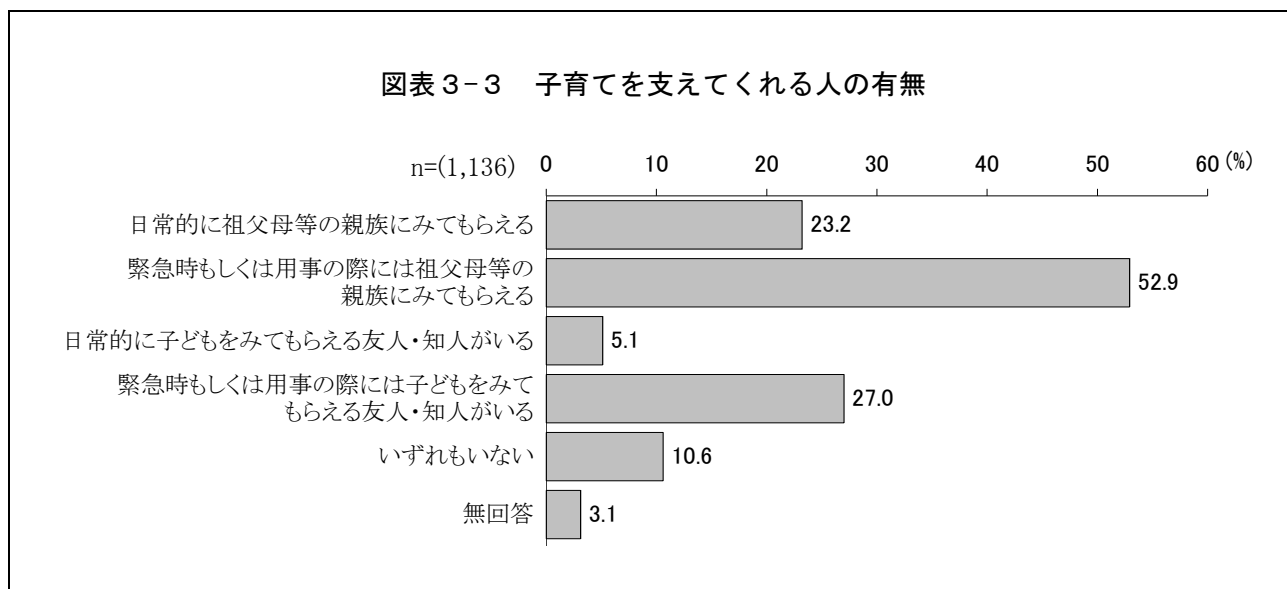
(2) 子育てにもっとも影響する環境

子育てにもっとも影響する環境を複数回答でたずねたところ、「家庭」(97.8%)がほぼ全数となっています。以下、「幼稚園」(46.0%)と「地域」(43.0%)が4割台、「保育所」(22.7%)などと続いています。



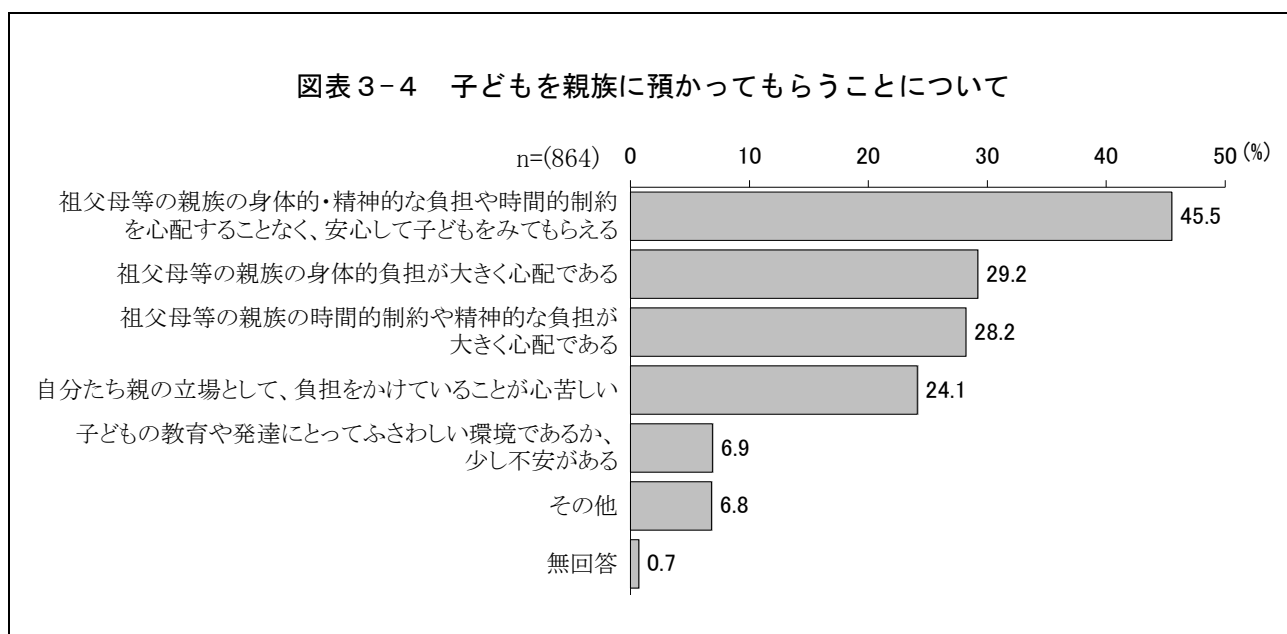
(3) 子育てを支えてくれる人の有無

子育てを支えてくれる人の有無を複数回答でたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(52.9%)が過半数で最も高く、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(27.0%)、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(23.2%)と続いています。一方、「いずれもない」は10.6%となっています。



(3-1) 子どもを親族に預かってもらうことについて

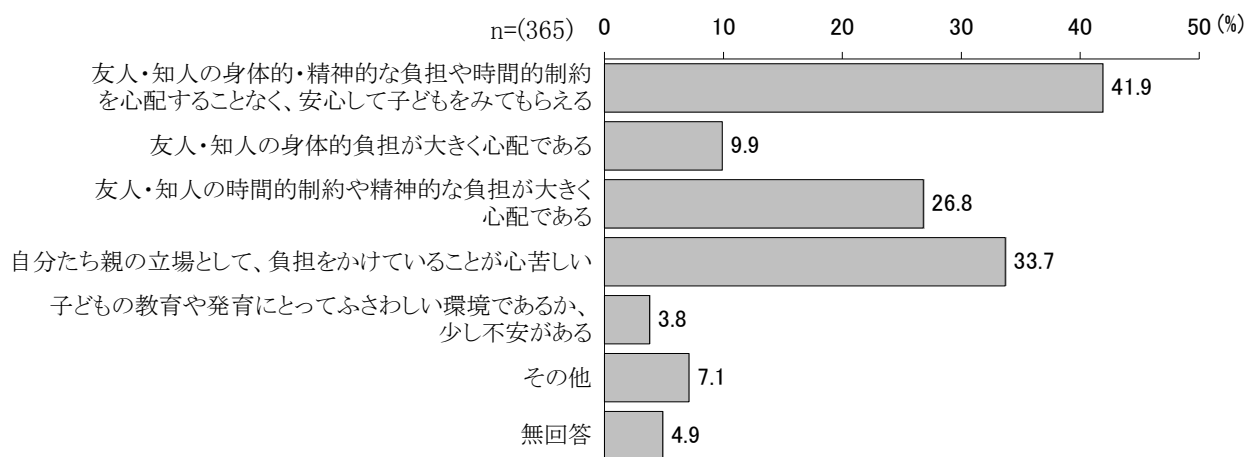
子どもを祖父母等の親族にみてもらえる人に、みてもらう場合の心配事などについて複数回答でたずねたところ、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(45.5%)が半数弱で最も高く、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(29.2%)、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(28.2%)、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(24.2%)と続いています。



(3-2) 子どもを友人・知人に預かってもらうことについて

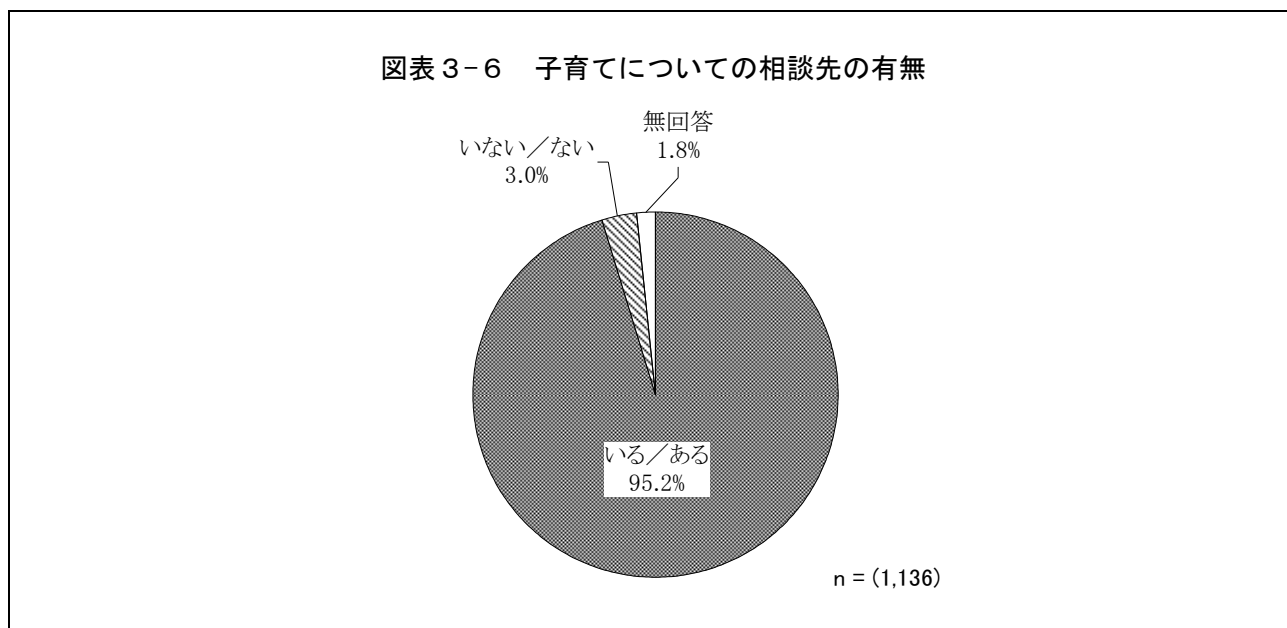
子どもを友人・知人にみてもらえる人に、みてもらう場合の心配事などについて複数回答でたずねたところ、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(41.9%)が4割強で最も高く、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(33.7%)、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(26.8%)と続いています。

図表3-5 子どもを友人・知人に預かってもらうことについて



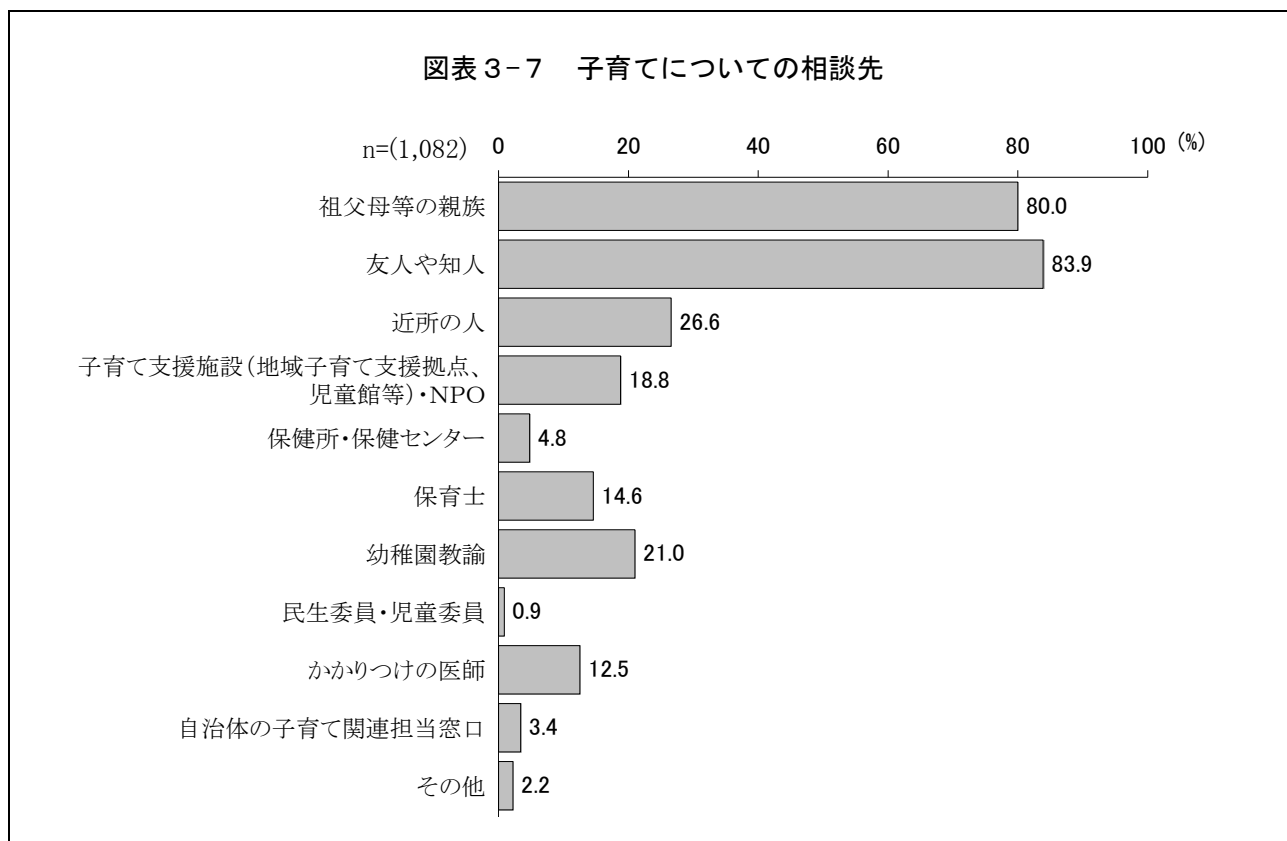
(4) 子育てについての相談先の有無

子育てについての相談先の有無をたずねたところ、「いる／ある」(95.2%)が9割以上を占め、「いない／ない」は3.0%となっています。



(4-1) 子育てについての相談先

相談先がいる／ある人の具体的な相談先は、「友人や知人」(83.9%)と「祖父母等の親族」(80.0%)が8割を超えて特に高くなっています。以下、「近所の人」(26.6%)、「幼稚園教諭」(21.0%)、「子育て支援施設(地域子育て支援拠点、児童館等)・NPO」(18.8%)などと続いています。



(5) 子育てする上での周囲からのサポート

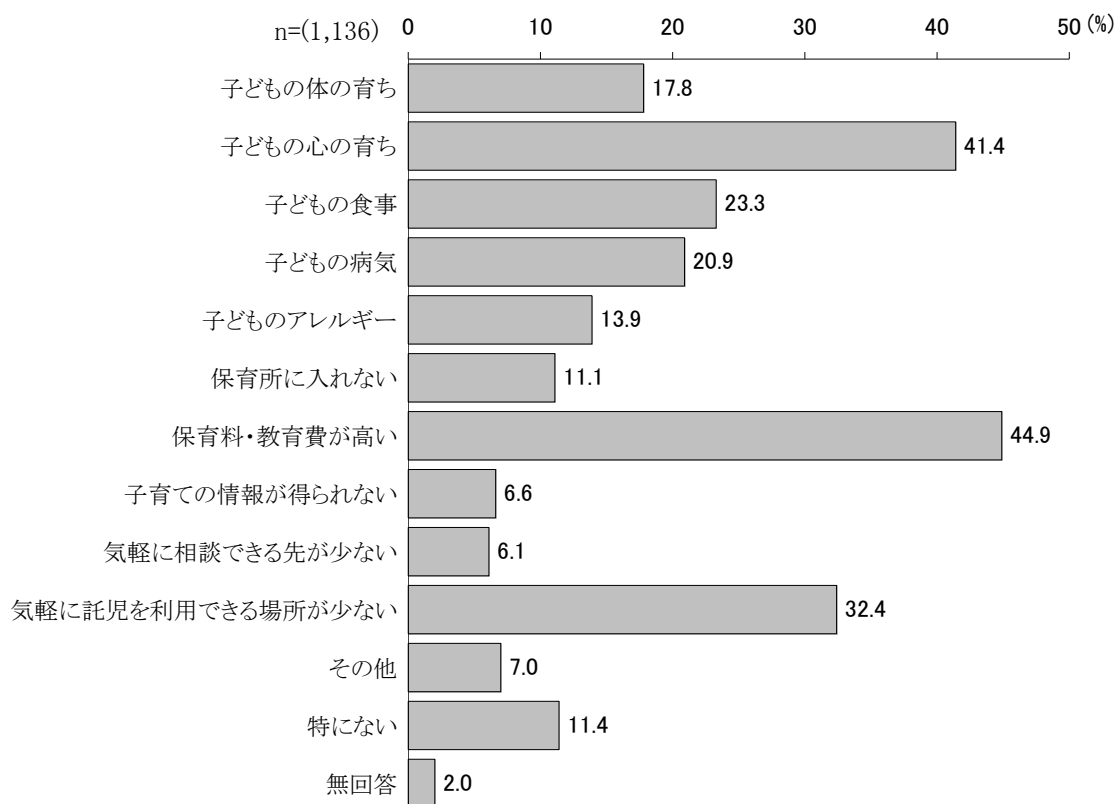
子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者）からどのようなサポートがあればよいかを自由記入形式でたずねたところ、449人の方の記入がありました。1人の方が複数の内容を記入している場合もあるため、意見の総件数は547件となっています。以下は意見を内容ごとにまとめたものです。

内 容	回答数	構成比
一時預かりの充実	161	29.4%
育児相談、アドバイスなど精神的サポート	98	17.9%
子育て交流の場の提供・充実	33	6.0%
地域や行政からの親や子どもに対する見守り、声掛け	33	6.0%
病児・病後児保育の充実	24	4.4%
経済的援助の充実	20	3.7%
情報提供の充実	18	3.3%
公園・広場など屋外で遊べる場所の充実	18	3.3%
児童館など屋内で遊べる場所の充実	14	2.6%
保育所の増設、待機児童の解消	14	2.6%
子育て講座の開催	10	1.8%
子育てイベントの開催	8	1.5%
放課後児童クラブ（学童保育）や小学生の預かり事業の充実	8	1.5%
家事代行サービスの充実	7	1.3%
保育施設や習い事等への送迎サービス	7	1.3%
家庭訪問の充実	6	1.1%
健診についての要望	6	1.1%
交通インフラの整備	6	1.1%
土日・祝日の保育の充実	5	0.9%
長期休暇中の保育の充実	4	0.7%
防犯対策	2	0.4%
その他	32	5.9%
満足している、十分、特に必要ない	13	2.4%
計	547	100.0%

(6) 子育てする上で不安に感じている、困っていること

子育てする上で不安に感じていることや困っていることを複数回答でたずねたところ、「保育料・教育費が高い」(44.9%)と「子どもの心の育ち」(41.4%)が4割を超えて高くなっています。以下、「気軽に託児を利用できる場所が少ない」(32.4%)、「子どもの食事」(23.3%)、「子どもの病気」(20.9%)などと続いています。

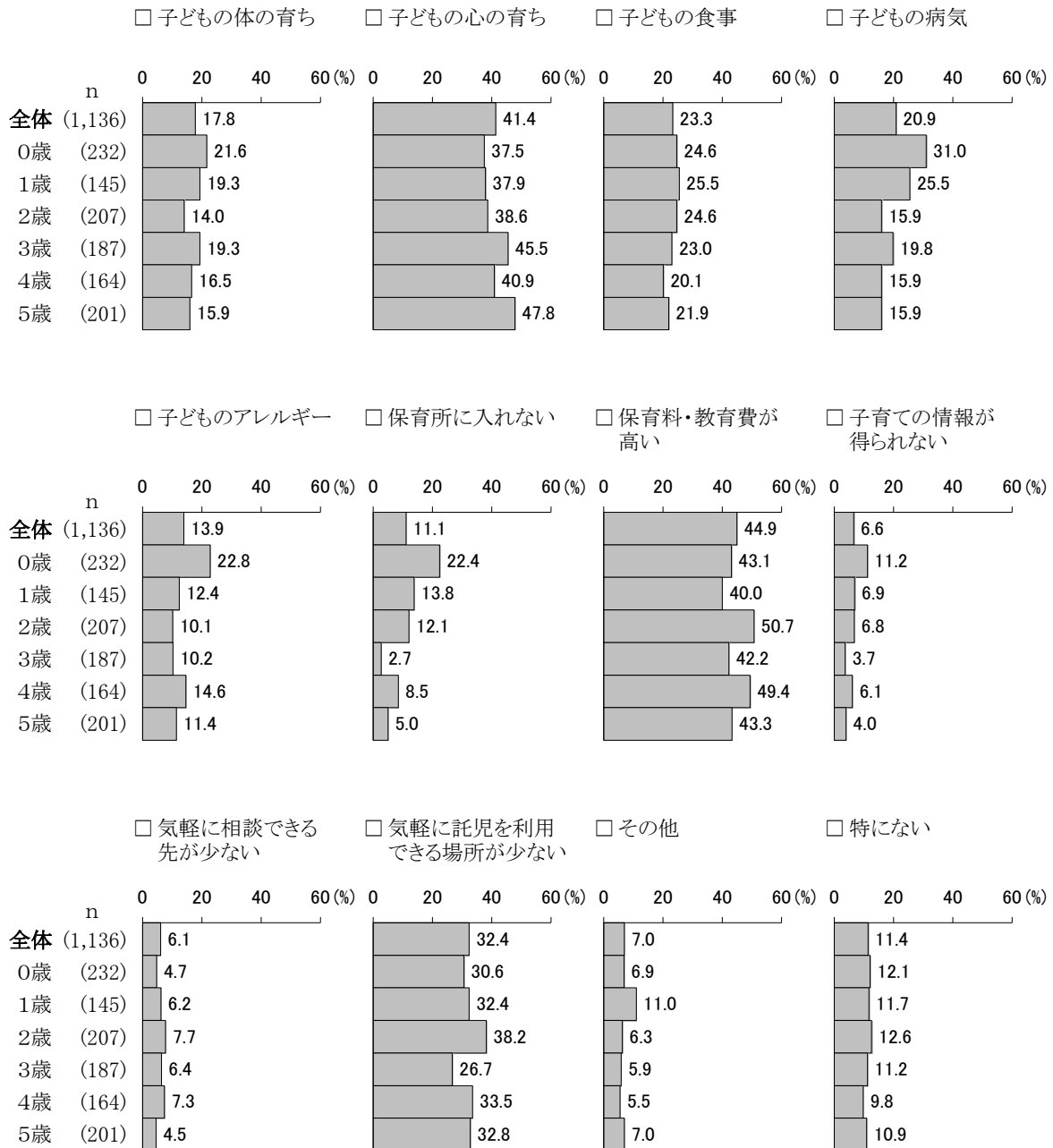
図表 3-8 子育てする上で不安に感じている、困っていること



■ 子どもの年齢別

子どもの年齢別にみると、「子どもの病気」、「子どものアレルギー」、「保育所に入れない」は0歳で最も高く、年齢が上がると低くなる傾向がみられます。一方、「子どもの心の育ち」は3歳以降で4割を超えて高くなっています。

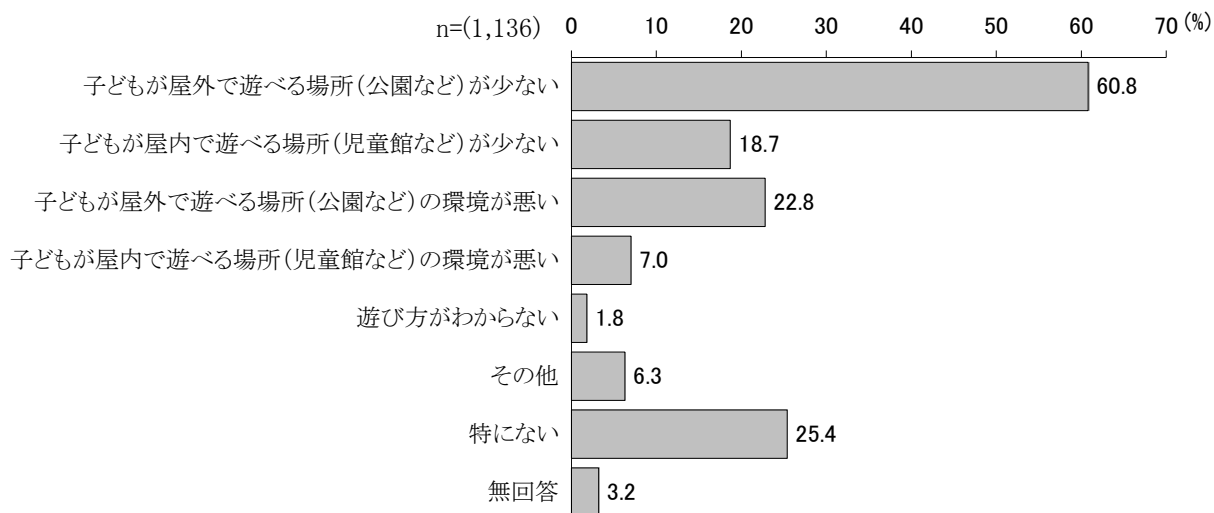
図表3-9 子育てする上で不安に感じている、困っていること - 子どもの年齢別



(7) 子どもの遊びの環境について困っていること

子どもの遊びの環境について困っていることを複数回答でたずねたところ、「子どもが屋外で遊べる場所（公園など）が少ない」（60.8%）が約6割で最も高くなっています。以下、「子どもが屋外で遊べる場所（公園など）の環境が悪い」（22.8%）、「子どもが屋内で遊べる場所（児童館など）が少ない」（18.7%）などと続いています。一方、「特にない」は25.4%となっています。

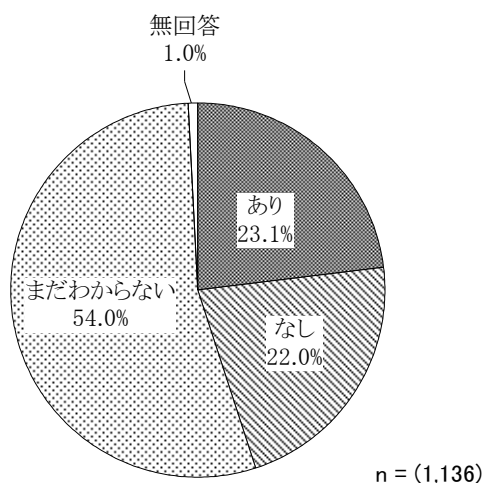
図表3-10 子どもの遊びの環境について困っていること



(8) 子育ての担い手をしてみたい気持ちの有無

子育ての担い手をしてみたい気持ちをたずねたところ、「まだわからない」(54.0%)が過半数を占め、「あり」(23.1%)と「なし」(22.0%)はいずれも2割強となっています。

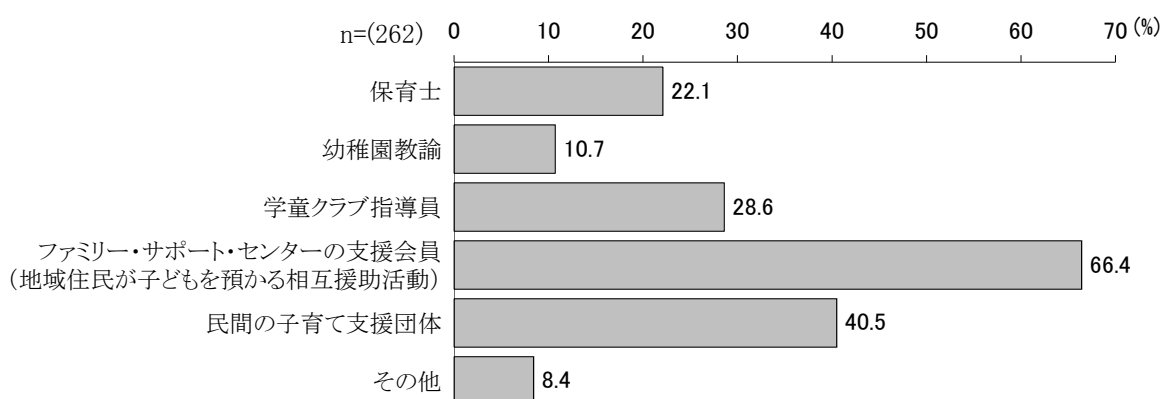
図表 3-11 子育ての担い手をしてみたい気持ちの有無



(8-1) 子育ての担い手としての関り方

子育ての担い手をしてみたい人に、具体的な関り方を複数回答でたずねたところ、「ファミリー・サポート・センターの支援会員（地域住民が子どもを預かる相互援助活動）」(66.4%)が6割台半ばで最も高く、以下、「民間の子育て支援団体」(40.5%)、「学童クラブ指導員」(28.6%)などと続いています。

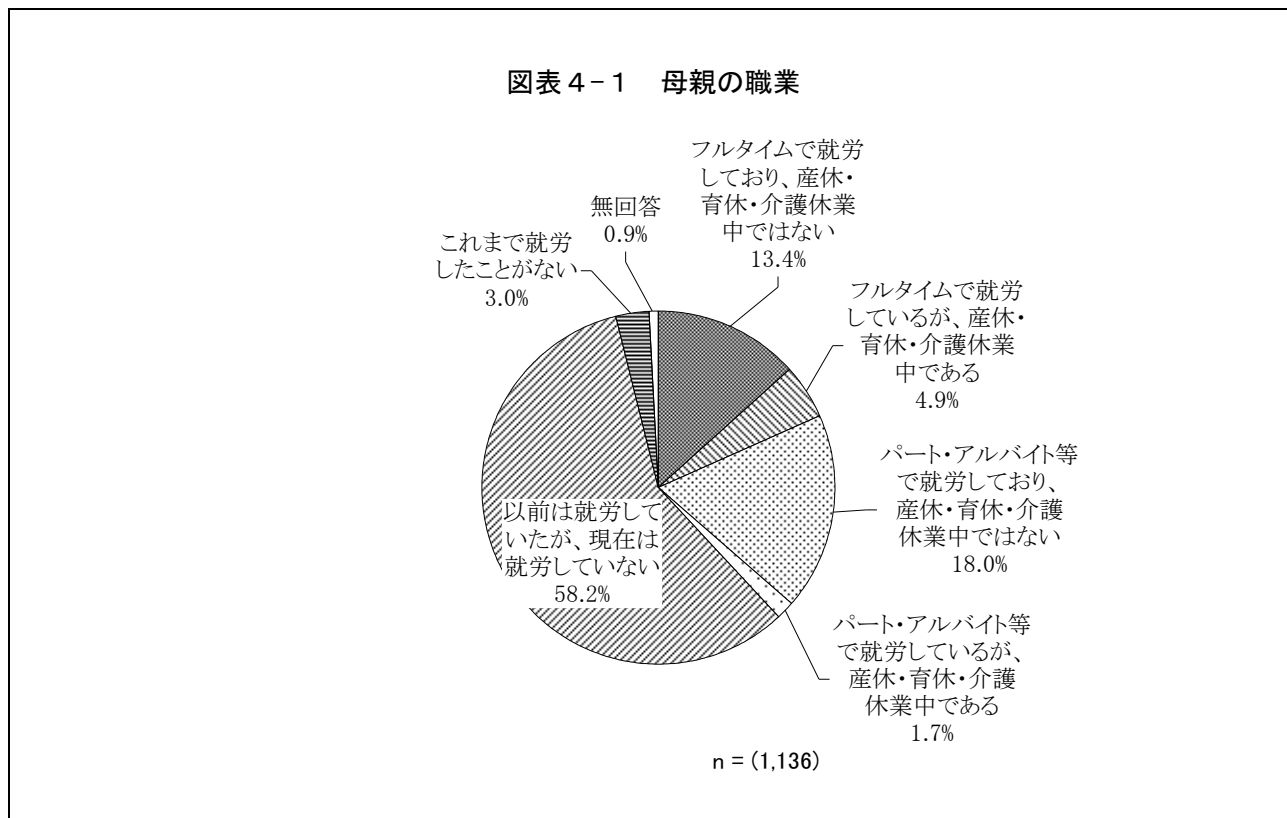
図表 3-12 子育ての担い手としての関り方



4 保護者の就労状況について

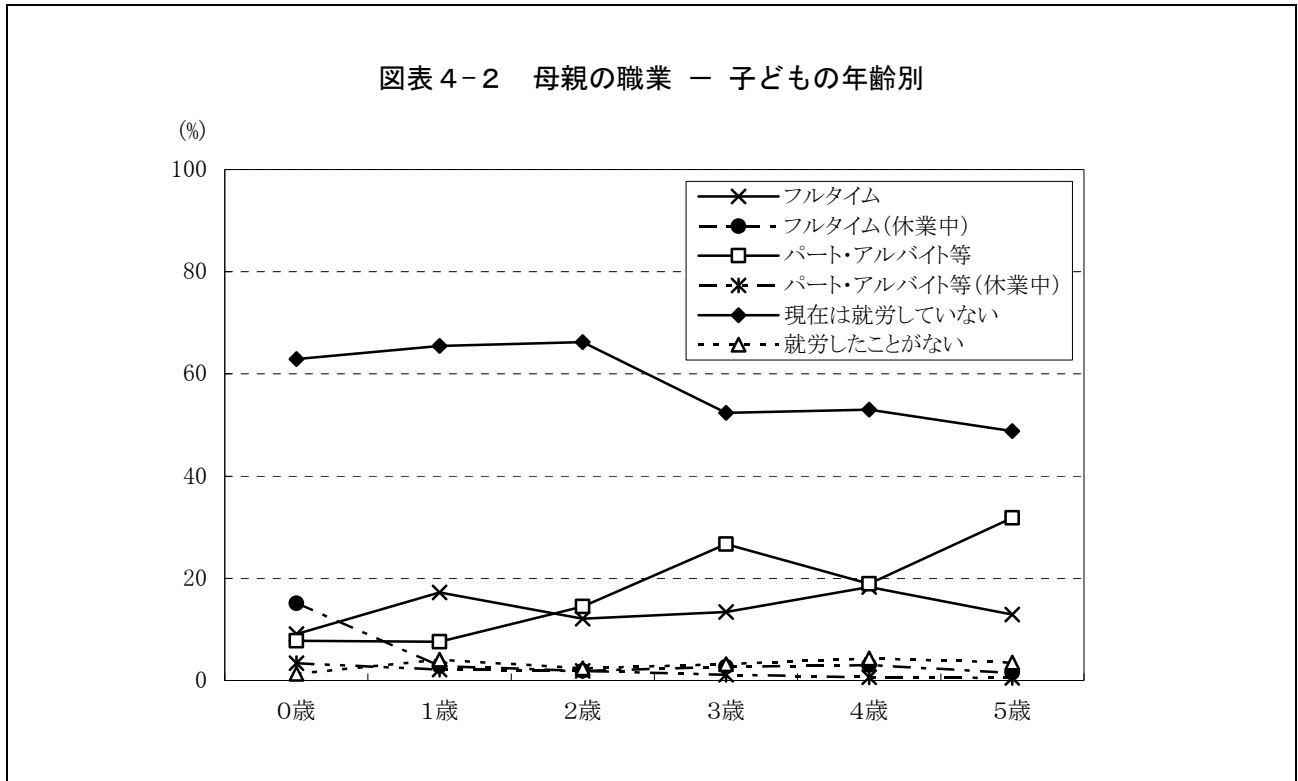
(1) 母親の職業

母親の就労状況をたずねたところ、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(58.2%)が6割近くを占めています。以下、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(18.0%)、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(13.4%)などとなっています。



■ 子どもの年齢別

子どもの年齢別にみると、「現在は就労していない」は2歳までで6割を超えて高く、3歳以降で減少しています。一方、「パート・アルバイト等」は3歳にかけて上昇し、4歳で減少しますが5歳で再び増加しています。

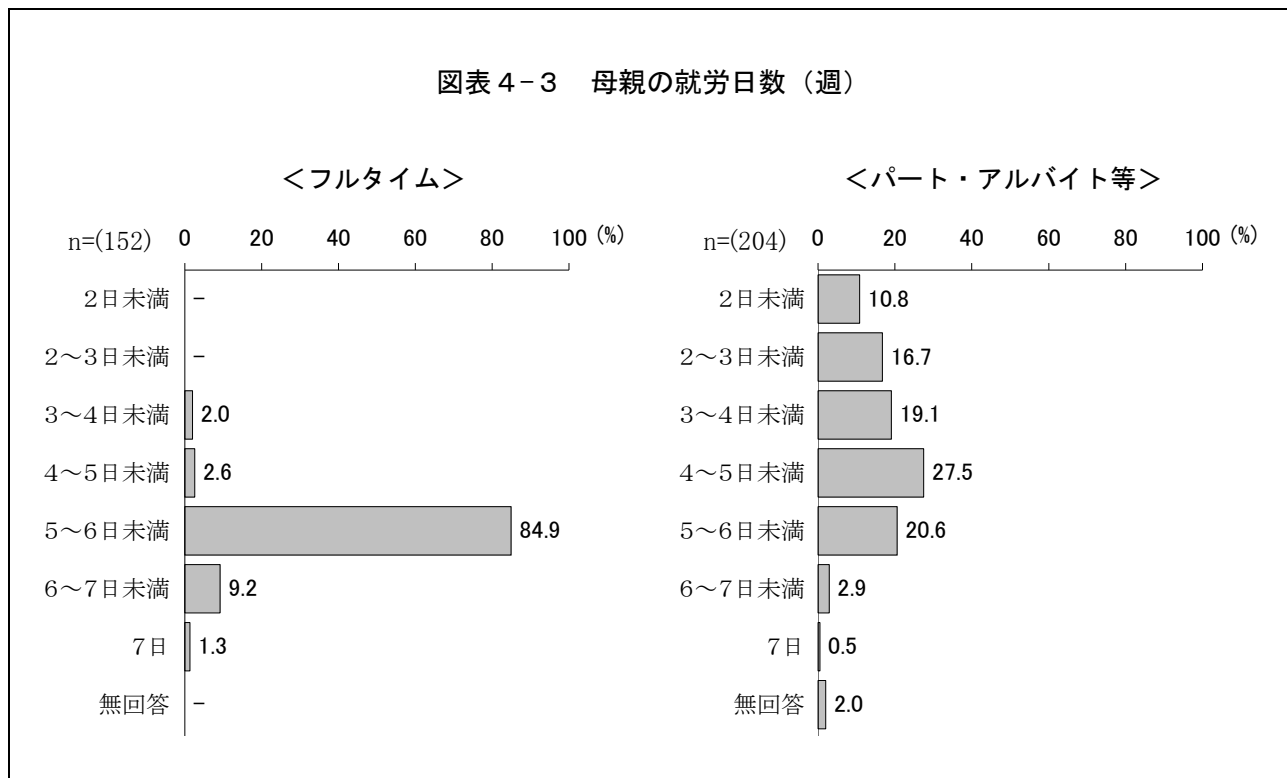


(1-1) 母親の就労日数

就労日数をたずねたところ、フルタイムでは、週「5～6日未満」(84.9%)が8割台半ばを占めており、平均日数は5.07日となっています。

パート・アルバイト等では、週「4～5日未満」(27.5%)が最も高く、「5～6日未満」(20.6%)、「3～4日未満」(19.1%)、「2～3日未満」(16.7%)と続いており、平均日数は3.43日となっています。

図表 4-3 母親の就労日数 (週)

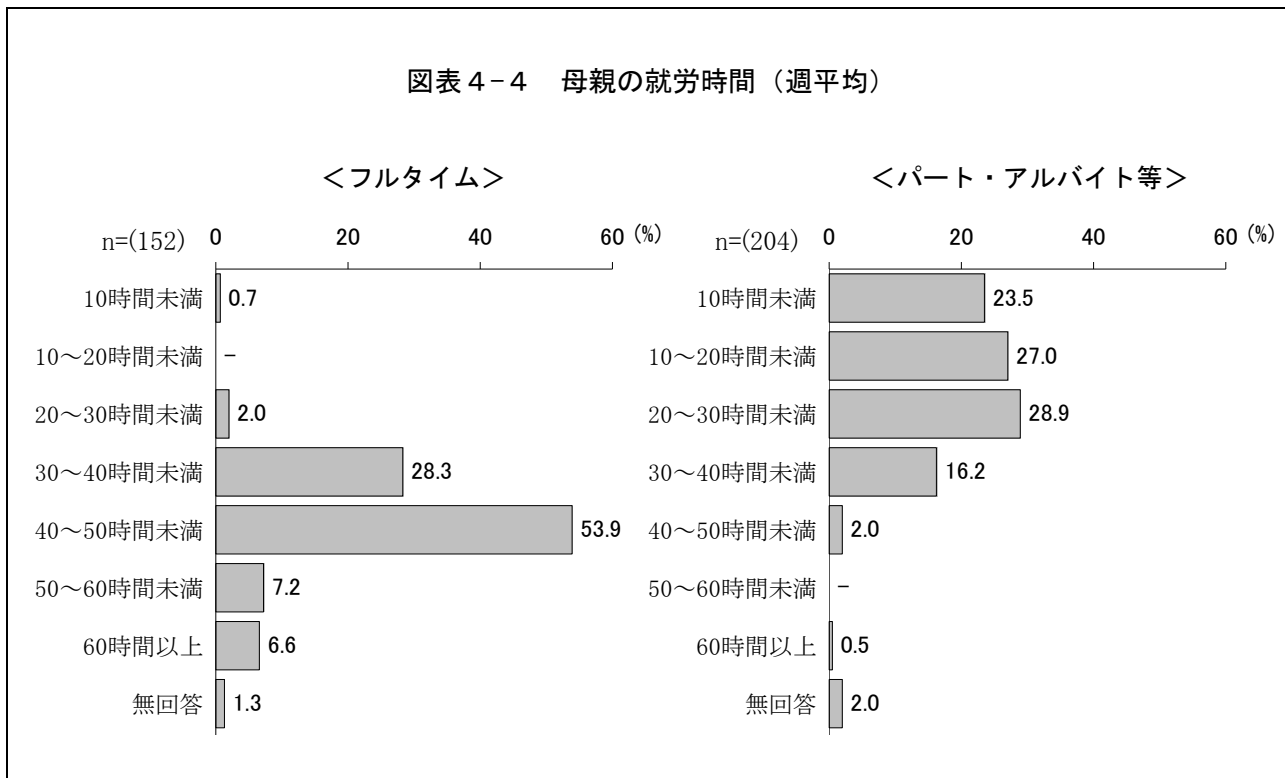


(1-2) 母親の就労時間

就労時間をたずねたところ、フルタイムでは、週平均「40～50時間未満」(53.9%)が過半数を占めており、平均就労時間は40時間41分となっています。

パート・アルバイト等では、週平均「20～30時間未満」(28.9%)が最も高く、「10～20時間未満」(27.0%)、「10時間未満」(23.5%)と続いており、平均就労時間は18時間37分となっています。

図表 4-4 母親の就労時間（週平均）

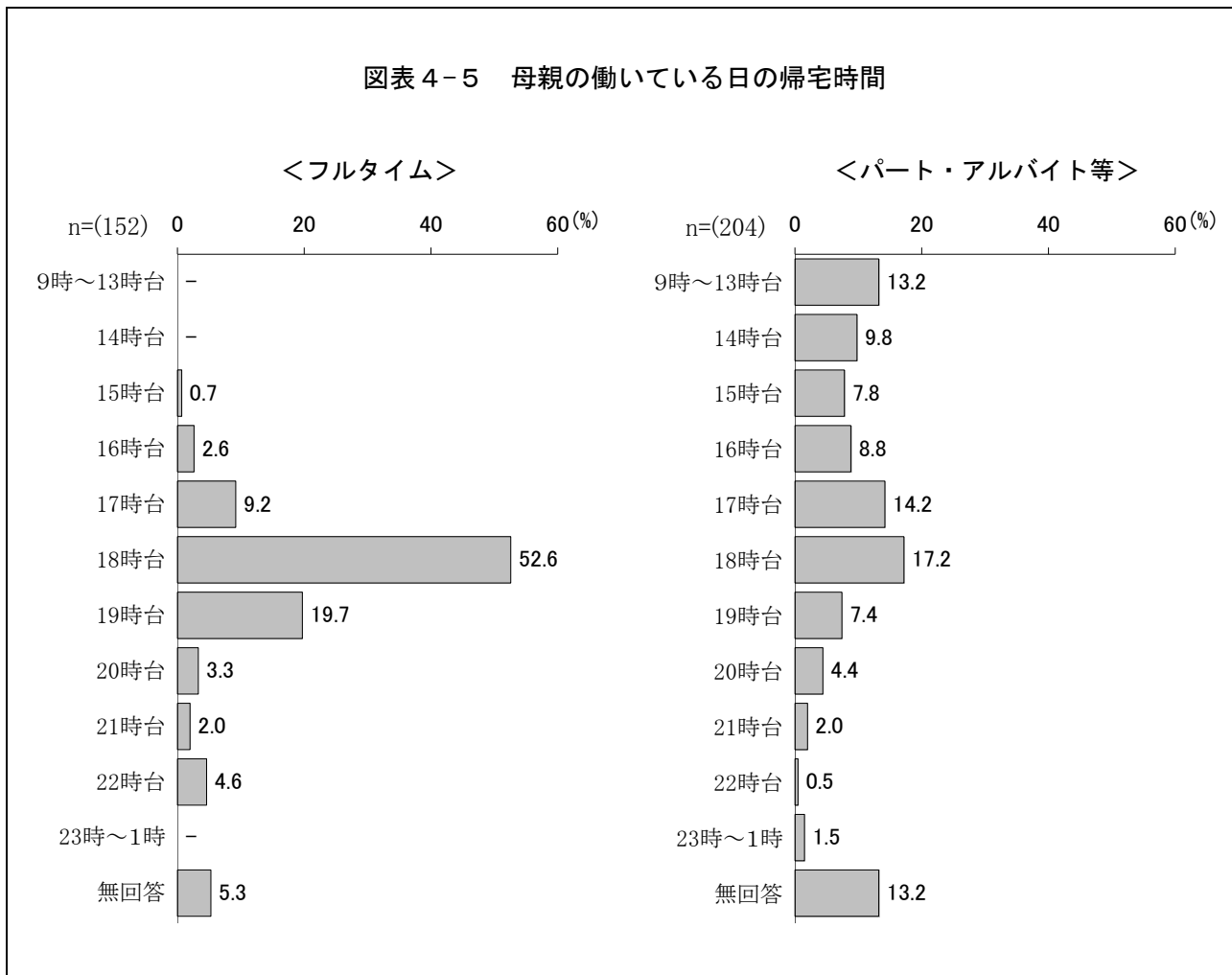


(1-3) 母親の働いている日の帰宅時刻

働いている日の平均帰宅時刻をたずねたところ、フルタイムでは「18時台」(52.6%)が過半数を占め、「19時台」(19.7%)、「17時台」(9.2%)などと続いており、平均時刻は18時22分となっています。

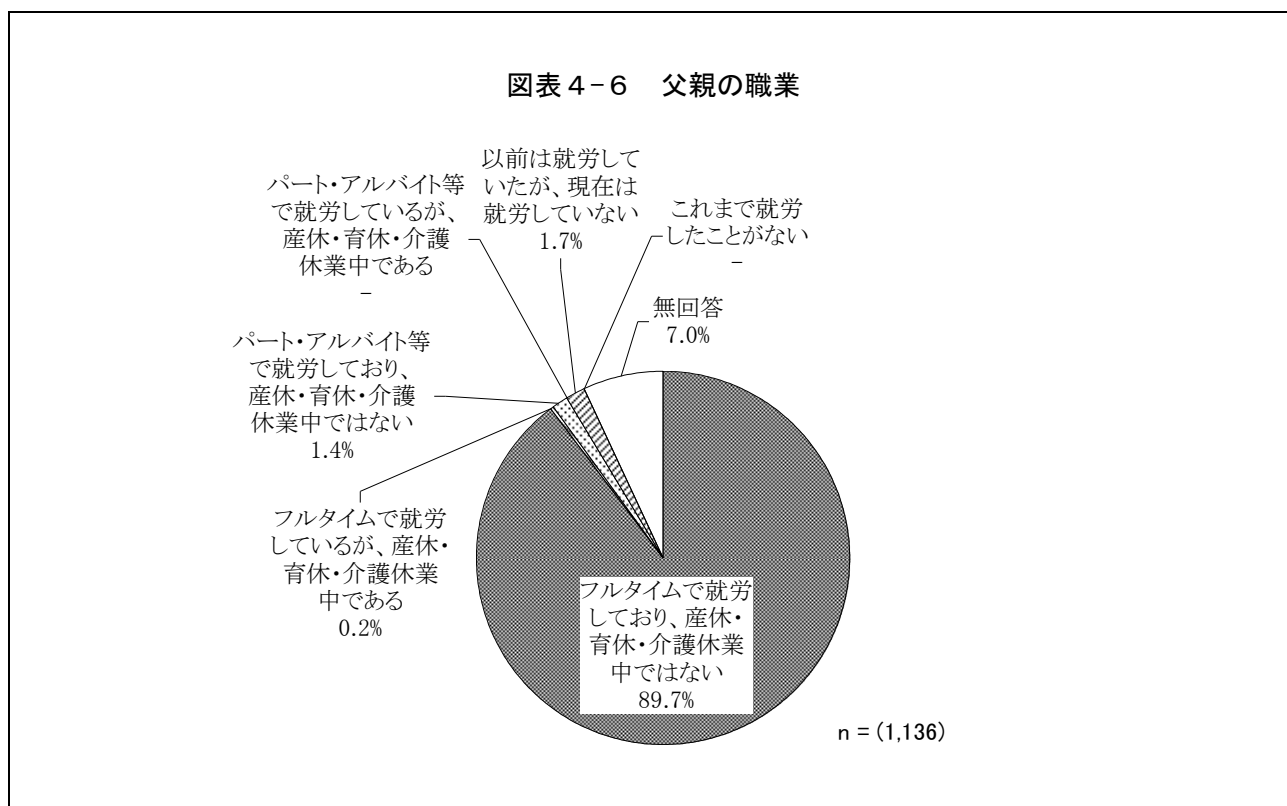
パート・アルバイト等では「18時台」(17.2%)が最も多く、「17時台」(14.2%)、「9時～13時台」(13.2%)と続いており、平均時刻は16時07分となっています。

図表 4-5 母親の働いている日の帰宅時間



(2) 父親の職業

父親の就労状況をたずねたところ、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(89.7%) が約9割を占めており、その他の項目はわずかとなっています。

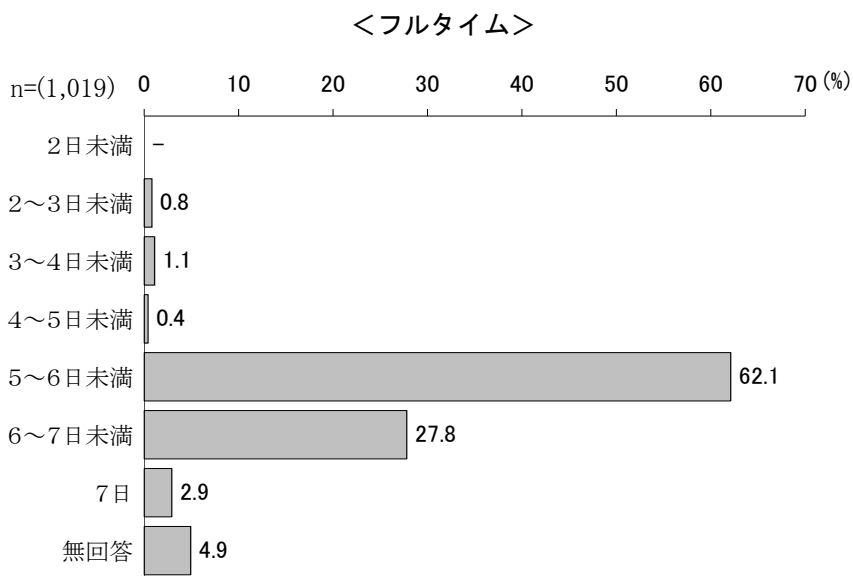


(2-1) 父親の就労日数

就労日数をたずねたところ、フルタイムでは、週「5～6日未満」(62.1%)が6割以上を占め、「6～7日未満」が27.8%で続いており、平均日数は5.31日となっています。

パート・アルバイト等は、回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表 4-7 父親の就労日数 (週)



<パート・アルバイト等>

(人)

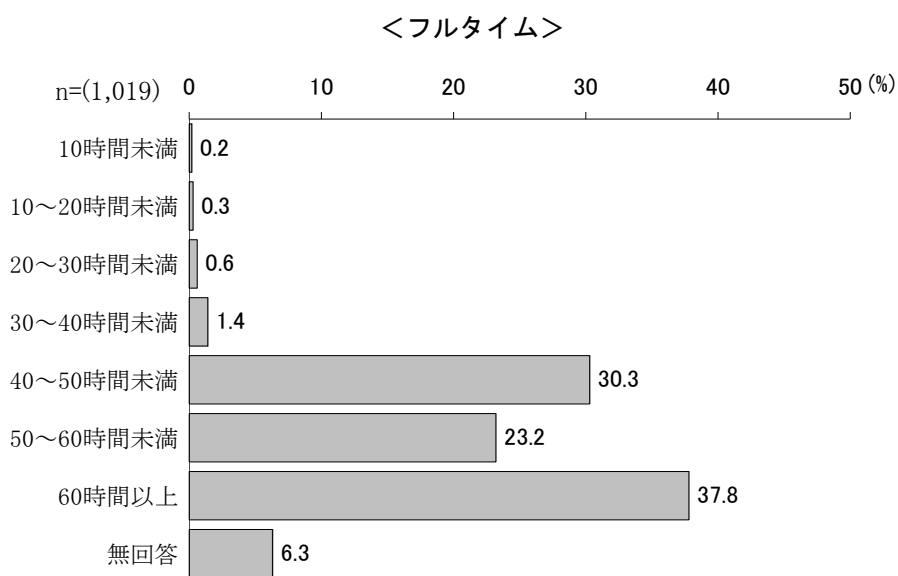
n	2日未満	未満 2 3日	未満 3 4日	未満 4 5日	未満 5 6日	未満 6 7日	7日	無回答	平均
16	-	5	2	1	3	1	-	4	3.42日

(2-2) 父親の就労時間

就労時間をたずねたところ、フルタイムでは、週平均「60時間以上」(37.8%)が4割近くで最も高く、「40～50時間未満」(30.3%)、「50～60時間未満」(23.2%)と続いており、平均就労時間は54時間47分となっています。

パート・アルバイト等は、回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表 4-8 父親の就労時間 (週平均)



<パート・アルバイト等>

(人)

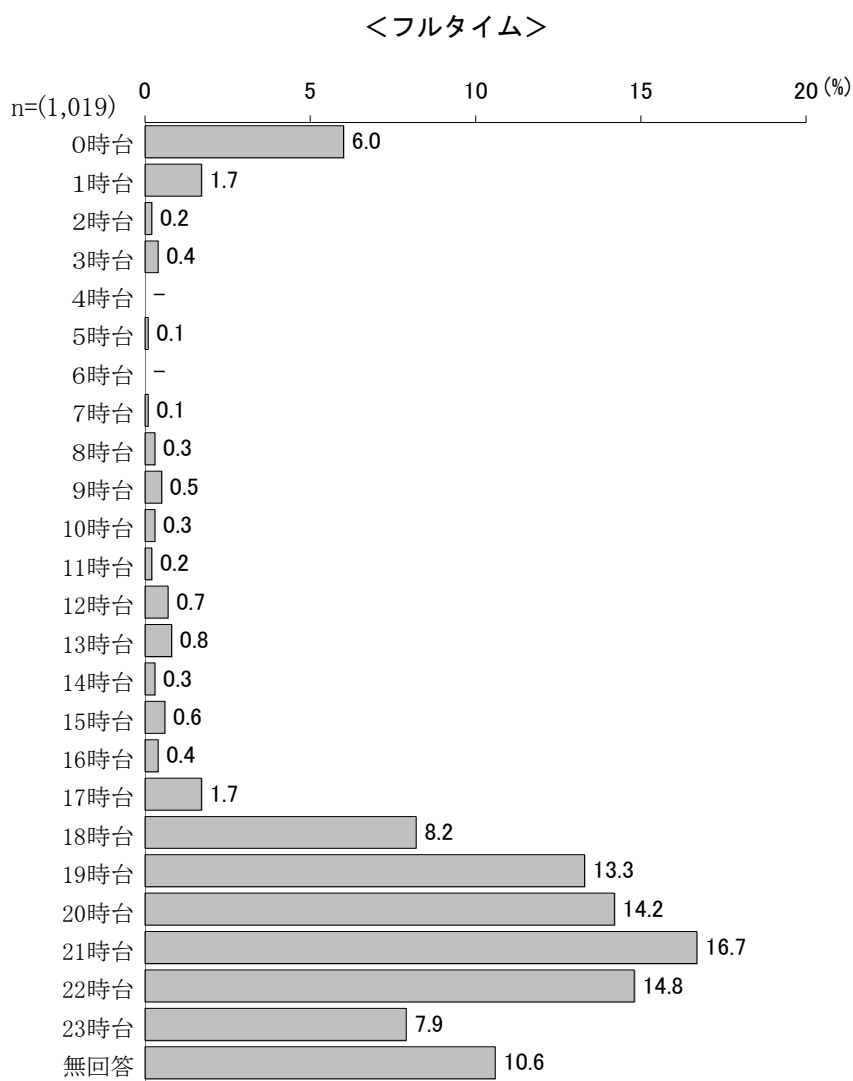
n	10時間未満	10時間未満～20時間未満	20時間未満～30時間未満	30時間未満～40時間未満	40時間未満～50時間未満	50時間未満～60時間未満	60時間以上	無回答	平均
16	-	3	3	2	2	2	-	4	30時間49分

(2-3) 父親の働いている日の帰宅時刻

働いている日の平均帰宅時刻をたずねたところ、フルタイムでは「21時台」(16.7%)が最も高く、「22時台」(14.8%)、「20時台」(14.2%)、「19時台」(13.3%)などと続いています。

パート・アルバイト等は、回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表 4-9 父親の働いている日の帰宅時刻



<パート・アルバイト等>

(人)

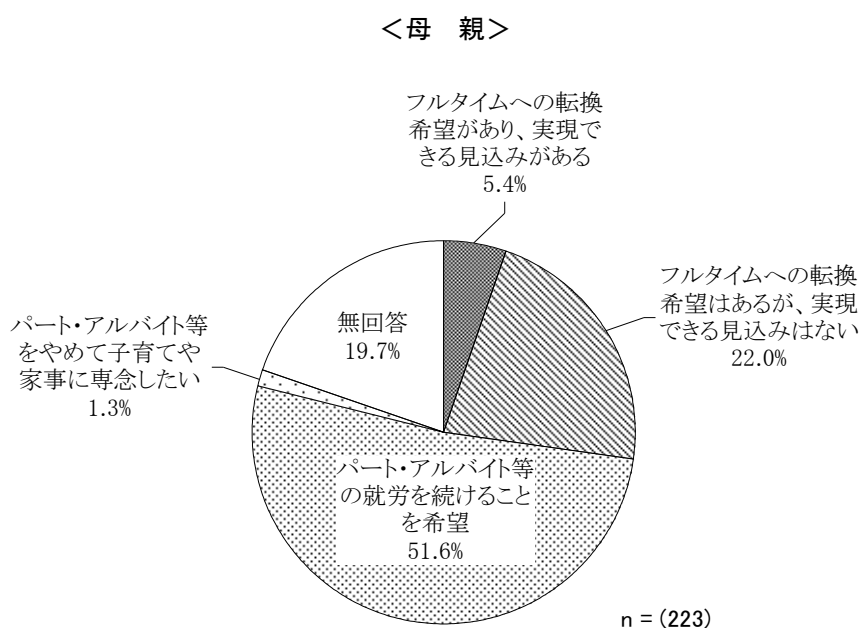
n	0時台	2時台	6時台	11時台	17時台	19時台	22時台	23時台	無回答
16	2	1	1	2	1	3	1	2	3

(3) フルタイムへの転換希望

現在パート・アルバイトで就労している場合の、フルタイムへの転換希望をたずねたところ、母親は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」(51.6%)が過半数を占め、「フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない」が22.0%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が5.4%となっており、『フルタイムへの転換希望がある』人は27.4%となっています。

父親は、回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表 4-10 フルタイムへの転換希望



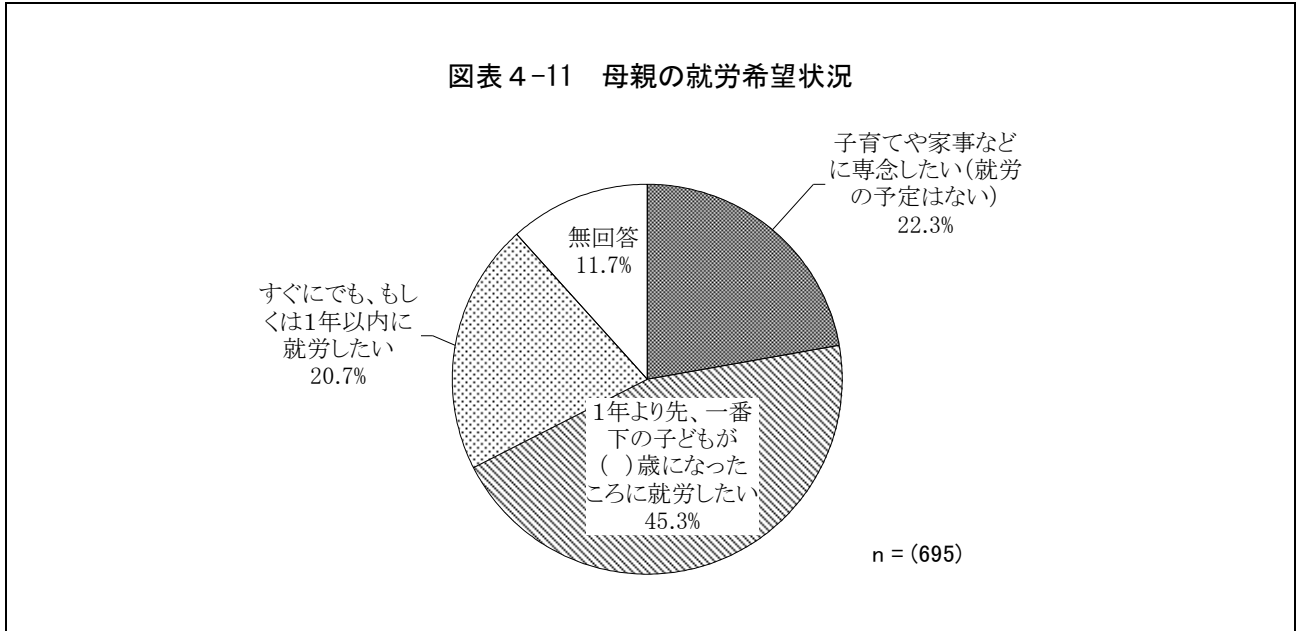
< 父 親 >

(人)

n	フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	パート・アルバイト等の就労を続けることを希望	パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい	無回答
16	5	2	7	-	2

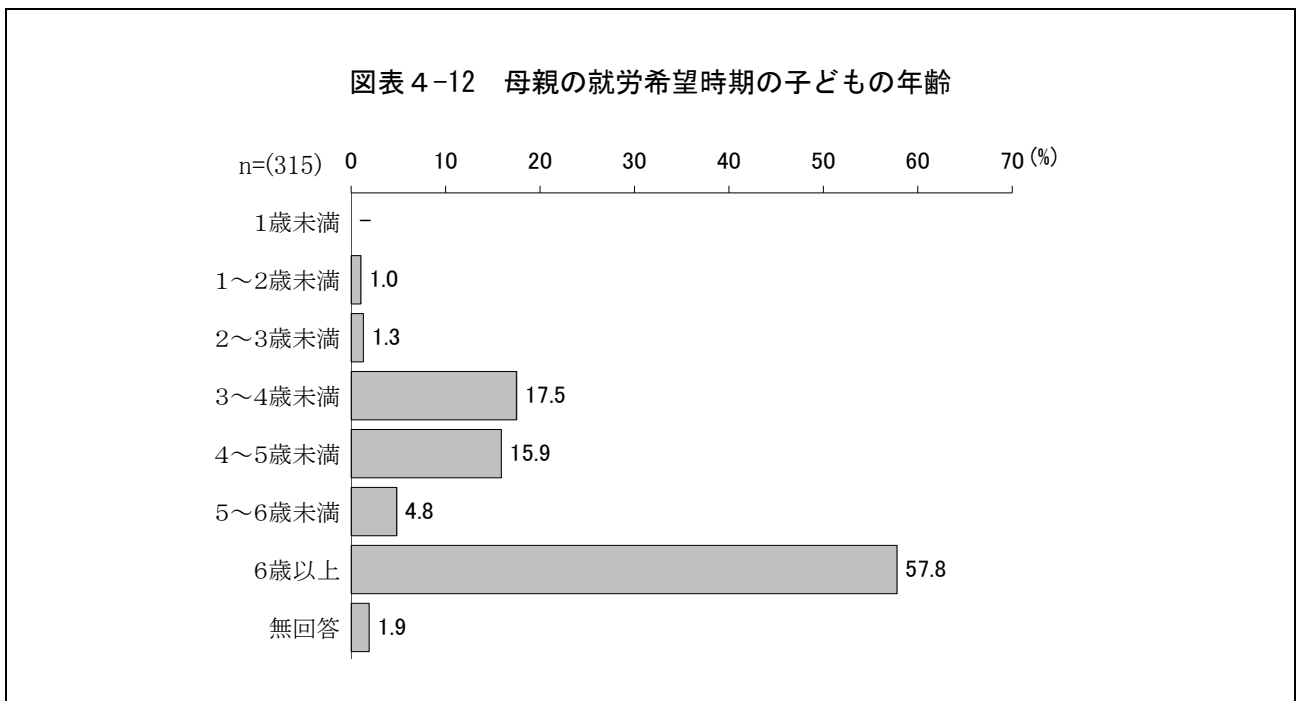
(4) 母親の就労希望状況

母親が現在就労していない場合の就労希望状況をたずねたところ、「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」(45.3%)が最も多く、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」(22.3%)、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(20.7%)と続いています。



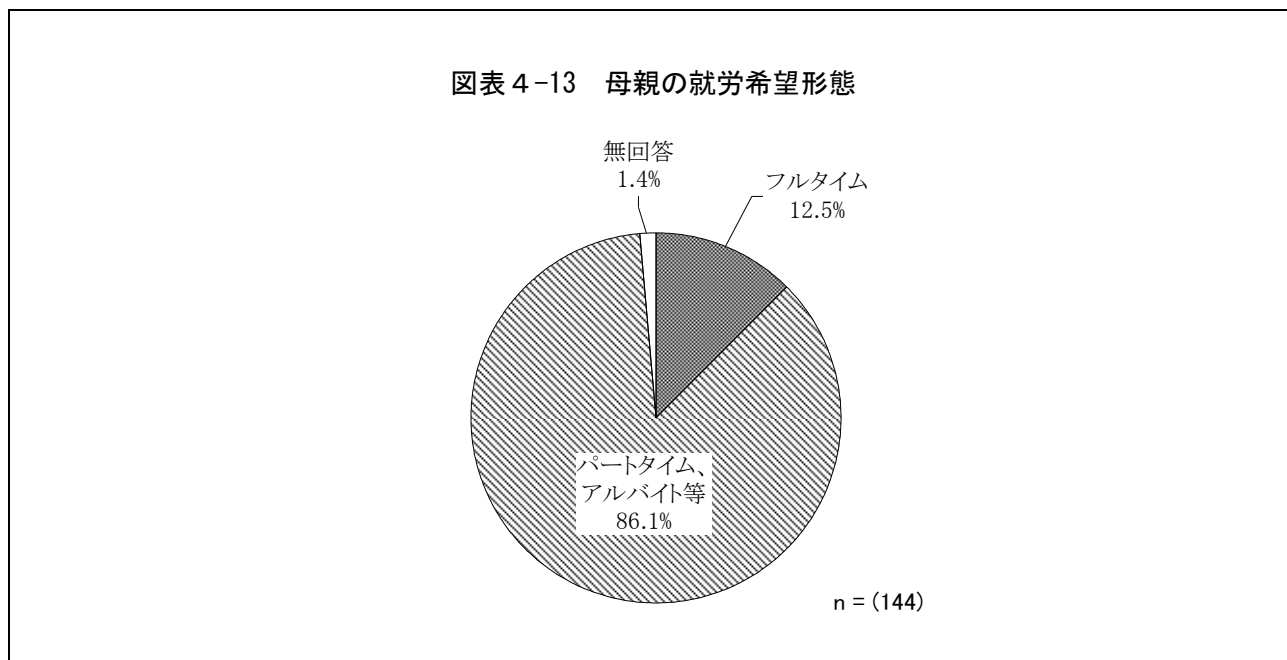
(4-1) 母親の就労希望時期の子どもの年齢

就労希望時期の末子の年齢についてたずねたところ、「6歳以上」(57.8%)が過半数を占め、以下、「3～4歳未満」(17.5%)、「4～5歳未満」(15.9%)などと続いています。また、平均は5歳7ヶ月となっています。



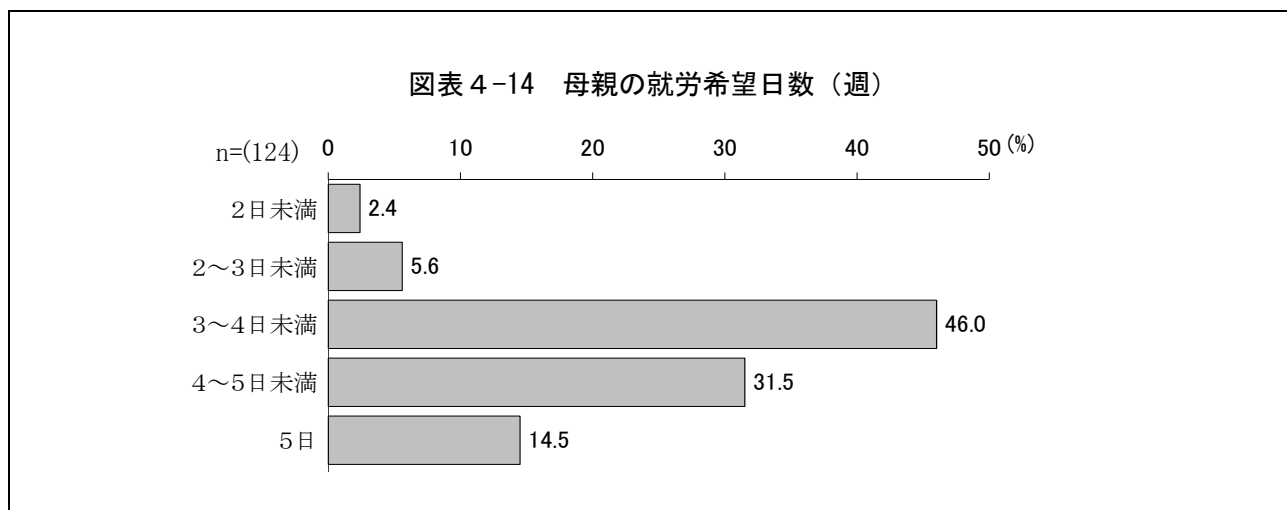
(4-1) 母親の就労希望形態

希望する就労形態をたずねたところ、「パートタイム、アルバイト等」が86.1%を占め、「フルタイム」が12.5%となっています。



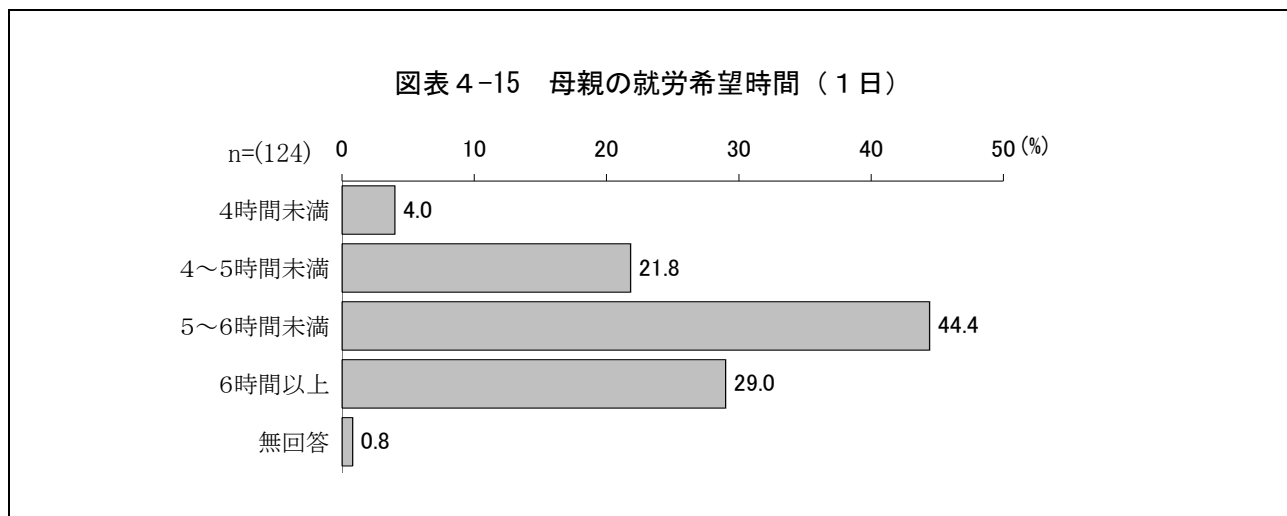
(4-2) 母親の就労希望日数

希望する就労日数をたずねたところ、週「3～4日未満」(46.0%)が半数近くを占め、「4～5日未満」(31.5%)、「5日」(14.5%)と続いており、平均日数は3.50日となっています。



(4-3) 母親の就労希望時間

希望する就労時間をたずねたところ、1日「5～6時間未満」(44.4%)が4割台半ばを占め、「6時間以上」(29.0%)、「4～5時間未満」(21.8%)と続いており、平均時間は5時間06分となっています。



(5) 父親の就労希望状況

回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表 4-16 父親の就労希望状況

(人)

n	子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	1年より先、一番下の子どもが()歳になったころに就労したい	すぐにも、もしくは1年以内に就労したい	無回答
19	1	5	5	8

(5-1) 父親の就労希望時期の子どもの年齢

回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表 4-17 父親の就労希望時期の子どもの年齢

(人)

n	3歳	6歳
5	1	4

(5-2) 父親の就労希望形態

回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表 4-18 父親の就労希望形態

(人)

n	フルタイム	パートタイム、アルバイト等
5	5	-

※父親のパートタイム・アルバイト等での就労希望者がいないため、希望日数・時間については省略します。

(6) 父親、母親の就業状況の平均のまとめ

父親、母親の就業状況の平均値は下表のとおりです。

図表 4-19 就業状況平均のまとめ

<母 親>

		n	平均
1 週あたりの就労日数	フルタイム	152	5.07日
	パート・アルバイト等	204	3.43日
1 週あたりの平均就労時間	フルタイム	152	40時間41分
	パート・アルバイト等	204	18時間37分
働いている日の平均帰宅時間	フルタイム	152	18時22分
	パート・アルバイト等	204	16時07分

<父 親>

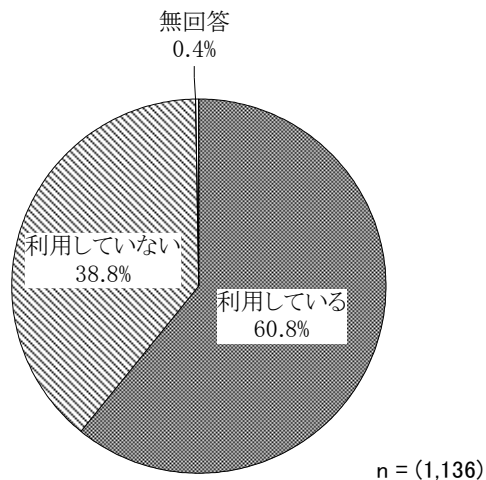
		n	平均
1 週あたりの就労日数	フルタイム	1,019	5.31日
	パート・アルバイト等	16	3.42日
1 週あたりの平均就労時間	フルタイム	1,019	54時間47分
	パート・アルバイト等	16	30時間49分
働いている日の平均帰宅時間	フルタイム	1,019	18時36分
	パート・アルバイト等	16	13時38分

5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

(1) 定期的な教育・保育事業の利用の有無

幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育事業の利用の有無をたずねたところ、「利用している」(60.8%)は約6割となっています。

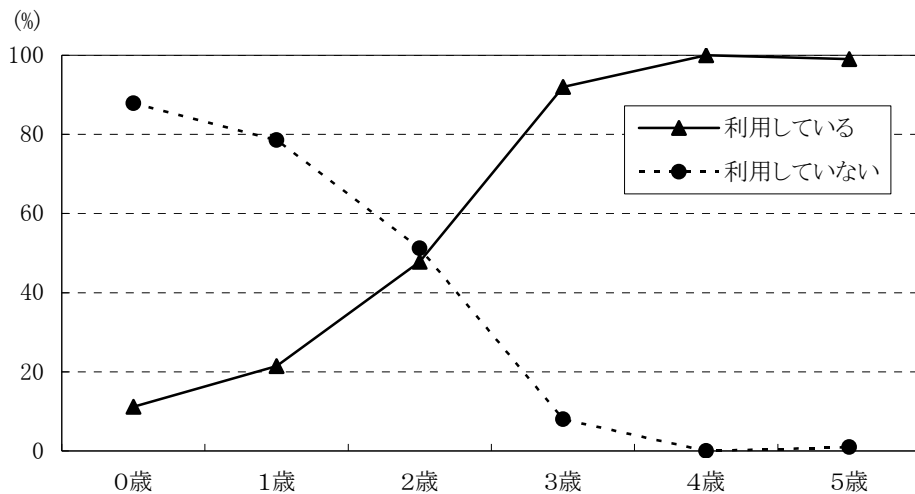
図表5-1 定期的な教育・保育事業の利用の有無



■ 子どもの年齢別

子どもの年齢別に定期的な教育・保育事業の利用の有無をみると、1歳までは「利用していない」が「利用している」を大幅に上回っていますが、2歳でほぼ同数になり、3歳からは「利用している」がほとんどとなっています。

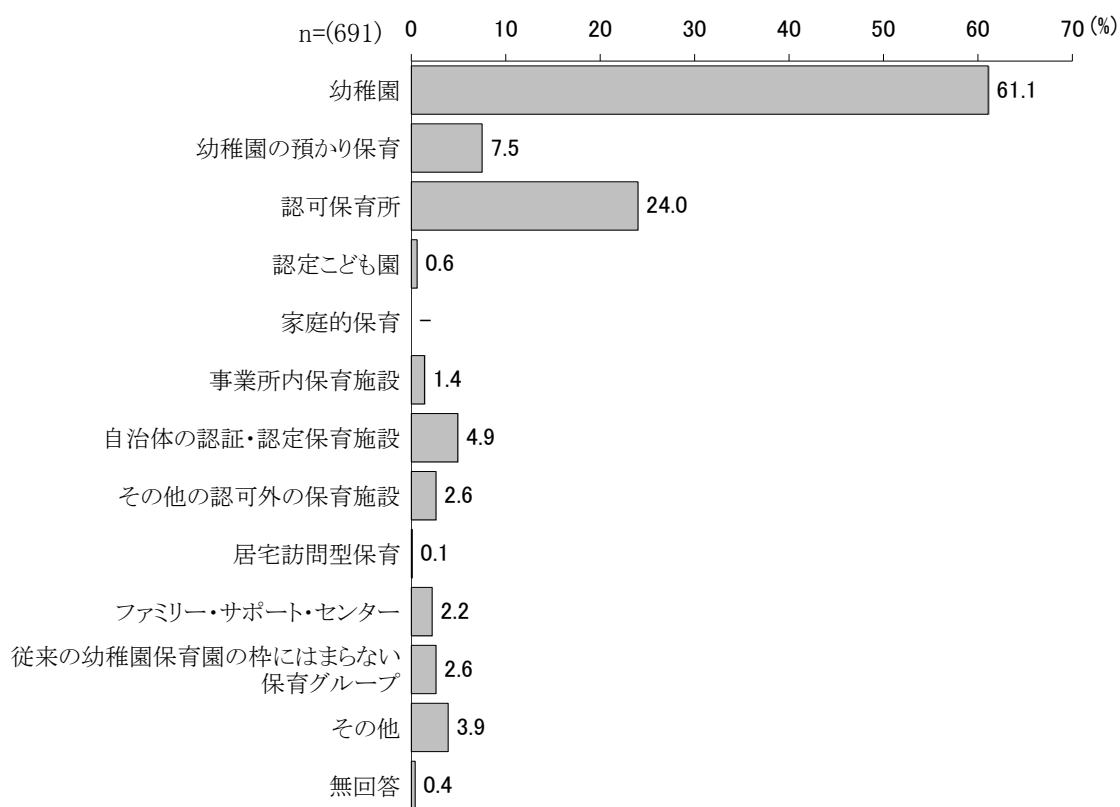
図表5-2 定期的な教育・保育事業の利用の有無 — 子どもの年齢別



(1-1) 教育・保育事業の利用形態（利用率）

定期的な教育・保育事業の利用形態（利用率）を複数回答でたずねたところ、「幼稚園」（61.1%）が6割を超えて最も高く、「認可保育所」（24.0%）が2割台、以下、「幼稚園の預かり保育」（7.5%）、「自治体の認証・認定保育施設」（4.9%）などと続いています。

図表5-3 教育・保育事業の利用形態（利用率）



■ 子どもの年齢別

子どもの年齢別にみると、「幼稚園」や「幼稚園の預かり保育」は年齢が上がるほど利用率が高くなる傾向がみられます。一方、「認可保育所」は1歳（87.1%）で9割近くと最も高く、それ以降は年齢が上がるほど利用率が低くなる傾向がみられます。

図表5-4 教育・保育事業の利用形態 — 子どもの年齢別

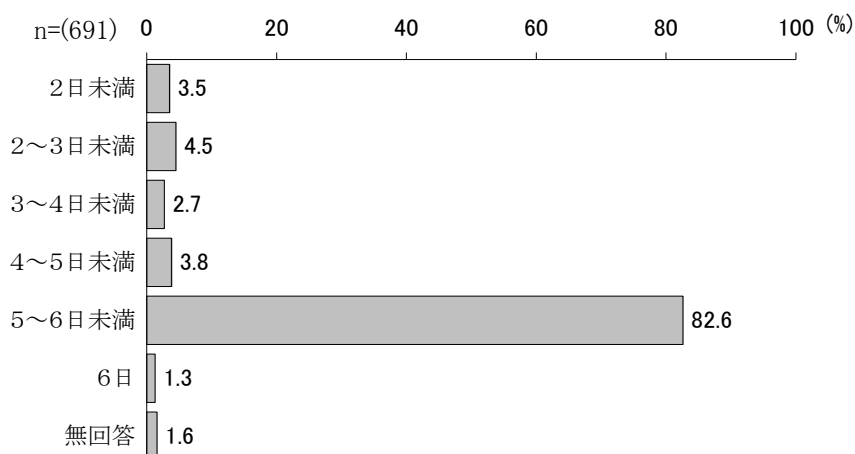
	n	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	家庭的保育	事業所内保育施設	自治体の認証・認定保育施設	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	従来の幼稚園保育園の枠にはまらない保育グループ	その他	無回答
全体	691	61.1	7.5	24.0	0.6	-	1.4	4.9	2.6	0.1	2.2	2.6	3.9	0.4
0歳	26	3.8	-	57.7	-	-	7.7	19.2	3.8	3.8	11.5	-	3.8	-
1歳	31	-	-	87.1	-	-	3.2	6.5	-	-	6.5	-	3.2	-
2歳	99	28.3	2.0	28.3	1.0	-	4.0	7.1	8.1	-	4.0	7.1	17.2	1.0
3歳	172	66.3	9.9	22.1	0.6	-	-	4.1	1.7	-	1.7	4.1	1.2	0.6
4歳	164	74.4	4.9	17.1	0.6	-	1.2	4.9	1.2	-	0.6	1.8	1.8	-
5歳	199	78.9	12.6	15.1	0.5	-	0.5	2.5	2.0	-	1.0	0.5	1.5	0.5

(1-2) 教育・保育事業の利用日数・利用時間

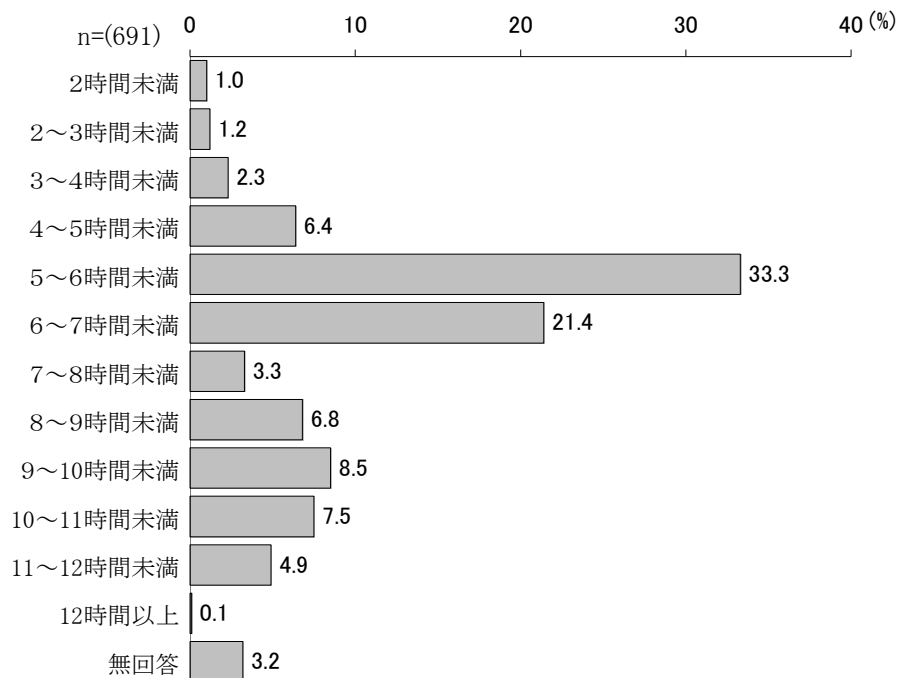
教育・保育事業の現在の利用日数・利用時間をたずねたところ、利用日数は、週「5～6日未満」(82.6%)が8割以上を占めており、平均日数は4.64日となっています。

利用時間は、1日「5～6時間未満」(33.3%)が3人に1人で最も高く、「6～7時間未満」(21.4%)が2割強となっており、平均では6時間22分となっています。

図表5-5 教育・保育事業の利用日数（週）



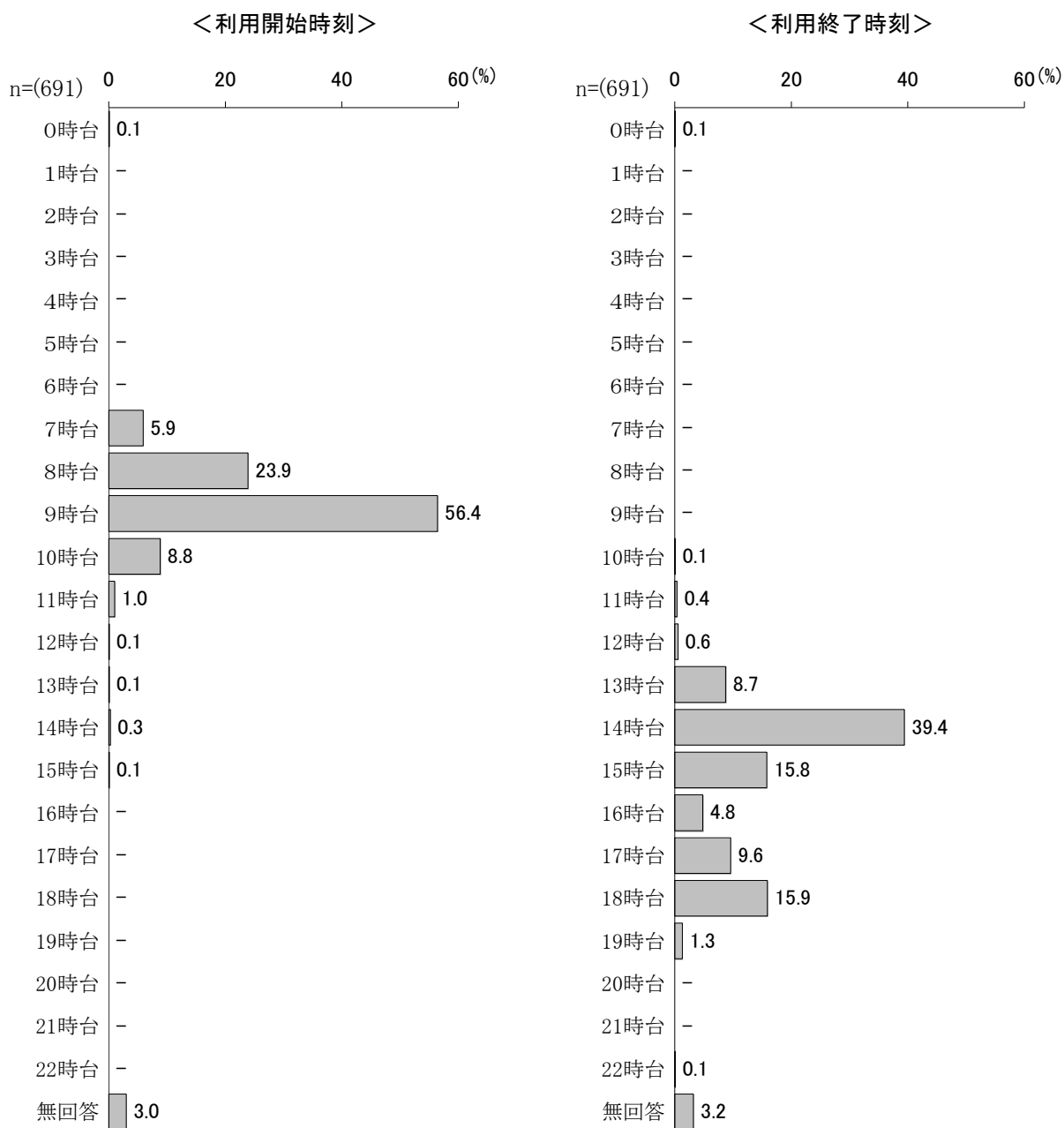
図表5-6 教育・保育事業の利用時間（日）



利用時間帯をみると、利用開始時刻は「9時台」(56.4%)が過半数を占め、「8時台」(23.9%)、が2割強となっており、平均時刻は8時46分となっています。

利用終了時刻は「14時台」(39.4%)が約4割で最も高く、「18時台」(15.9%)、「15時台」(15.8%)と続いており、平均時刻は15時10分となっています。

図表 5-7 教育・保育事業の利用時間帯

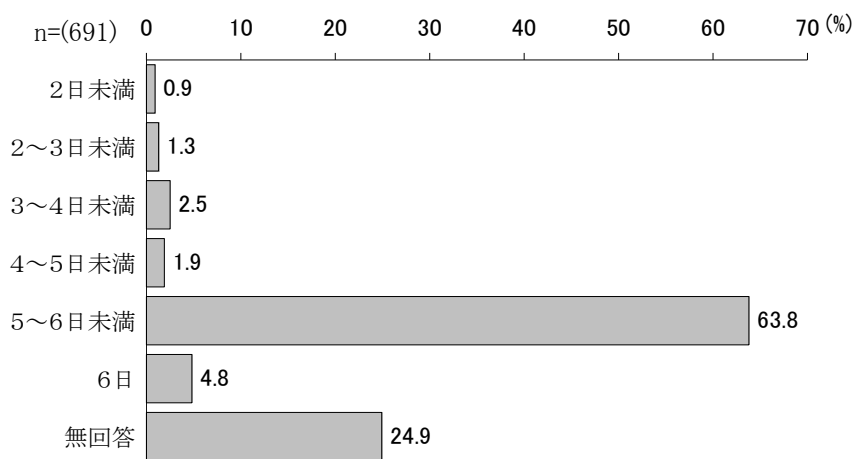


(1-3) 教育・保育事業の利用希望日数・時間

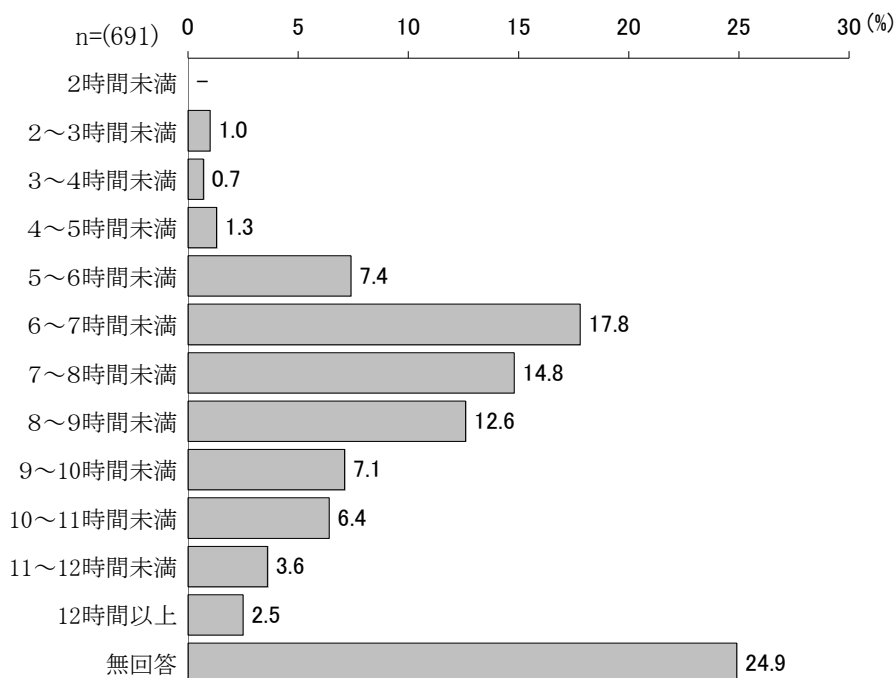
現在利用している教育・保育事業で、今後利用したい日数・時間をたずねたところ、日数は、週「5～6日未満」(63.8%)が6割以上を占めており、平均日数は4.88日となっています。

利用希望時間は、1日「6～7時間未満」(17.8%)が最も高く、「7～8時間未満」(14.8%)、「8～9時間未満」(12.6%)が続いており、平均では7時間22分となっています。

図表5-8 教育・保育事業の利用希望日数(週)



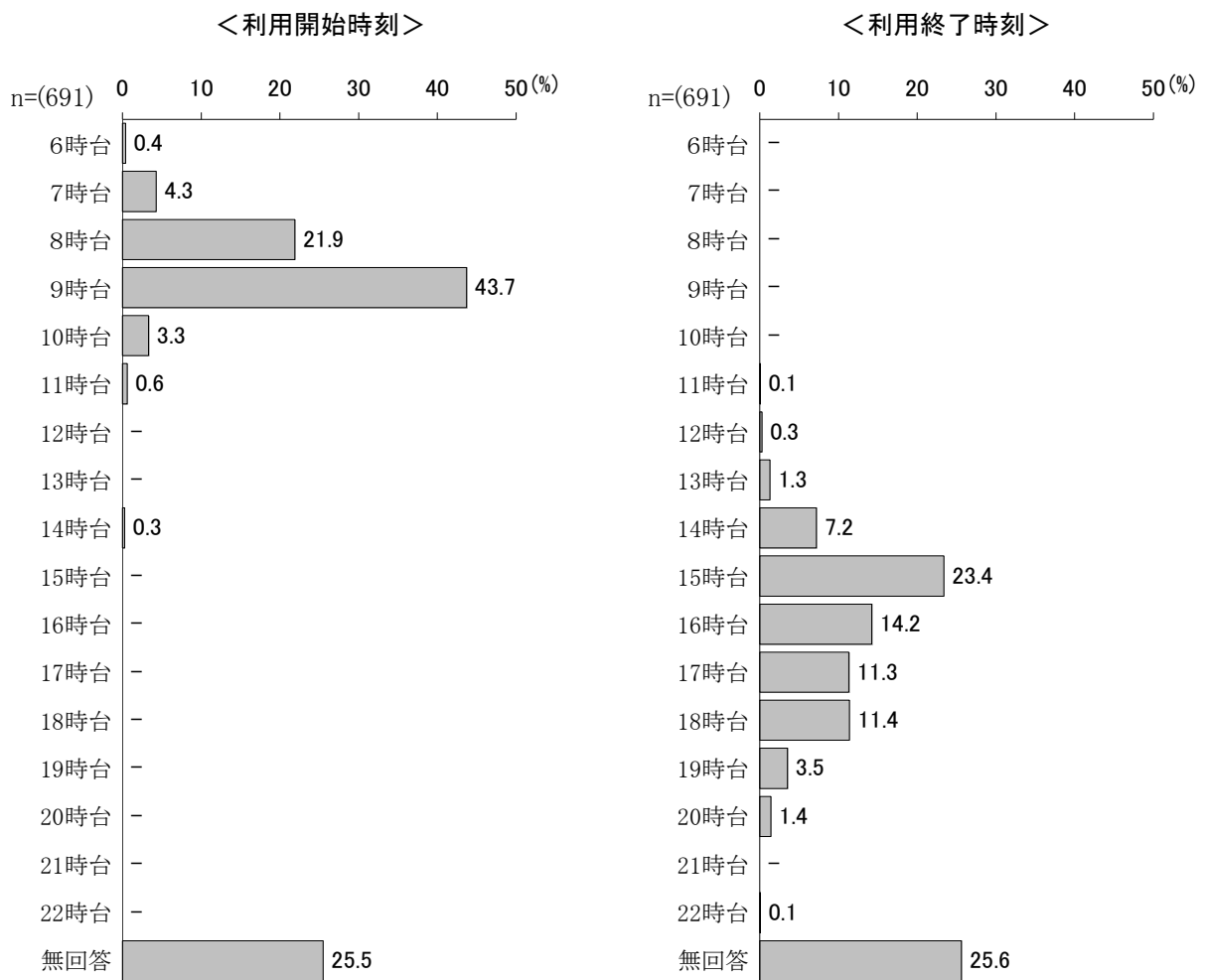
図表5-9 教育・保育事業の利用希望時間(日)



利用希望時間帯をみると、利用開始時刻は「9時台」(43.7%)が4割以上で最も高く、「8時台」(21.9%)、が2割強となっており、平均時刻は8時39分となっています。

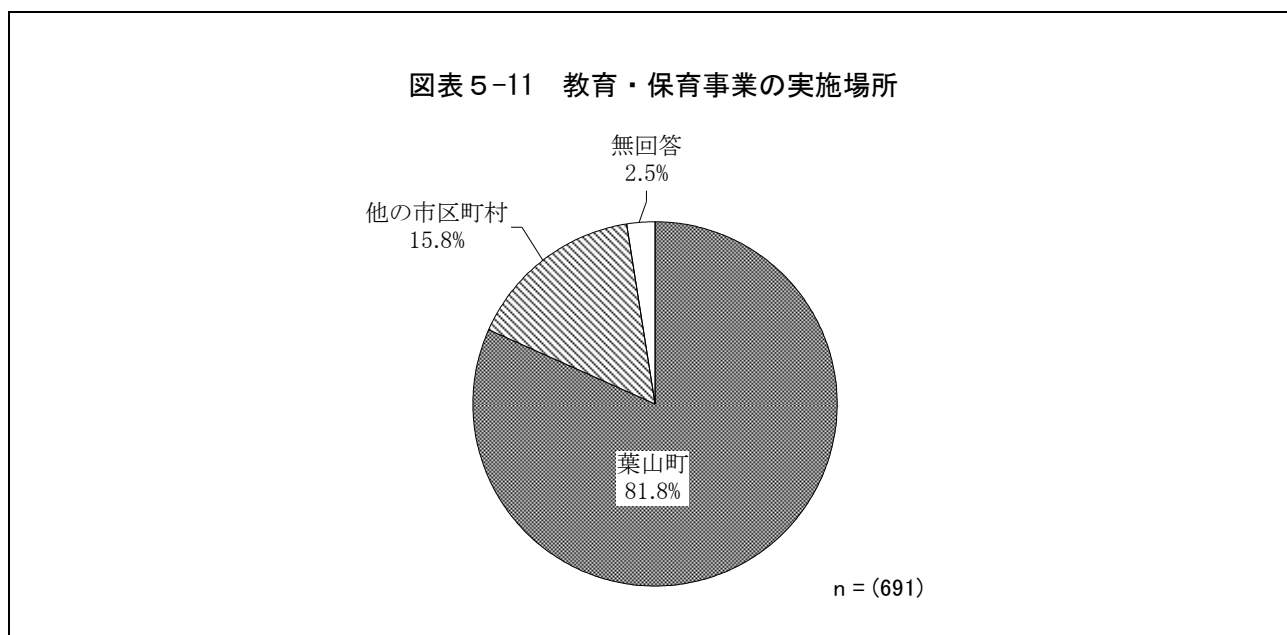
利用終了時刻は「15時台」(23.4%)が2割を超えて最も高く、「16時台」(14.2%)、「18時台」(11.4%)、「17時台」(11.3%)と続いており、平均時刻は16時06分となっています。

図表 5-10 教育・保育事業の利用希望時間帯



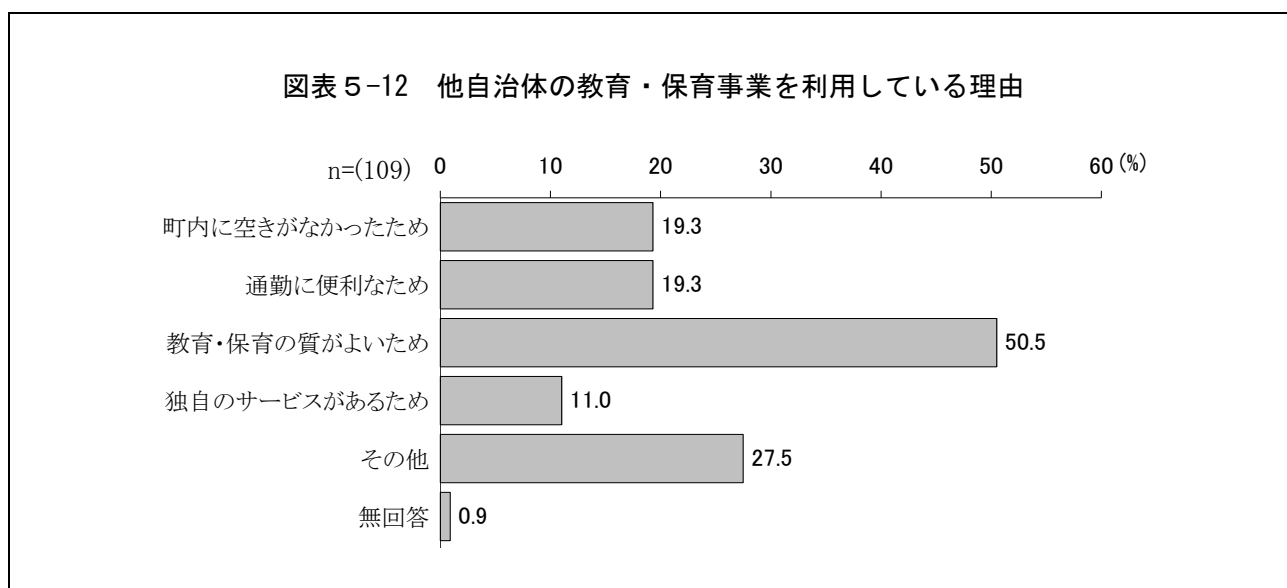
(1-4) 教育・保育事業の実施場所

現在利用している教育・保育事業の実施場所をたずねたところ、「葉山町」は81.8%、「他の区市町村」は15.8%となっています。



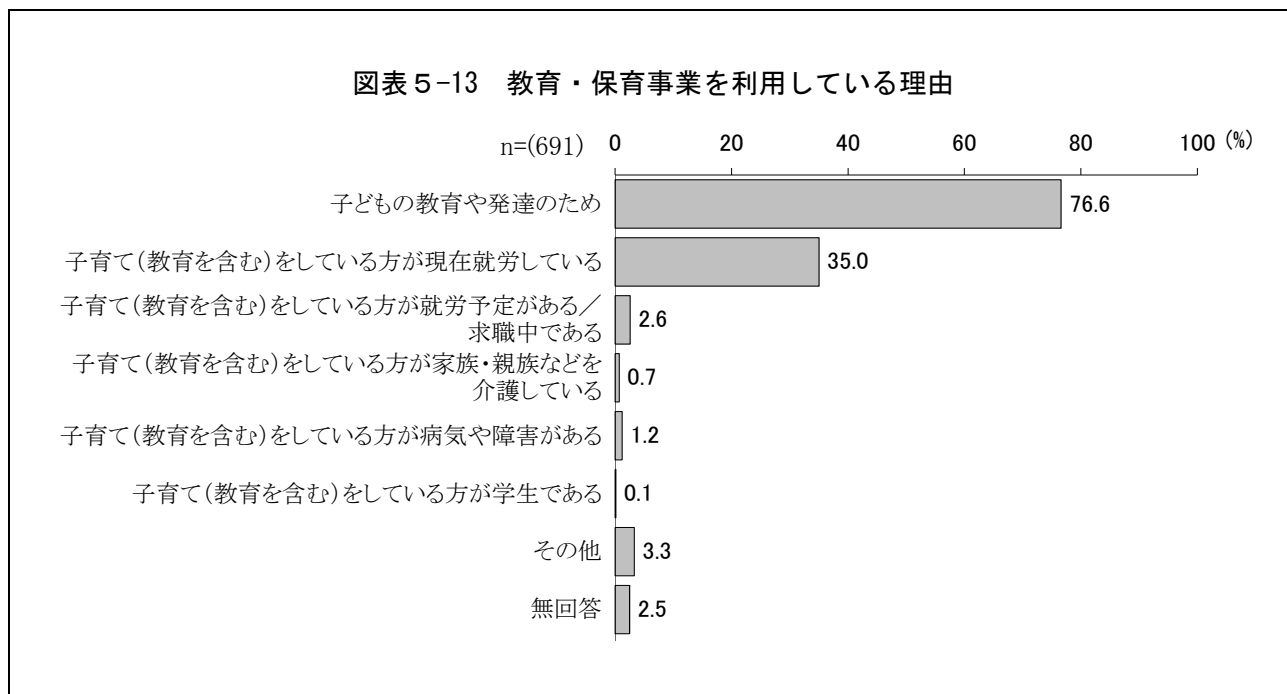
(1-5) 他自治体の教育・保育事業を利用している理由

他の区市町村の教育・保育事業を利用している理由を複数回答でたずねたところ、「教育・保育の質がよいため」(50.5%)が約半数で最も高く、以下、「町内に空きがなかったため」と「通勤に便利のため」がいずれも19.3%などとなっています。



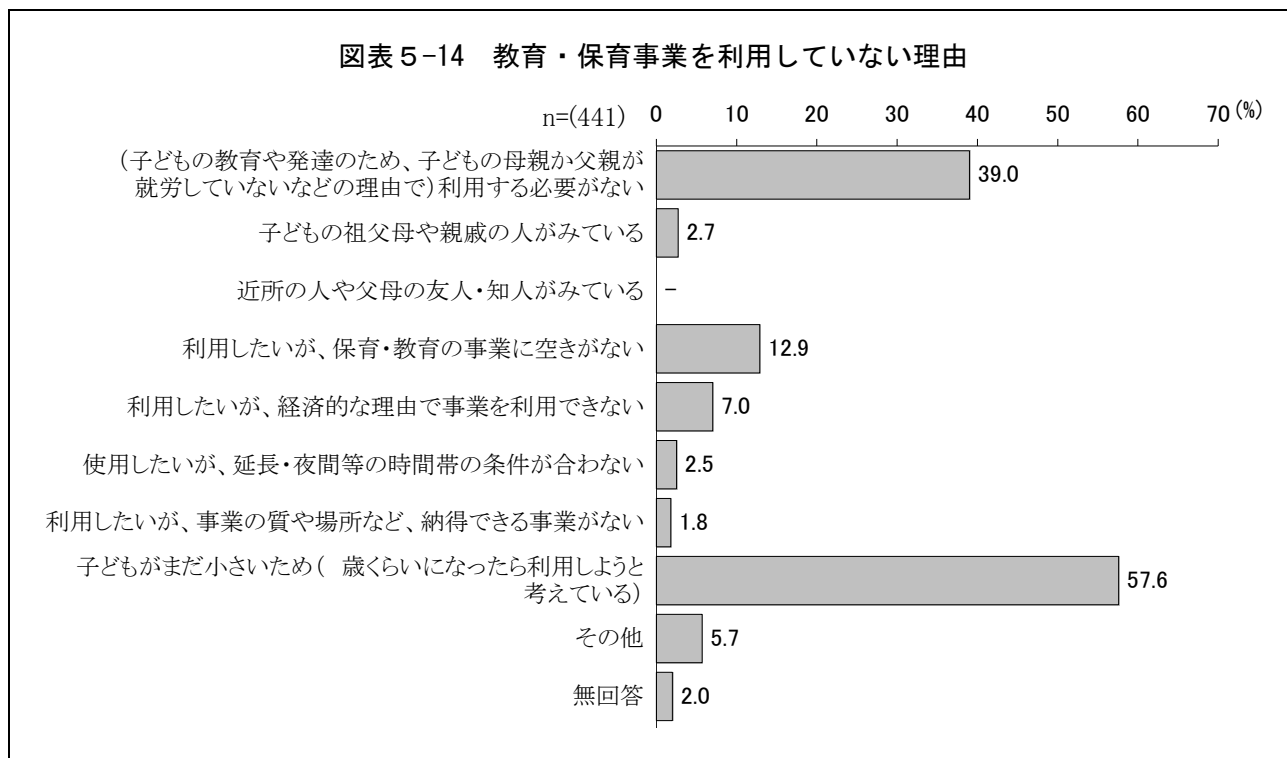
(1-6) 教育・保育事業を利用している理由

教育・保育事業を利用している理由を複数回答でたずねたところ、「子どもの教育や発達のため」(76.6%)が8割近くで特に高く、「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している」(35.0%)が3割台半ばとなっており、それ以外の理由はわずかとなっています。



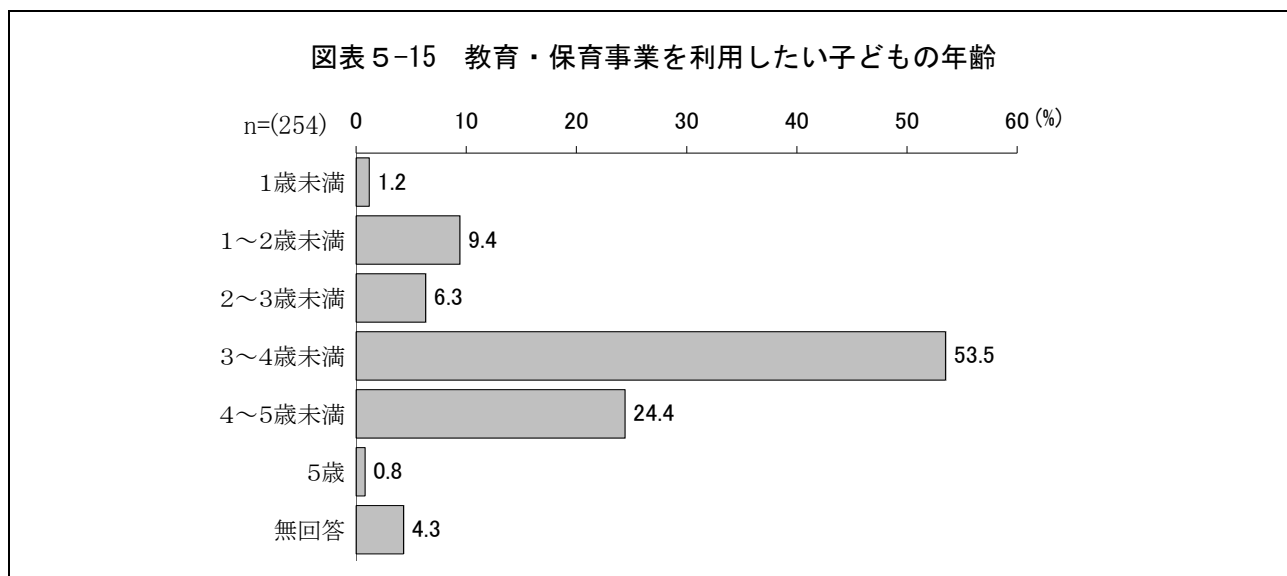
(1-7) 教育・保育事業を利用していない理由

教育・保育事業を利用していない人に、その理由を複数回答でたずねたところ、「子どもがまだ小さいため（歳くらいになったら利用しようと考えている）」(57.6%) が6割近くで最も高くなっており、「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」(39.0%)が約4割となっています。以下、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」(12.9%)などが続いています。



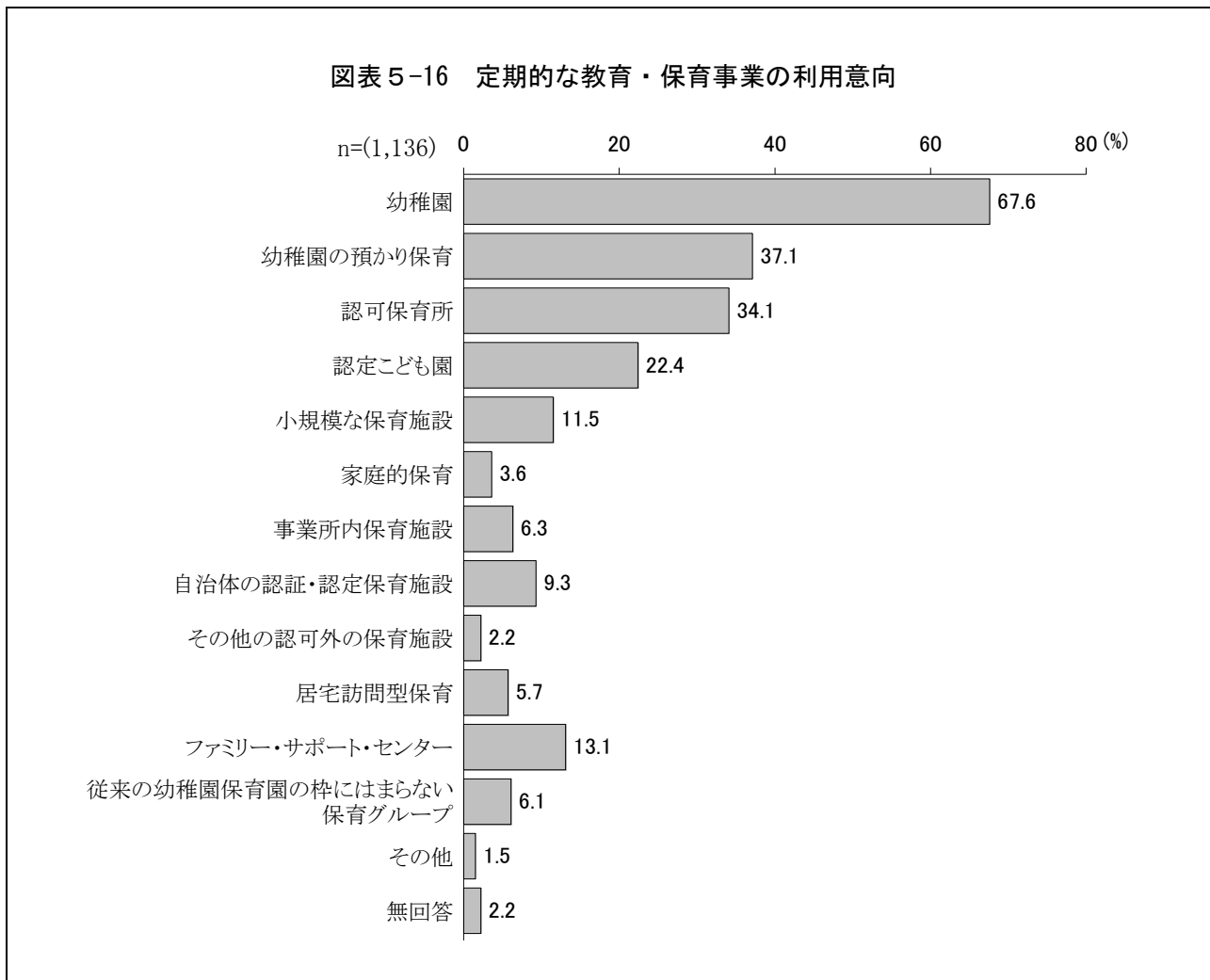
(1-8) 教育・保育事業を利用したい子どもの年齢

子どもがまだ小さいため教育・保育事業を利用していない場合、子どもが何歳くらいになったら利用したいかをたずねたところ、「3～4歳未満」(53.5%)が過半数を占め、「4～5歳未満」(24.4%)、「1～2歳未満」(9.4%)などと続いています。なお、平均は2歳11ヶ月となっています。



(2) 定期的な教育・保育事業の利用意向

今後利用したい定期的な教育・保育事業を複数回答でたずねたところ、「幼稚園」(67.6%)が7割近くで最も高く、「幼稚園の預かり保育」(37.1%)、「認可保育所」(34.1%)、「認定こども園」(22.4%)などと続いています。



■ 子どもの年齢別

子どもの年齢別にみると、「幼稚園」は年齢が上がるほど利用意向が高くなる傾向がみられます。一方、「認可保育所」は年齢が上がるほど利用意向が低くなる傾向がみられます。「幼稚園の預かり保育」は2歳以上で4割前後と利用意向が高くなっています。

図表5-17 定期的な教育・保育事業の利用意向 — 子どもの年齢別

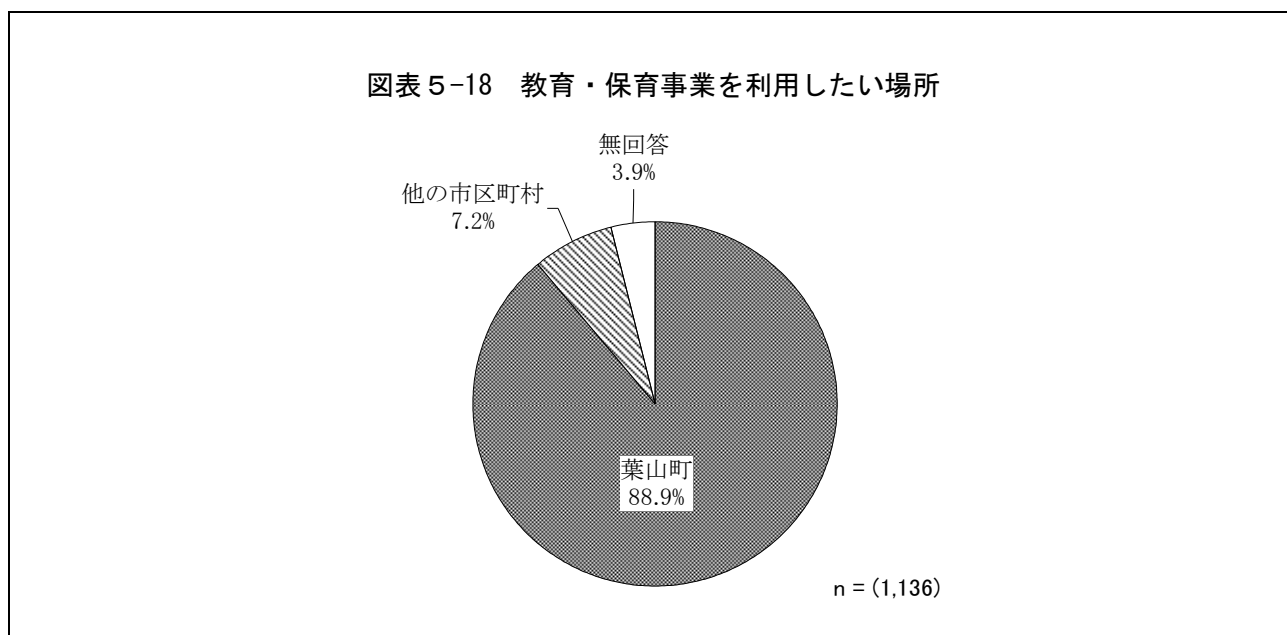
(%)

	n	幼稚園	幼稚園の 預かり保育	認可 保育所	園 認定こども	小規模な 保育施設	家庭的 保育	事業所内 保育施設
全体	1,136	67.6	37.1	34.1	22.4	11.5	3.6	6.3
0歳	232	57.3	28.0	47.0	25.4	14.7	3.4	6.9
1歳	145	64.1	31.7	40.0	28.3	13.8	2.8	7.6
2歳	207	68.6	43.0	32.4	25.1	15.0	4.8	6.8
3歳	187	69.0	42.8	29.9	21.4	8.0	3.2	6.4
4歳	164	72.6	35.4	28.7	18.3	9.1	4.3	5.5
5歳	201	75.6	41.8	24.9	16.4	8.0	3.0	4.5

	n	自治体の 認定 保育施設	自治体の 認定 ・ 認可 外の 保育施設	居宅訪問型 保育	ファミリー・サポ ート・センタ ー	従来の幼稚園 保育 園の枠にはまら ない 保育グループ	その他	無回答
全体	1,136	9.3	2.2	5.7	13.1	6.1	1.5	2.2
0歳	232	14.2	3.9	6.9	17.2	6.9	0.9	1.3
1歳	145	6.9	2.1	4.1	13.8	9.0	0.7	4.8
2歳	207	11.1	3.9	6.8	12.6	6.8	1.4	2.4
3歳	187	6.4	-	6.4	11.2	5.9	-	2.7
4歳	164	10.4	1.2	4.3	10.4	5.5	3.0	1.8
5歳	201	5.5	1.5	5.0	12.4	3.0	3.0	1.0

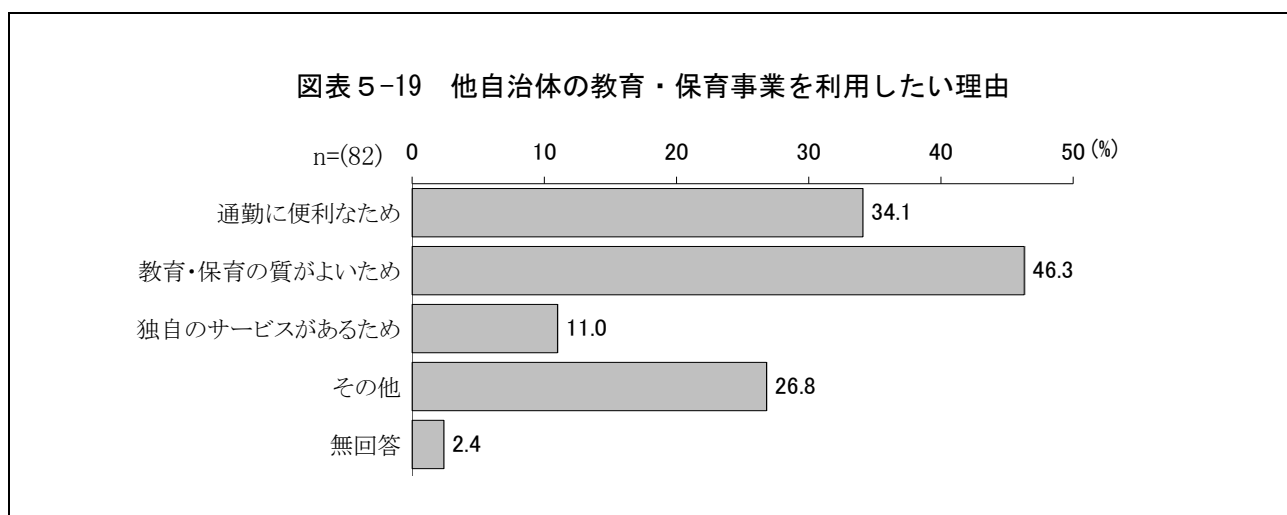
(2-1) 教育・保育事業を利用したい場所

教育・保育事業を利用したい場所をたずねたところ、「葉山町」(88.9%)が9割近くを占め、「他の区市町村」は7.2%となっています。



(2-2) 他自治体の教育・保育事業を利用したい理由

他の区市町村で教育・保育事業を利用したい理由を複数回答でたずねたところ、「教育・保育の質がよいため」(46.3%)が半数近くで最も高く、以下、「通勤に便利なため」(34.1%)、「独自のサービスがあるため」(11.0%)となっています。

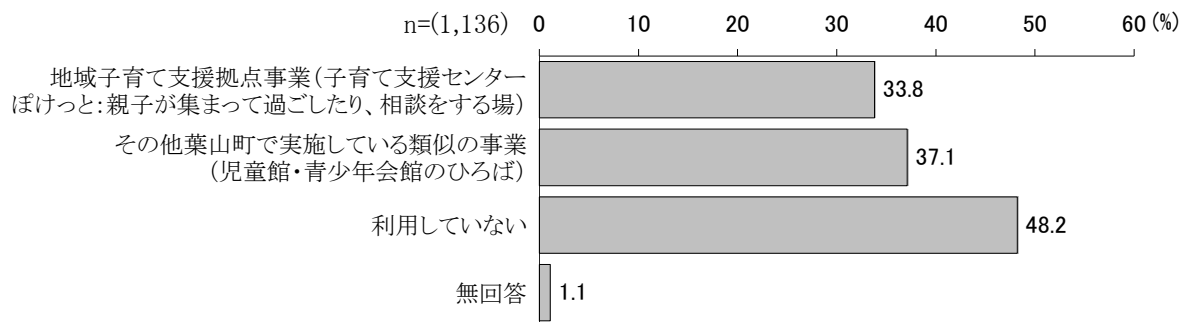


6 地域の子育て支援事業の利用状況について

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

地域子育て支援拠点事業の利用状況を複数回答でたずねたところ、「利用していない」(48.2%)が半数弱を占めています。利用している割合は、「地域子育て支援拠点事業(子育て支援センターぽけっと:親子が集まって過ごしたり、相談をする場)」(33.8%)、「その他葉山町で実施している類似の事業(児童館・青少年会館のひろば)」(37.1%)とも3割台となっています。

図表 6-1 地域子育て支援拠点事業の利用状況



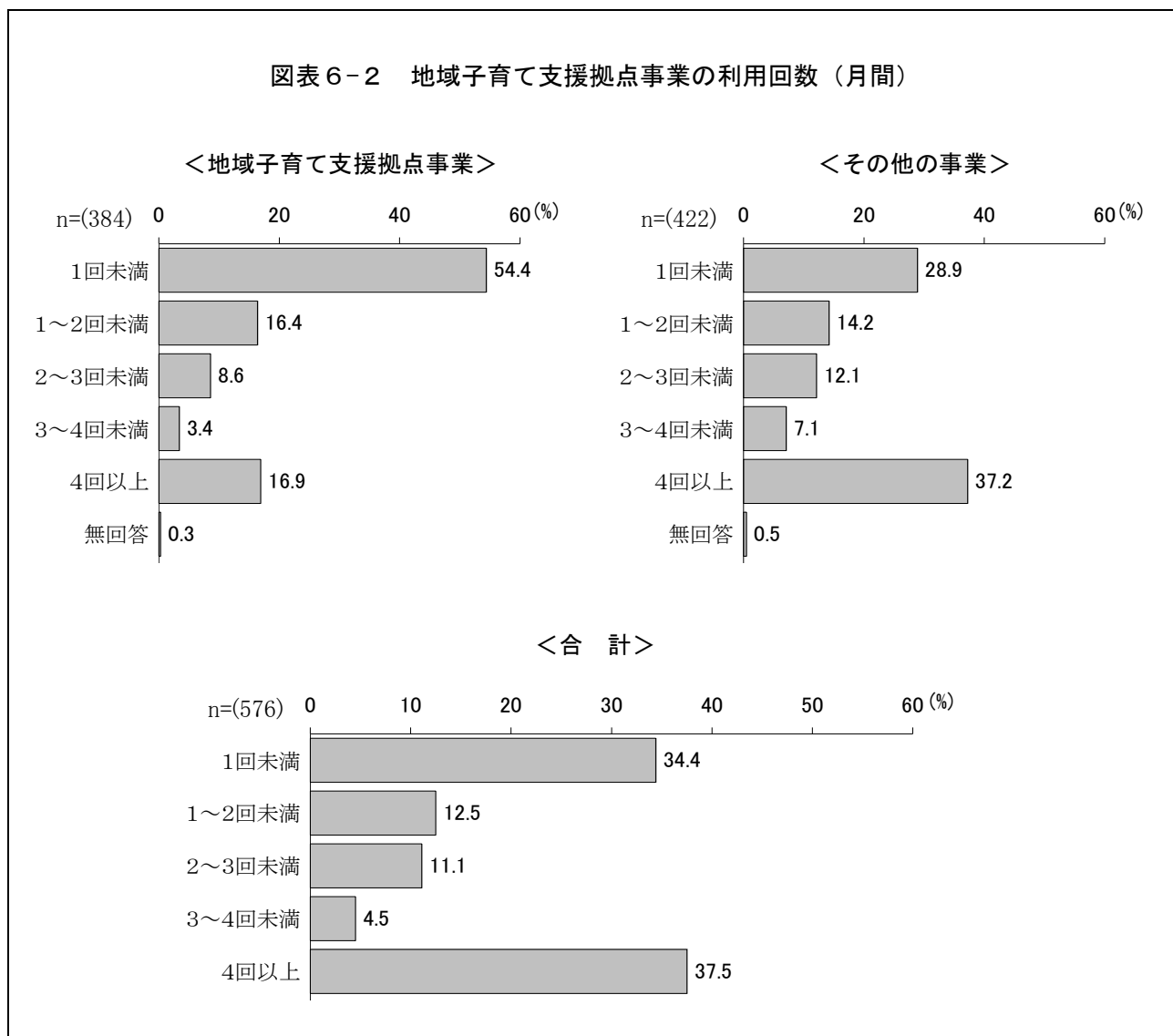
(1-2) 地域子育て支援拠点事業の利用回数

利用回数をたずねたところ、地域子育て支援拠点事業は、月間「1回未満」(54.4%)が最も高く、「4回以上」(16.9%)、「1～2回未満」(16.4%)と続いており、平均利用回数は1.68回となっています。

その他の事業は、月間「4回以上」(37.2%)が最も高く、「1回未満」(28.9%)、「1～2回未満」(14.2%)と続いており、平均利用回数は3.48回となっています。

双方の利用回数を合計すると、月間「4回以上」(37.5%)が4割近くを占め、「1回未満」(34.4%)、「1～2回未満」(12.5%)と続いており、平均利用回数は3.65回となっています。

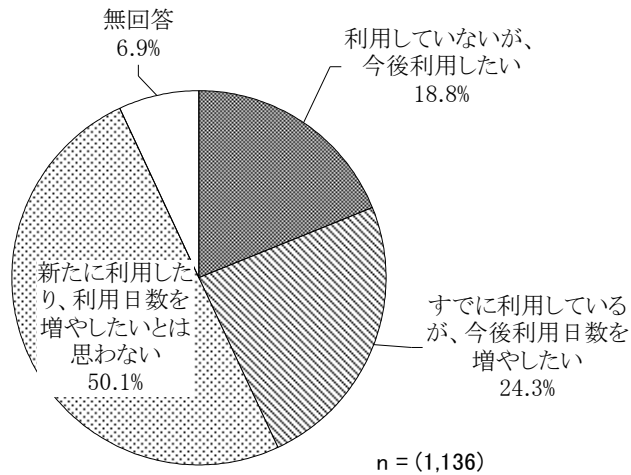
図表6-2 地域子育て支援拠点事業の利用回数（月間）



(2) 地域子育て支援拠点事業の利用意向

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向をたずねたところ、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」(50.1%)が約半数を占め、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が24.3%、「利用していないが、今後利用したい」が18.8%で、利用意向のある人は43.1%となっています。

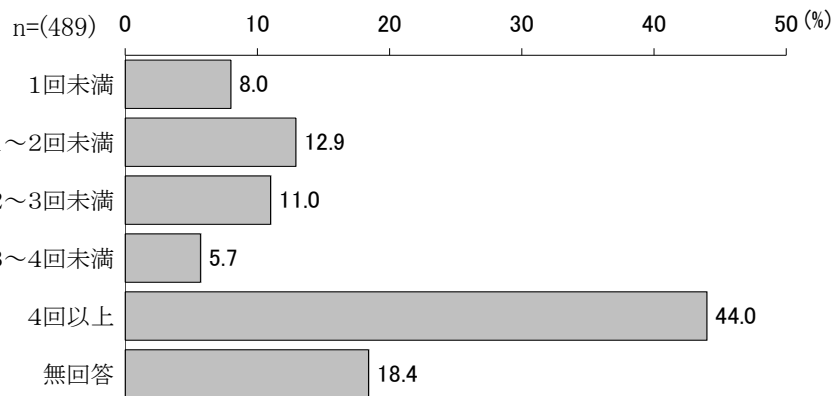
図表 6-3 地域子育て支援拠点事業の利用意向



(2-2) 地域子育て支援拠点事業を利用したい回数

今後利用したい場合の利用したい回数をたずねたところ、月間「4回以上」(44.0%)が最も多く、「1～2回未満」(12.9%)、「2～3回未満」(11.0%)と続いており、平均回数は4.81回となっています。

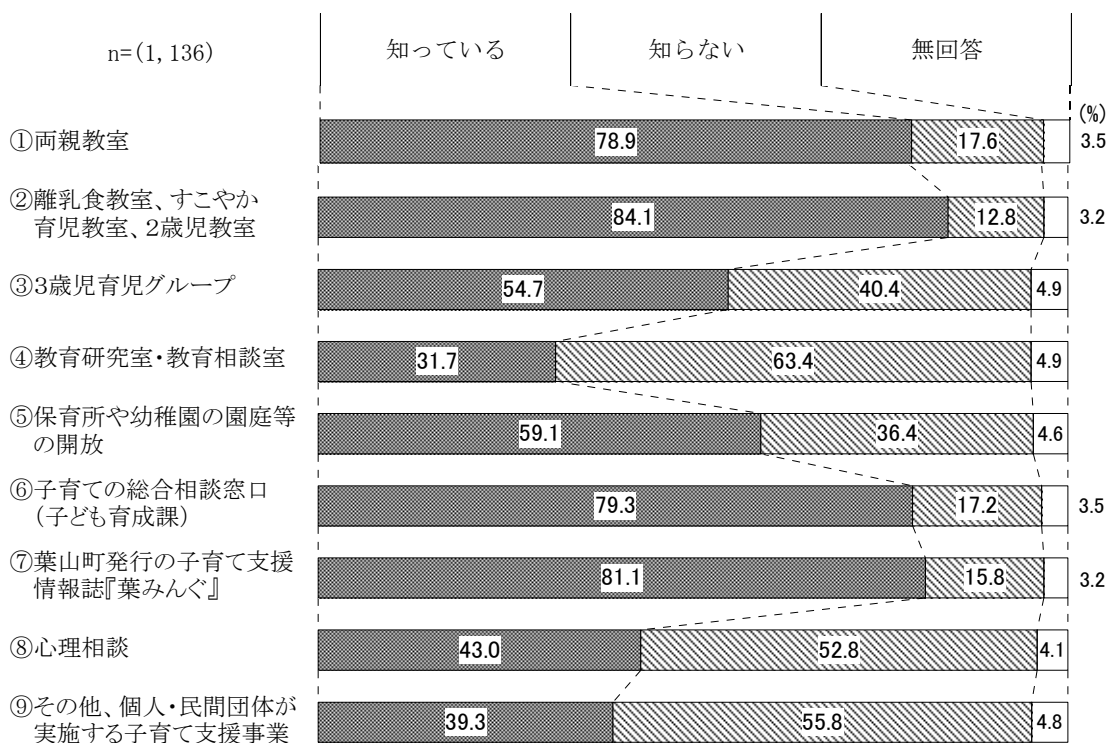
図表 6-4 地域子育て支援拠点事業を利用したい回数 (月間)



(3) その他の子育て支援事業の認知度、利用状況

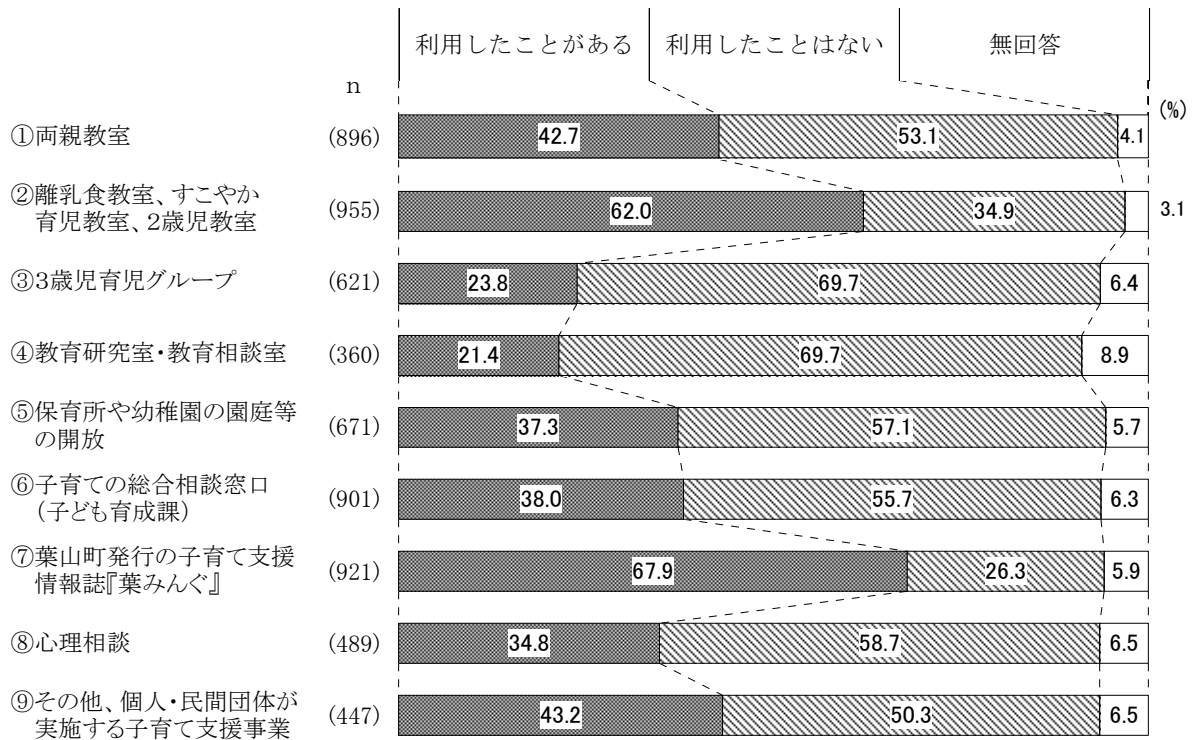
ここまでで取り上げてきた事業以外の子育て支援事業について、それぞれ認知度、利用経験、利用意向をたずねたところ、認知度では、「知っている」は“離乳食教室、すこやか育児教室、2歳児教室”（84.1%）と“葉山町発行の子育て支援情報誌『葉みんぐ』”（81.1%）が8割以上を占めて特に高く、“子育ての総合相談窓口（子ども育成課）”（79.3%）と“両親教室”（78.9%）がそれに次いでいます。

図表 6-5 その他の子育て支援事業の認知度



利用経験では、「利用したことがある」は“葉山町発行の子育て支援情報誌『葉みんぐ』”（67.9%）と“離乳食教室、すこやか育児教室、2歳児教室”（62.0%）の2事業が6割台と目立って高くなっており、次いで“両親教室”（42.7%）が4割強となっています。

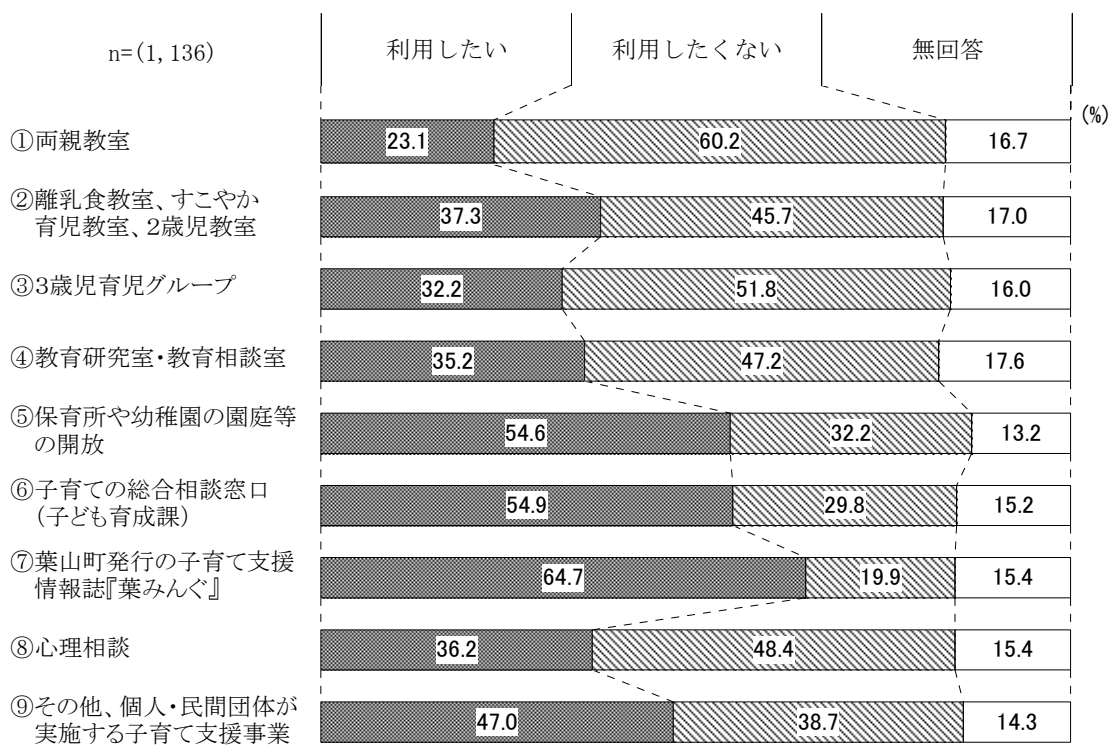
図表 6-6 その他の子育て支援事業の利用経験



※認知度で「知っている」と答えた人のみ

今後の利用意向では、「利用したい」は“葉山町発行の子育て支援情報誌『葉みんぐ』”（64.7%）で6割台半ばを占めて最も高くなっています。次いで“子育ての総合相談窓口（子ども育成課）”（54.9%）と“保育所や幼稚園の園庭等の開放”（54.6%）で過半数を占めています。

図表 6-7 その他の子育て支援事業の利用意向



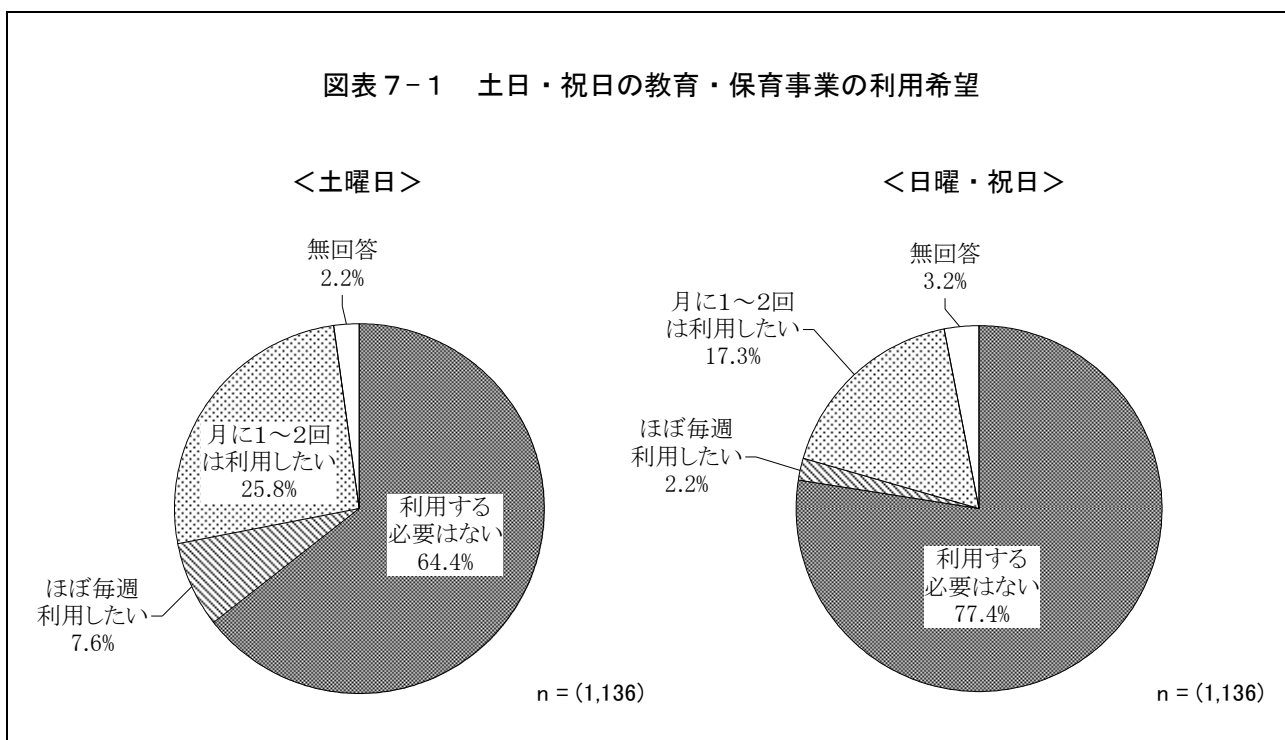
7 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について

(1) 土日・祝日の教育・保育事業の利用希望

土日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望をたずねたところ、土曜日では「利用する必要はない」(64.4%)が6割台半ばを占め、「月に1～2回は利用したい」が25.8%、「ほぼ毎週利用したい」が7.6%で、利用希望者は33.4%となっています。

日曜・祝日では「利用する必要はない」(77.4%)が8割近くを占め、「月に1～2回は利用したい」が17.3%、「ほぼ毎週利用したい」が2.2%で、利用希望者は19.5%となっています。

図表 7-1 土日・祝日の教育・保育事業の利用希望

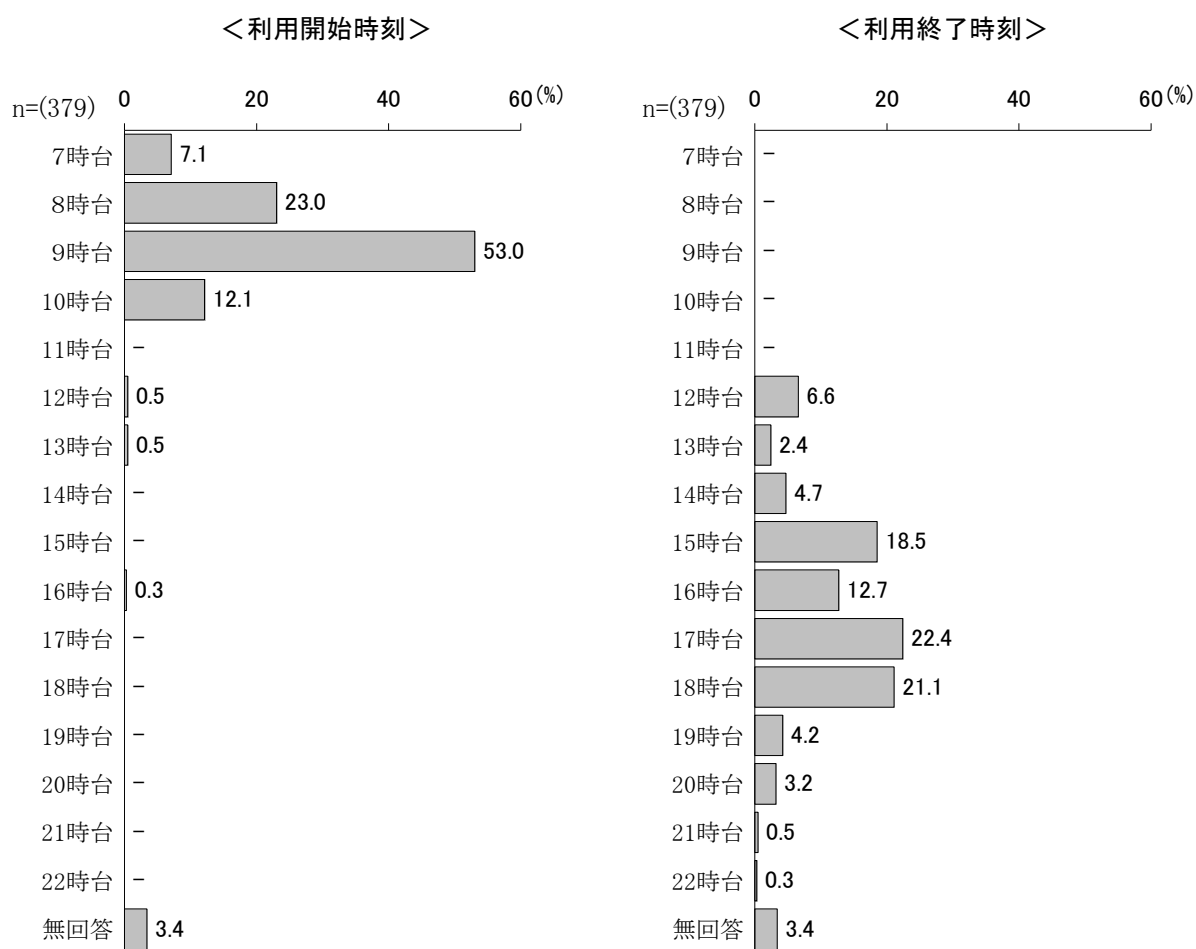


(1-1) 土日・祝日の教育・保育事業の利用希望時間帯

利用したい人に利用したい希望帯をたずねたところ、土曜日では、利用開始時刻は「9時台」(53.0%)が過半数で最も高く、「8時台」(23.0%)、「10時台」(12.1%)と続いており、平均時刻は8時48分となっています。

利用終了時刻は「17時台」(22.4%)と「18時台」(21.1%)が2割を超えて高く、「15時台」(18.5%)、「16時台」(12.7%)と続いており、平均時刻は16時20分となっています。

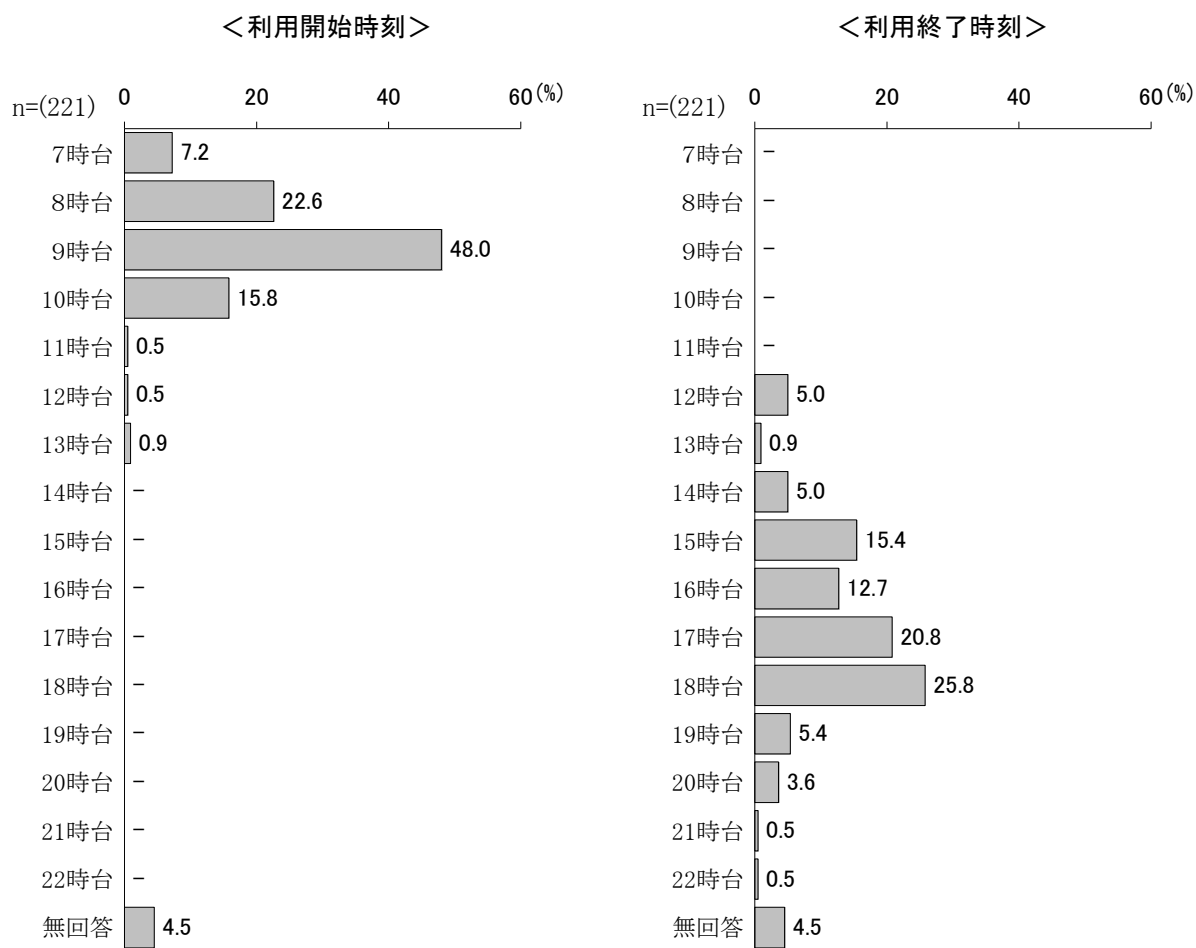
図表 7-2 土曜日の教育・保育事業の利用希望時間帯



日曜・祝日では、利用開始時刻は「9時台」(48.0%)が半数近くで最も高く、「8時台」(22.6%)、「10時台」(15.8%)と続いており、平均時刻は8時50分となっています。

利用終了時刻は「18時台」(25.8%)と「17時台」(20.8%)が2割を超えて高く、「15時台」(15.4%)、「16時台」(12.7%)と続いており、平均時刻は16時37分となっています。

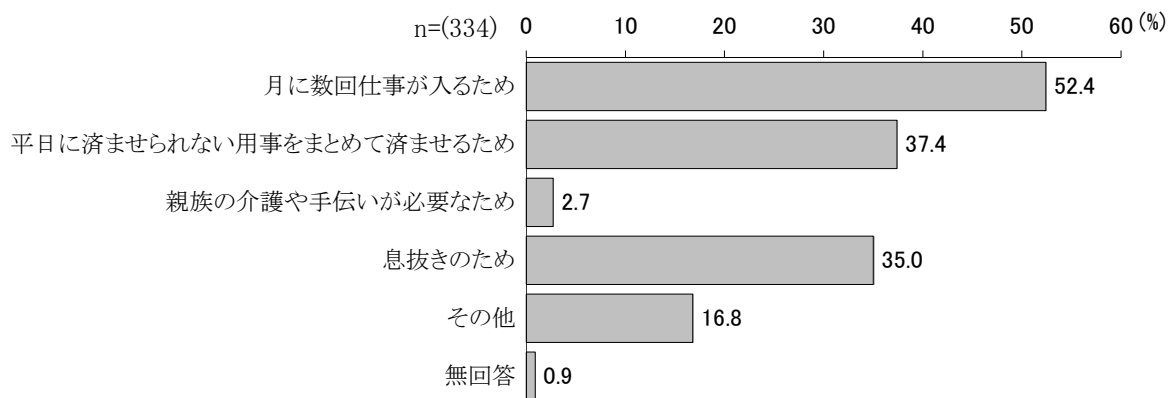
図表 7-3 日曜・祝日の教育・保育事業の利用希望時間帯



(1-2) 土日・祝日の教育・保育事業をたまに利用したい理由

土曜日もしくは日曜・祝日のいずれかで「月に1～2回は利用したい」場合の、毎週ではなくたまに利用したい理由を複数回答でたずねたところ、「月に数回仕事が入るため」(52.4%)が過半数で最も高く、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(37.4%)と「息抜きのため」(35.0%)が3割台となっています。

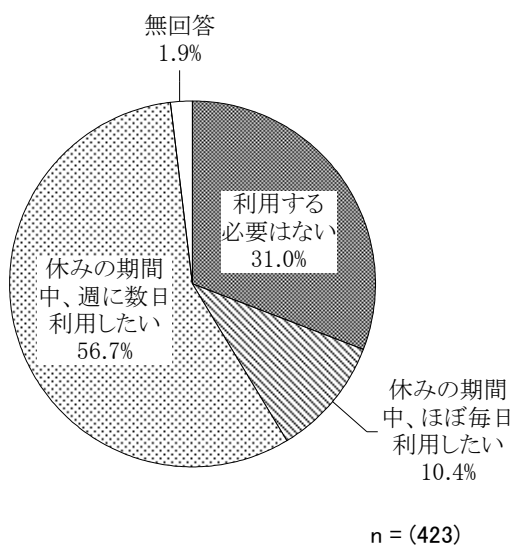
図表 7-4 土日・祝日の教育・保育事業をたまに利用したい理由



(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用希望をたずねたところ、「休みの期間中、週に数日利用したい」(56.7%)が過半数を占め、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が10.4%で、利用希望者は67.1%となっています。一方、「利用する必要はない」(31.0%)は3割強となっています。

図表 7-5 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

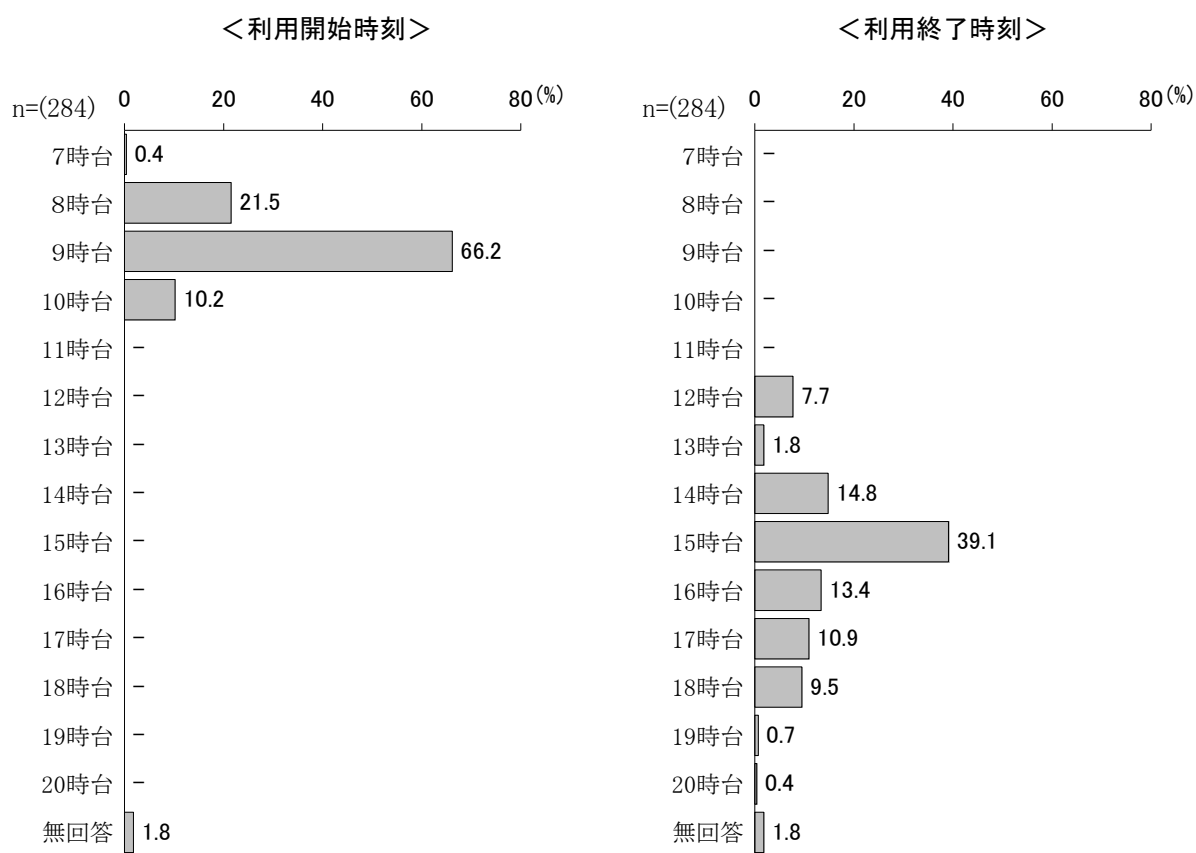


(2-1) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望時間帯

利用したい人に利用したい希望帯をたずねたところ、利用開始時刻は「9時台」(66.2%)が6割台半ばを占め、「8時台」(21.5%)、「10時台」(10.2%)と続いており、平均時刻は8時52分となっています。

利用終了時刻は「15時台」(39.1%)が約4割を占め、「14時台」(14.8%)、「16時台」(13.4%)と続いており、平均時刻は15時16分となっています。

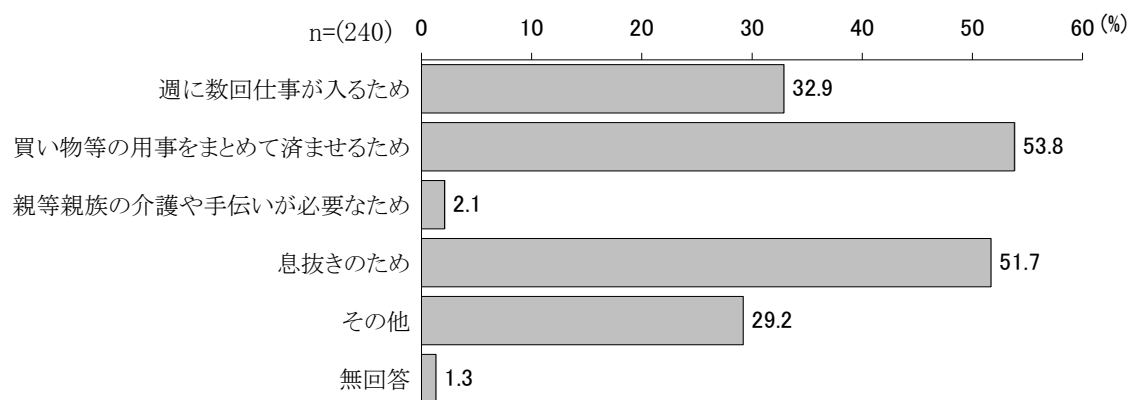
図表 7-6 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望時間帯



(2-2) 長期休暇中の教育・保育事業をたまに利用したい理由

週に数日利用したい場合の、毎週ではなくたまに利用したい理由を複数回答でたずねたところ、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(53.8%)と「息抜きのため」(51.7%)が過半数で多く、「週に数回仕事が入るため」が32.9%などとなっています。

図表 7-7 長期休暇中の教育・保育事業をたまに利用したい理由

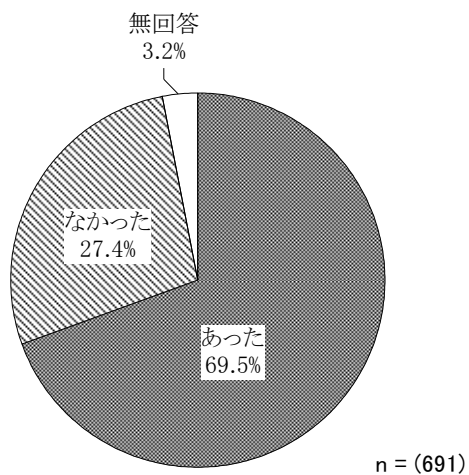


8 子どもが病気の際の対応について

(1) 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった経験

平日の定期的な教育・保育事業の利用者に、病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった経験をたずねたところ、「あった」(69.5%)が約7割を占めています。

図表8-1 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった経験

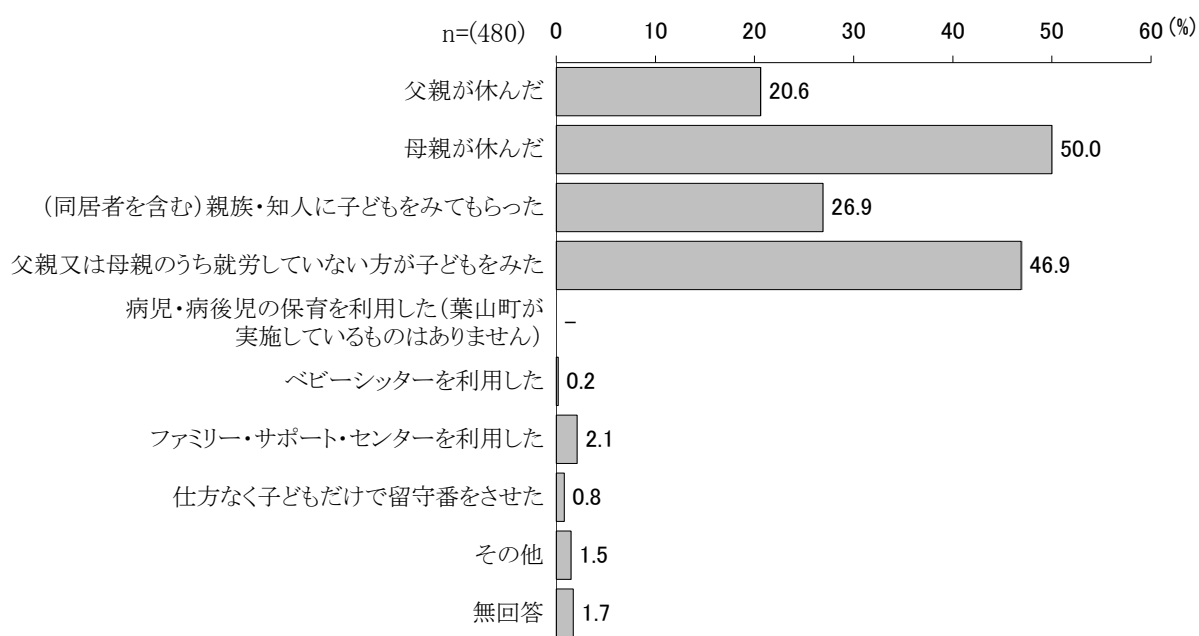


(1-1) 教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法

通常の事業が利用できなかった場合の対処方法を複数回答でたずねたところ、「母親が休んだ」(50.0%)が半数で最も高く、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」(46.9%)がこれに次いでいます。

対処方法ごとの日数は、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が平均年7.33日で最も多く、「母親が休んだ」が6.95日、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が6.94日などとなっています。

図表 8-2 教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法



図表 8-3 対処方法ごとの日数 (年間)

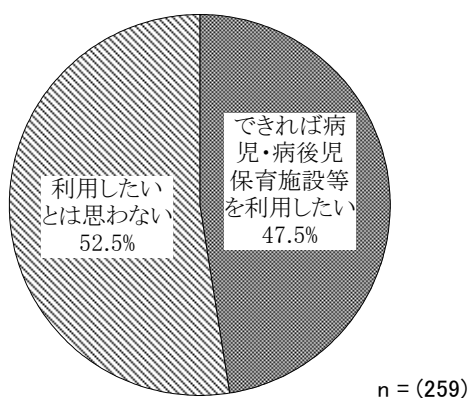
	n	(%)											平均 (日)
		1日	2日	3日	4日	5~9日	10~14日	15~19日	20~29日	30~59日	60日	無回答	
父親が休んだ	99	18.2	29.3	19.2	5.1	15.2	7.1	2.0	-	-	-	4.0	3.61
母親が休んだ	240	5.4	16.3	12.5	4.2	27.1	16.3	3.8	4.2	2.1	-	8.3	6.95
(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった	129	7.8	20.2	14.0	3.1	17.8	18.6	3.9	4.7	2.3	-	7.8	6.94
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	225	6.7	10.7	12.4	3.6	32.4	16.9	2.2	5.8	1.8	0.4	7.1	7.33
病児・病後児の保育を利用した	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ベビーシッターを利用した	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.00
ファミリー・サポート・センターを利用した	10	20.0	10.0	20.0	-	30.0	-	-	-	-	-	20.0	3.25
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	4	75.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	4.0	1.25
その他	7	28.6	28.6	-	28.6	-	-	-	-	-	-	14.3	2.33

(1-2) 病児・病後児保育の利用意向

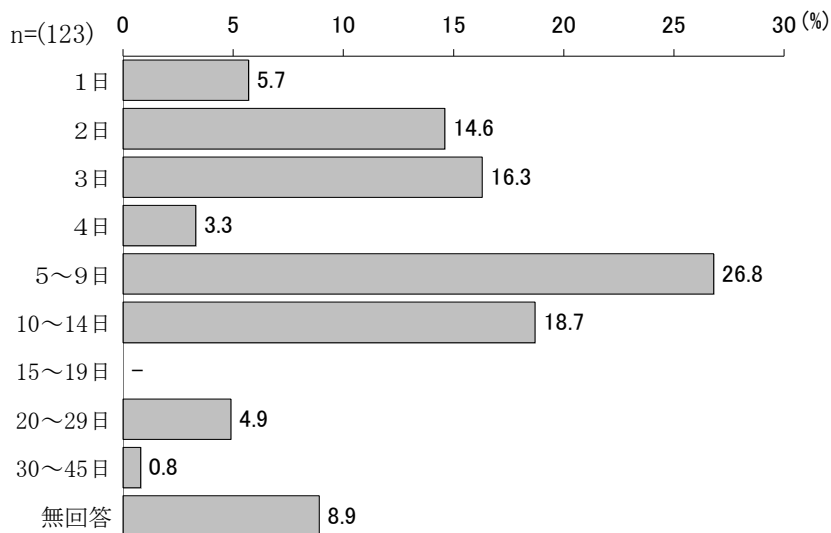
子どもが病気やケガなどの際に父親又は母親が休んだ場合、できれば病児・病後児保育を利用したいと思ったかをたずねたところ、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」(47.5%)は半数弱となっています。

利用を希望する日数は、年「5～9日」(26.8%)が2割台半ばで最も高く、「10～14日」(18.7%)、「3日」(16.3%)、「2日」(14.6%)などと続いており、平均は6.39日となっています。

図表 8-4 病児・病後児保育の利用意向

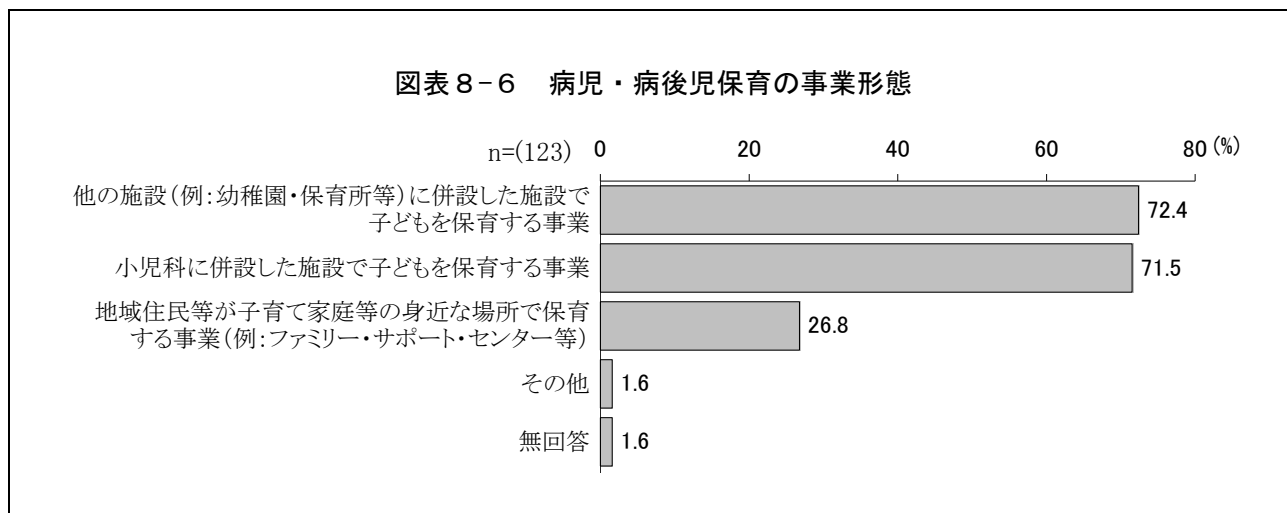


図表 8-5 病児・病後児保育の利用希望日数 (年間)



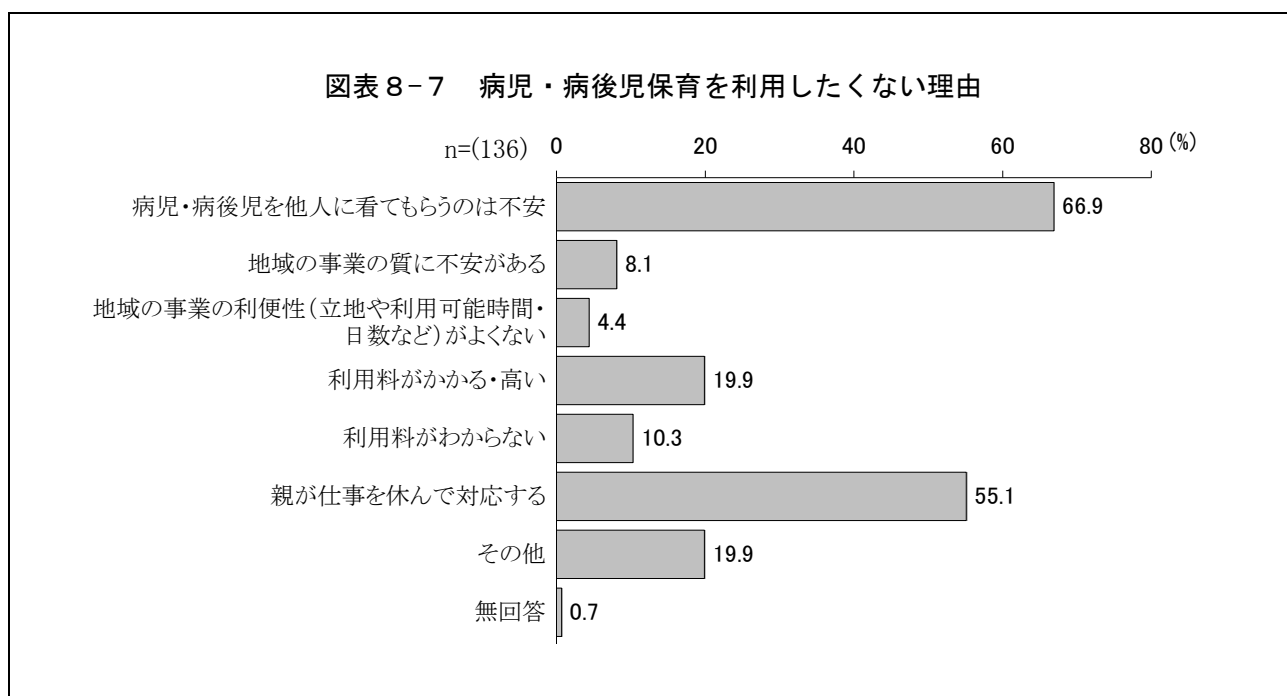
(1-3) 病児・病後児保育の事業形態

病児・病後児保育を利用する場合に望ましいと思う事業形態を複数回答でたずねたところ、「他の施設（例：幼稚園・保育園等）に併設した施設で子どもを保育する事業」（72.4%）と「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（71.5%）がいずれも7割を超えています。



(1-4) 病児・病後児保育を利用したくない理由

病児・病後児保育を利用したいとは思わない人に、その理由を複数回答でたずねたところ、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（66.9%）が7割近くで最も高く、「親が仕事を休んで対応する」（55.1%）が過半数となっています。

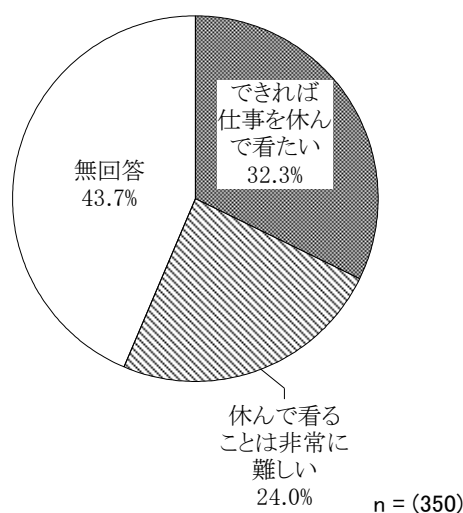


(1-5) 仕事を休んで看たい希望

子どもが病気やケガなどの際に父親・母親が休めなかった場合、できれば休んで看たいと思ったかをたずねたところ、「できれば仕事を休んで看たい」が32.3%、「休んで看することは非常に難しい」が24.0%となっています。

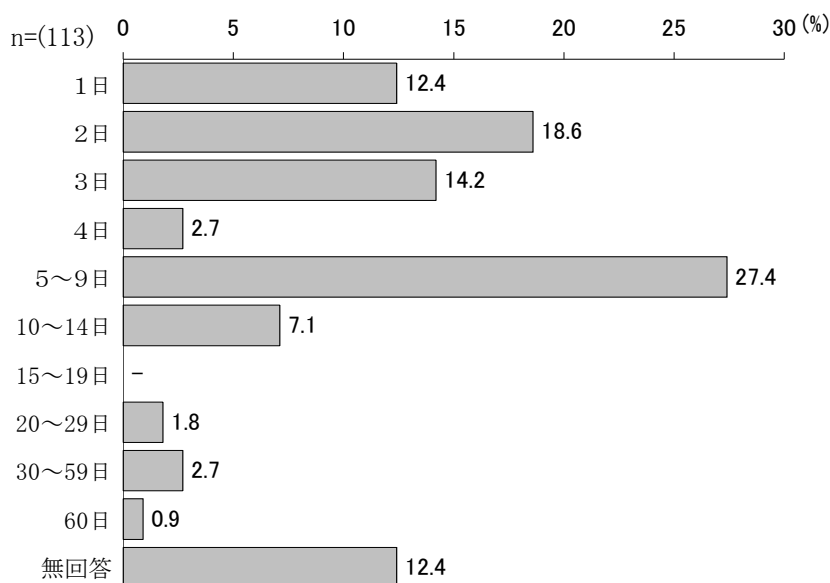
休んで看たい日数は、年「5～9日」(27.4%)が3割近くで最も高く、「2日」(18.6%)、「3日」(14.2%)、「1日」(12.4%)などと続いており、平均は5.69日となっています。

図表 8-8 仕事を休んで看たい希望



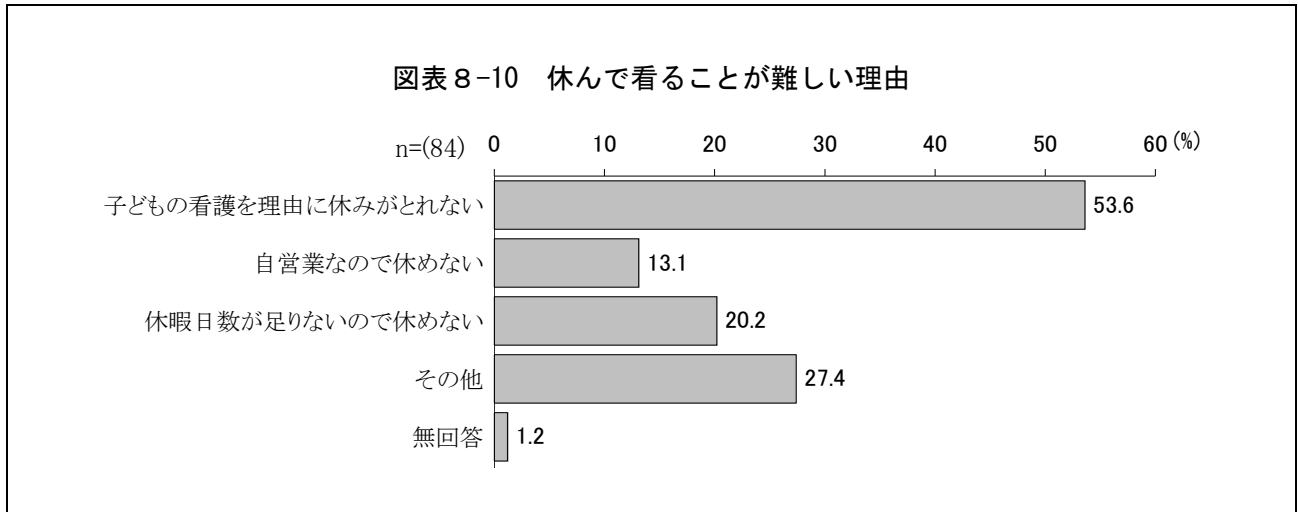
※母親又は父親が就労していない場合などは無回答となっています。

図表 8-9 仕事を休んで看たい日数 (年間)



(1-6) 休んで看ることが難しい理由

仕事を休んで子どもを看ることが非常に難しいと思う理由について複数回答でたずねたところ、「子どもの看護を理由に休みがとれない」(53.6%)が過半数で最も高く、「休假日数が足りないので休めない」が20.2%、「自営業なので休めない」が13.1%となっています。



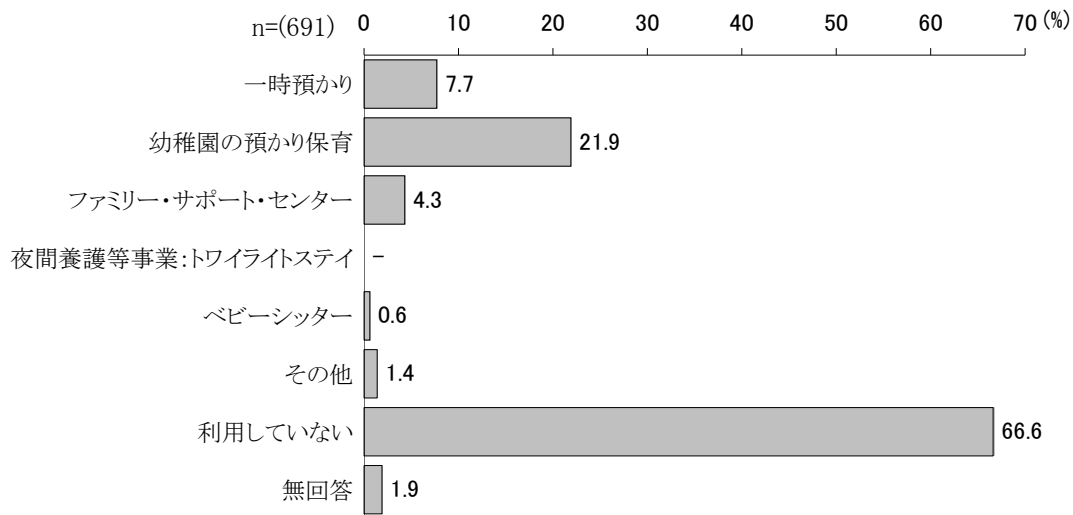
9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 不定期の教育・保育事業の利用状況

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業についてたずねたところ、「特になしていない」(66.6%)が6割台半ばを占めています。利用している中では「幼稚園の預かり保育」(21.9%)が2割強で最も高くなっています。

利用している事業ごとの利用日数は、「一時預かり」が平均月1.17日で最も多く、「幼稚園の預かり保育」が1.08日などとなっています。

図表9-1 不定期の教育・保育事業の利用状況



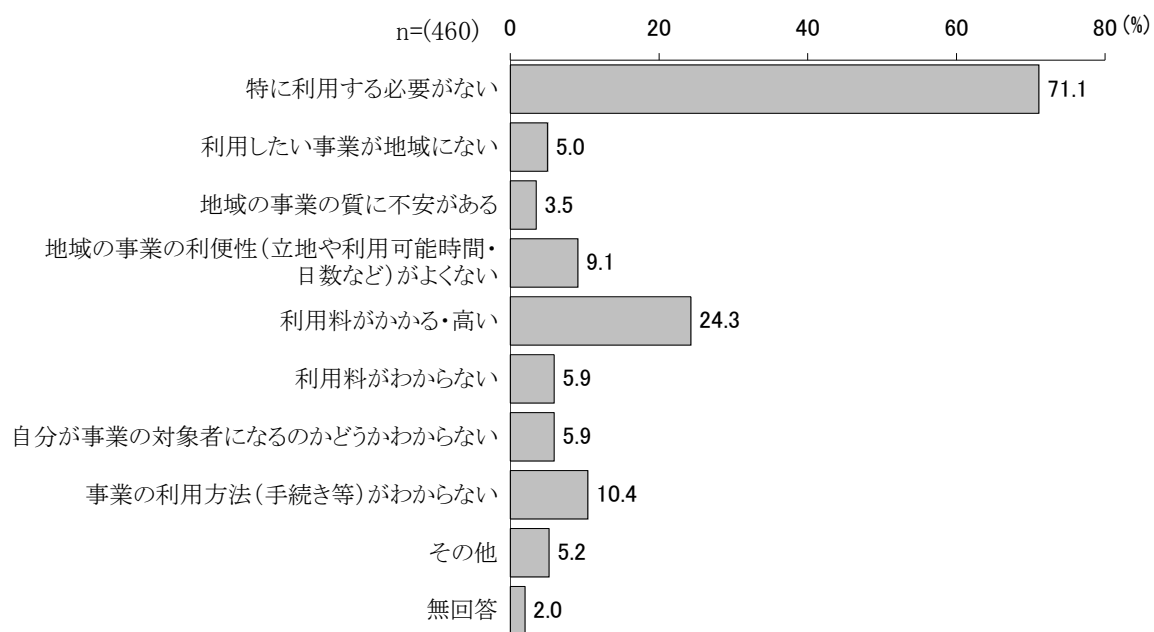
図表9-2 事業ごとの利用日数(月間)

	n	利用日数 (%)						平均(日)
		1日未満	1～2日未満	2～3日未満	3～4日未満	4日以上	無回答	
一時預かり	53	69.8	11.3	3.8	1.9	7.5	5.7	1.17
幼稚園の預かり保育	151	64.9	19.2	3.3	2.6	5.3	4.6	1.08
ファミリー・サポート・センター	30	83.3	13.3	-	-	-	3.3	0.51
夜間養護等事業:トワイライトステイ	-	-	-	-	-	-	-	-
ベビーシッター	4	50	25	25	-	-	4	0.88
その他	10	60	-	10	-	10	20	1.50

(1-1) 不定期の教育・保育事業を利用していない理由

不定期の教育・保育事業を利用していない人に、その理由を複数回答でたずねたところ、「特に利用する必要がない」(71.1%)が7割強で特に高く、「利用料がかかる・高い」が24.3%、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が10.4%などとなっています。

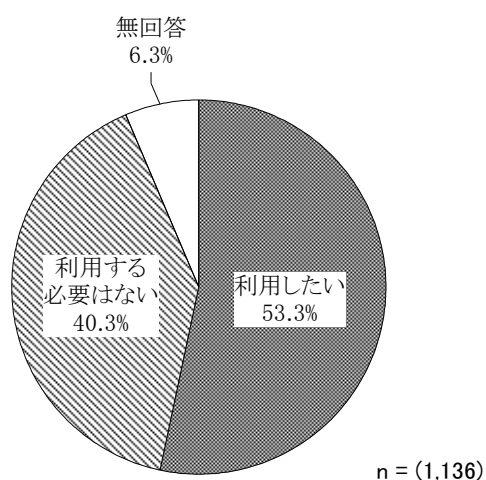
図表 9-3 不定期の教育・保育事業を利用していない理由



(2) 不定期の教育・保育事業の利用希望

不定期の教育・保育事業の利用希望をたずねたところ、「利用したい」(53.3%)が過半数を占めています。

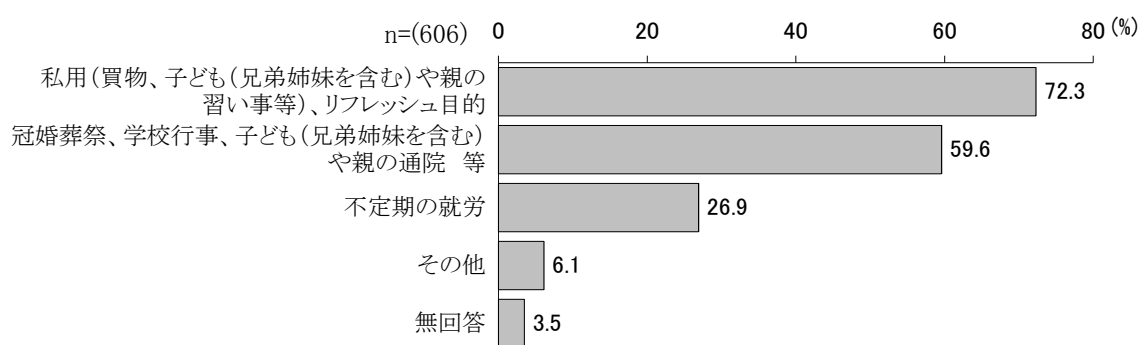
図表 9-4 不定期の教育・保育事業の利用希望



(2-1) 不定期の教育・保育事業の利用目的

利用したい場合の利用目的を複数回答でたずねたところ、「私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」(72.3%)が7割以上で最も高く、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院 等」(59.6%)が約6割などとなっています。

図表 9-5 不定期の教育・保育事業の利用目的



(2-2) 不定期の教育・保育事業の利用希望日数

利用したい日数をたずねたところ、平均日数は「不定期の就労」が最も多く、年間22.10日となっています。全ての目的を合計した平均では21.65日となっています。

図表 9-6 不定期の教育・保育事業の利用希望日数（年間）

	n	平均(日)
私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的	416	12.39
冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等	341	7.54
不定期の就労	153	22.10
その他	32	17.56
計	555	21.65

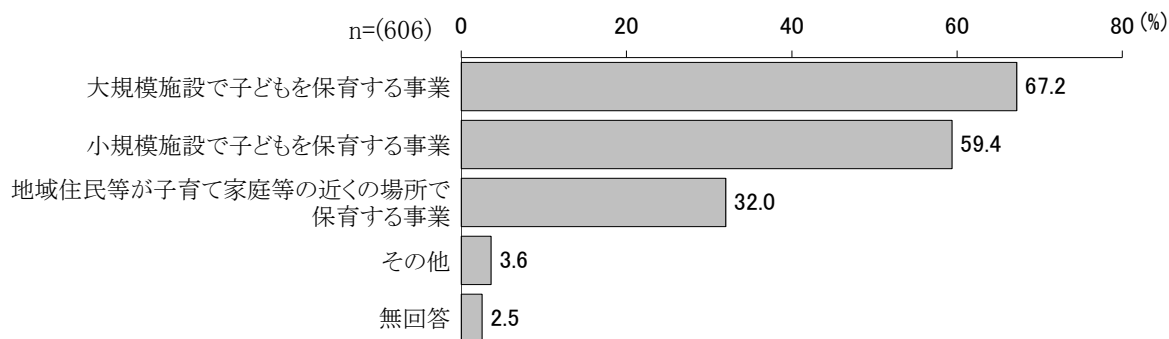
※nは日数を記入したものとしました。

※計のみを記入している場合があるため、計は内訳の合計とは一致しません。

(2-3) 不定期の教育・保育事業で望ましい事業形態

不定期の教育・保育事業を利用したい場合に望ましい事業形態を複数回答でたずねたところ、「大規模施設で子どもを保育する事業」（67.2%）が7割近くで最も高く、「小規模施設で子どもを保育する事業」（59.4%）が約6割などとなっています。

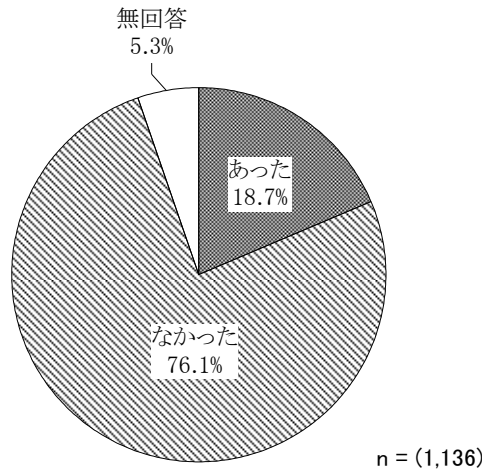
図表 9-7 望ましい事業形態



(3) 子どもを家族以外の誰かに泊りがけで預けた経験の有無

子どもを家族以外の誰かに泊りがけで預けた経験の有無をたずねたところ、「なかった」(76.1%)が7割台半ばを占め、「あった」(18.7%)は2割弱となっています。

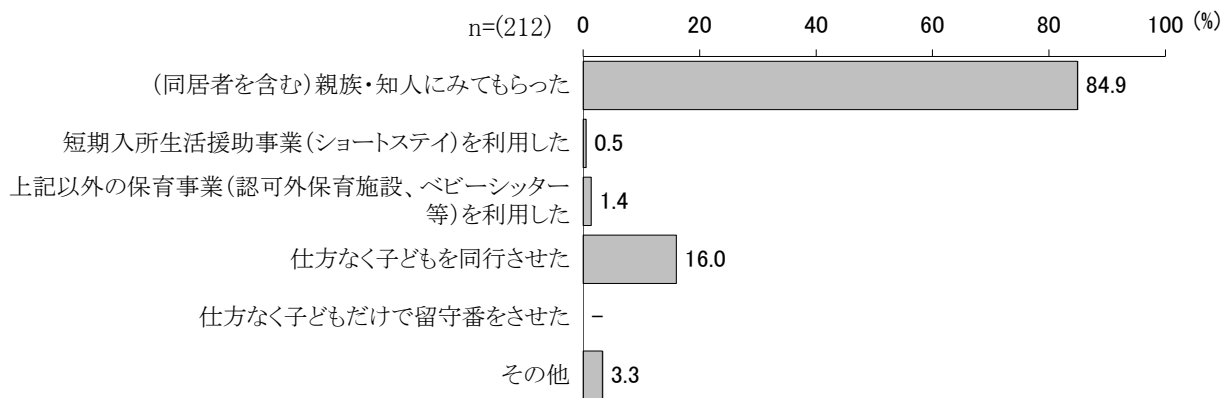
図表9-8 子どもを家族以外の誰かに泊りがけで預けた経験の有無



(3-1) 対処方法・預け先

具体的な対処方法(預け先)を複数回答でたずねたところ、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」(84.9%)が8割台半ばで最も高く、「仕方なく子どもを同行させた」が16.0%となっています。保育事業等を利用した割合はわずかとなっています。

図表9-9 対処方法・預け先



(3-2) 泊りがけで預けた日数

泊りがけで預けた日数は、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が年平均6.02泊、「仕方なく子どもを同行させた」が2.30泊となっています。

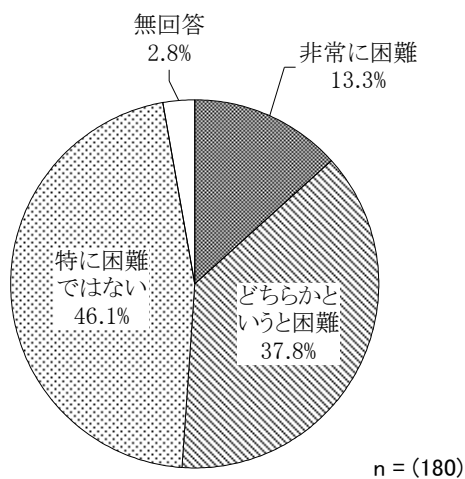
図表 9-10 泊りがけで預けた日数 (年間)

	n	(%)										平均 (日)
		1日	2日	3日	4日	5 ～ 9日	10 ～ 14日	15 ～ 19日	20 ～ 29日	30 日 以上	無 回 答	
(同居者を含む) 親族・ 知人にみてもらった	180	28.9	16.1	13.9	5.6	18.3	7.2	0.6	2.2	2.8	4.4	6.02
短期入所生活援助事業 (ショートステイ) を 利用した	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	30.00
上記以外の保育事業 (認 可外保育施設、ベビーシ ッター等) を利用した	3	66.7	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	4.00
仕方なく子どもを同行 させた	34	29.4	17.6	20.6	2.9	8.8	-	-	-	-	20.6	2.30
仕方なく子どもだけで 留守番させた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	7	14.3	14.3	14.3	-	28.6	-	-	14.3	-	14.3	17.56

(3-3) 子どもをみてもらう親族・知人等を確保する困難度

子どもを親族・知人にみてもらった場合の困難度をたずねたところ、「非常に困難」(13.3%)と「どちらかという困難」(37.8%)をあわせた『困難である』(51.1%)が過半数を占めています。

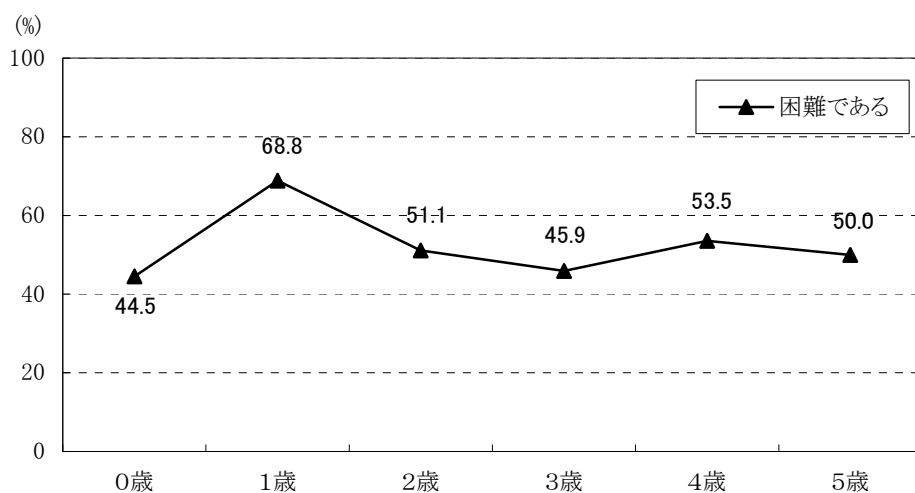
図表9-11 子どもをみてもらう親族・知人等を確保する困難度



■ 子どもの年齢別

子どもの年齢別にみると、『困難である』は1歳(68.8%)で7割近くと高く、それ以外の年齢ではいずれも5割前後となっています。

図表9-12 子どもをみてもらう親族・知人等を確保する困難度 - 子どもの年齢別

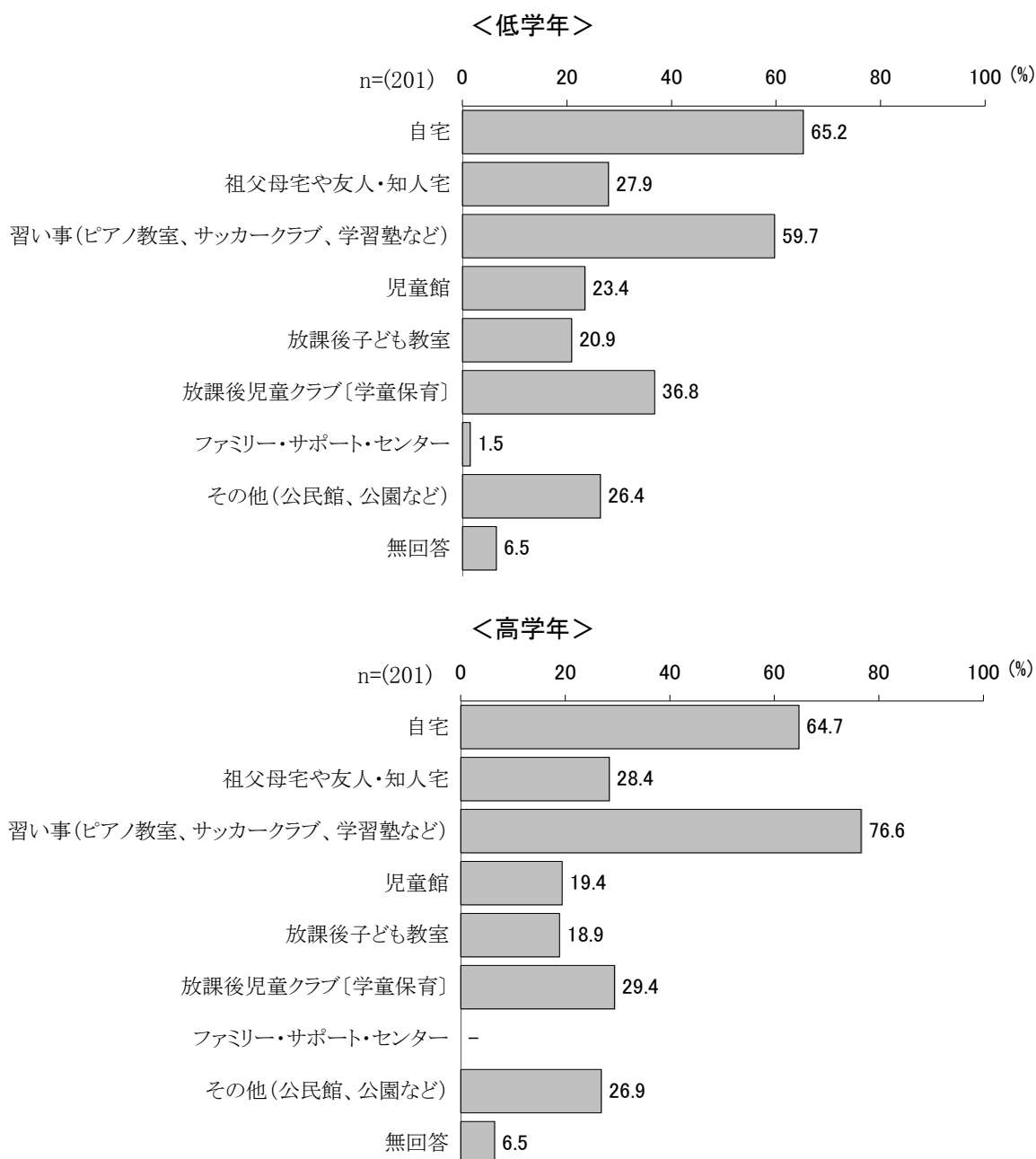


10 小学校就学後の放課後の過ごし方について

(1) 小学校就学後の放課後の過ごし方

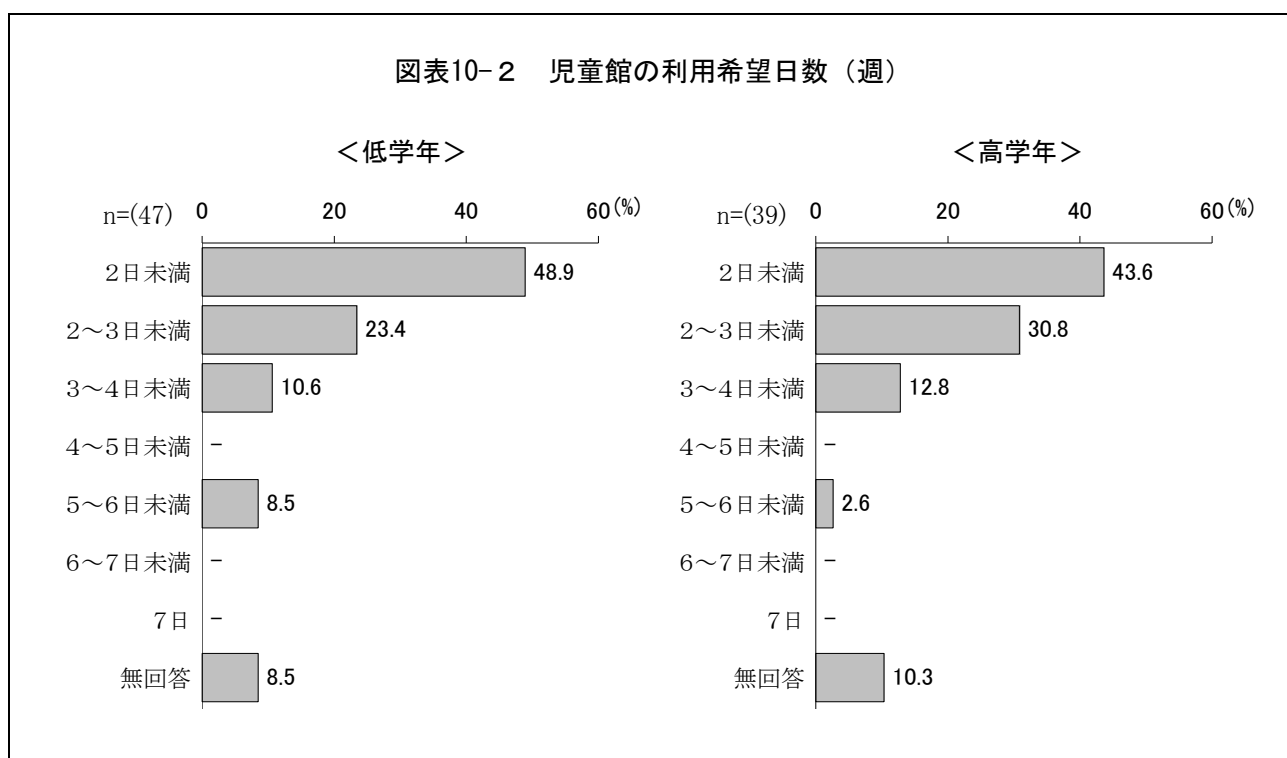
小学校就学後に、放課後をどのような場所で過ごさせたいかを複数回答でたずねたところ、低学年、高学年とも「自宅」と「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の2項目が特に高くなっています。「放課後児童クラブ〔学童保育〕」は低学年（36.8%）で4割弱、高学年（29.4%）で約3割、「放課後子ども教室」は低学年（20.9%）、高学年（18.9%）とも約2割となっています。

図表10-1 小学校就学後の放課後の過ごし方



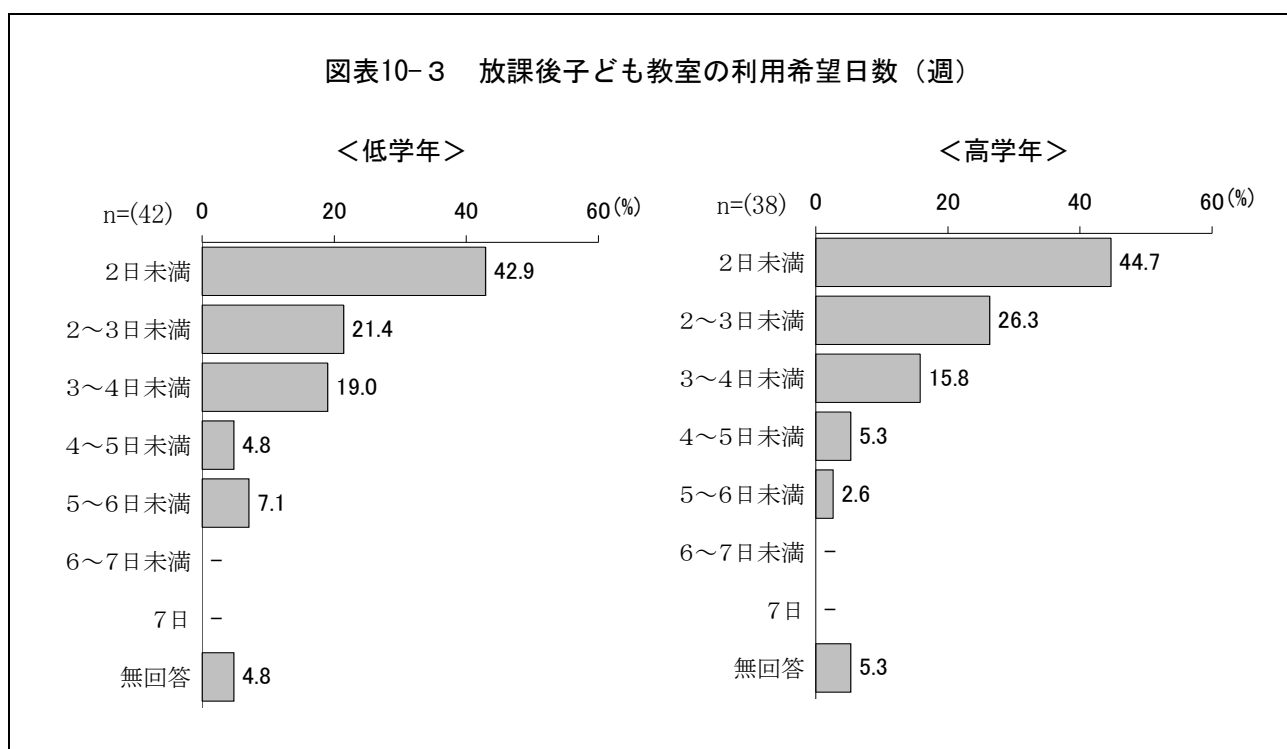
(1-1) 児童館の利用希望日数

児童館で過ごさせたい日数は、低学年、高学年とも週「2日未満」が最も高くなっています。平均日数は低学年で1.85日、高学年で1.74日となっています。



(1-2) 放課後子ども教室の利用希望日数

放課後子ども教室で過ごさせたい日数は、低学年、高学年とも週「2日未満」が最も高くなっています。平均日数は低学年で2.08日、高学年で1.89日となっています。

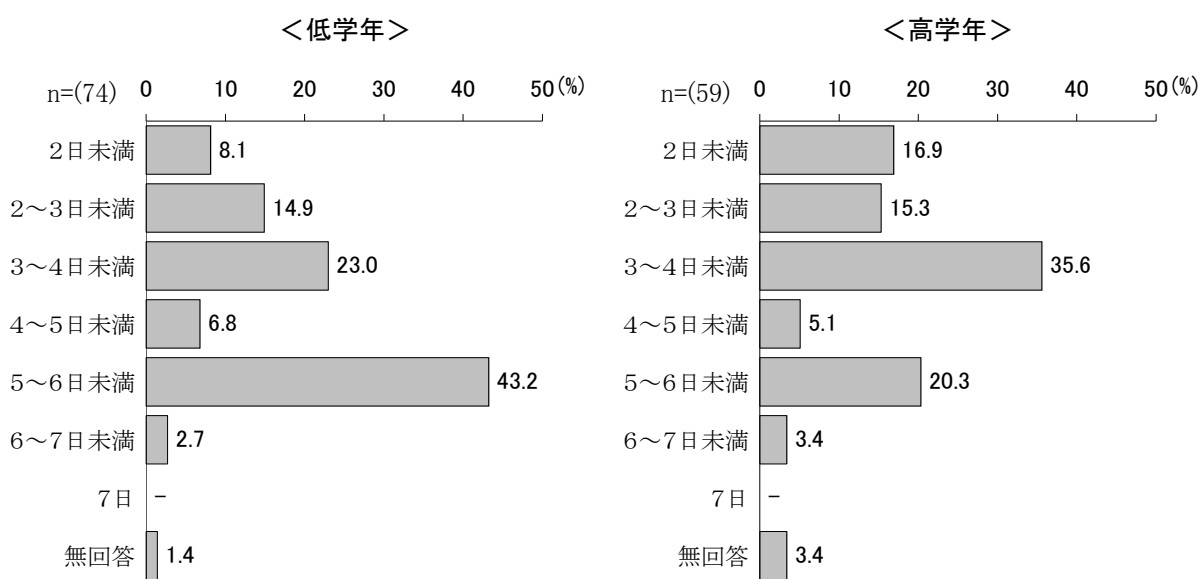


(1-3) 放課後児童クラブの利用希望日数・時間

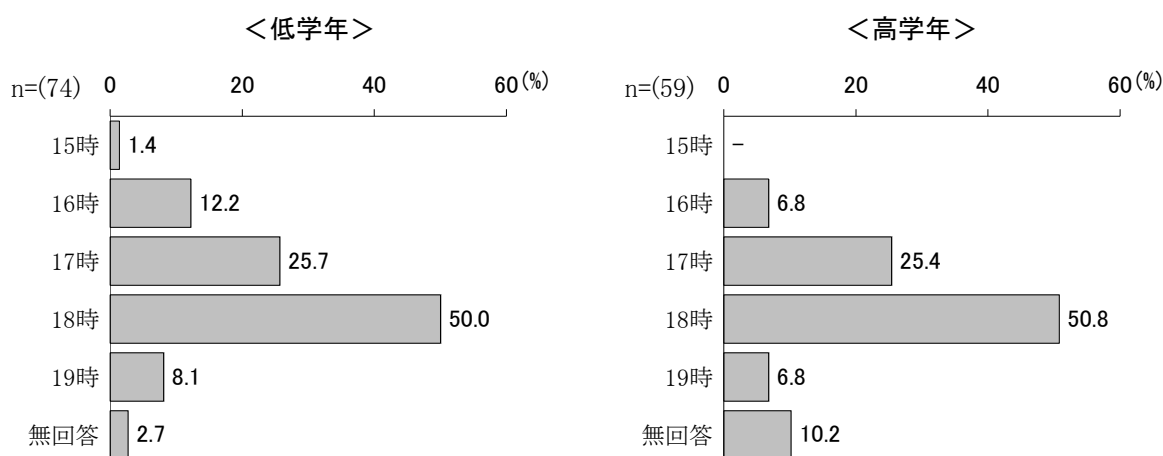
放課後児童クラブで過ごさせたい日数は、低学年では週「5～6日未満」(43.2%)が4割を超えて最も高く、高学年では「3～4日未満」(35.6%)が3割台半ばで最も高くなっています。平均日数は低学年が3.71日、高学年が3.07日となっています。

放課後児童クラブで過ごさせたい場合、下校時から何時まで利用したいかは、低学年、高学年とも「18時」までが約半数で最も高くなっています。平均終了時刻は、低学年で17時31分、高学年で17時38分となっています。

図表10-4 放課後児童クラブの利用希望日数(週)



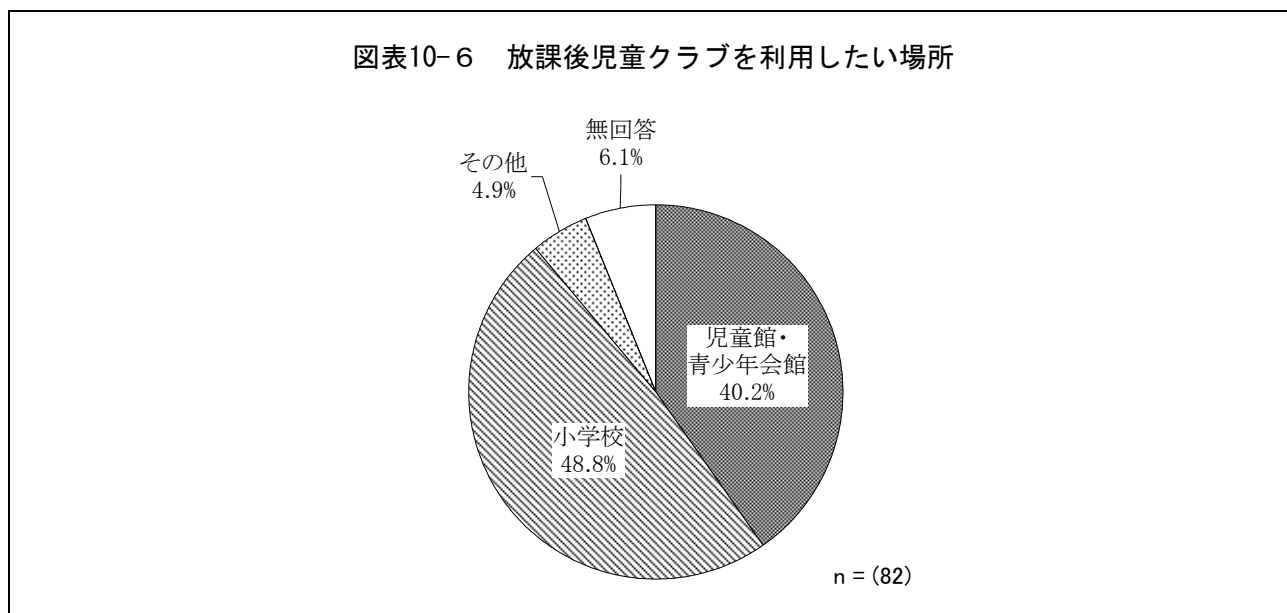
図表10-5 放課後児童クラブの利用希望時間(終了時刻)



※ファミリー・サポート・センターの利用希望日数については、利用希望者が少ないため省略します。

(1-4) 放課後児童クラブを利用したい場所

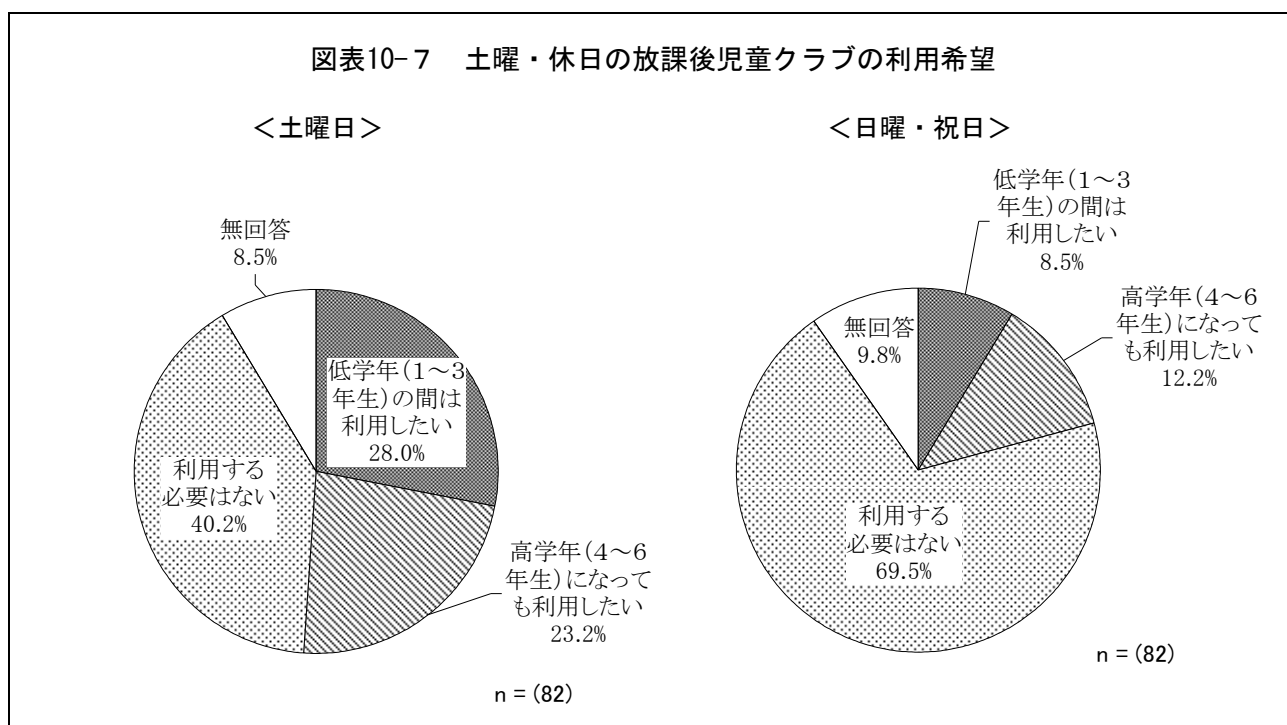
低学年または高学年で放課後児童クラブを利用したい場合、利用を希望する場所をたずねたところ、「小学校」(48.8%)が半数弱を占め、「児童館・青少年会館」(40.2%)が約4割となっています。



(1-5) 土曜・休日の放課後児童クラブの利用希望

放課後児童クラブを利用したい場合、土曜日と日曜日・祝日にも利用希望があるかたずねたところ、土曜日は、「低学年(1~3年生)の間は利用したい」(28.0%)と「高学年(4~6年生)になっても利用したい」(23.2%)をあわせた利用希望者(51.2%)が過半数を占めています。

日曜・祝日は、「低学年(1~3年生)の間は利用したい」(8.5%)と「高学年(4~6年生)になっても利用したい」(12.2%)をあわせた利用希望者(20.7%)は約2割となっています。

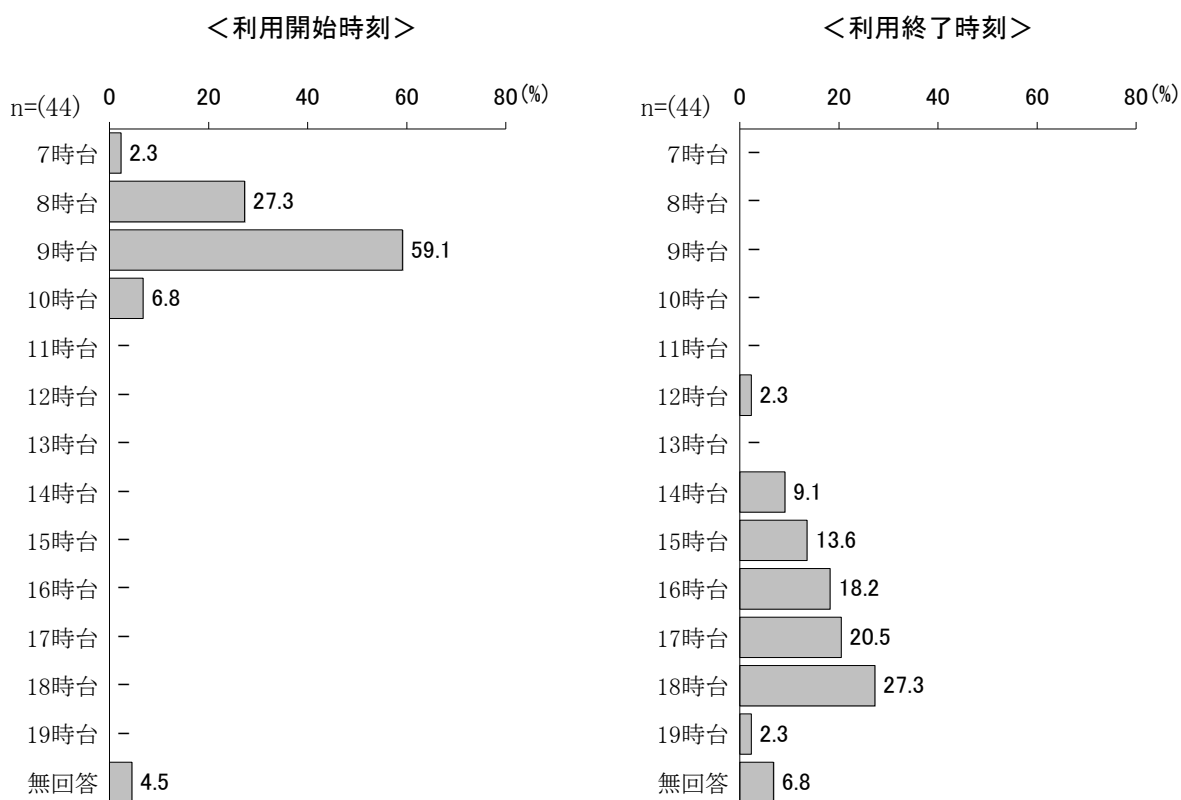


(1-6) 土曜・休日の放課後児童クラブの利用希望時間帯

利用したい人に利用したい希望帯をたずねたところ、土曜日では、利用開始時刻は「9時台」(59.1%)が約6割を占め、「8時台」(27.3%)が続いており、平均時刻は8時42分となっています。

利用終了時刻は「18時台」(27.3%)が3割近くで最も多く、「17時台」(20.5%)、「16時台」(18.2%)と続いており、平均時刻は16時29分となっています。

図表10-8 土曜日の放課後児童クラブの利用希望時間帯



日曜・祝日は、回答者が少ないので図表は参考程度とします。

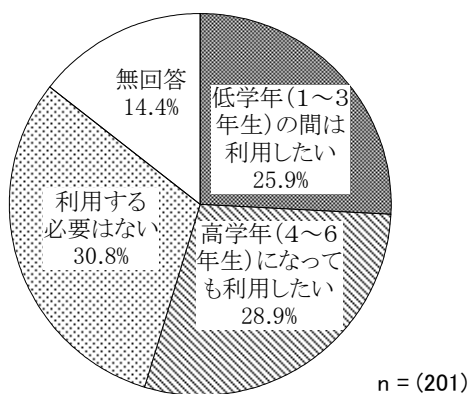
図表10-9 日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望時間帯

	n	(人)													平均
		8時台	9時台	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台	19時台	無回答	
利用開始時刻	18	3	12	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8時56分
利用終了時刻	18	-	-	-	-	1	-	2	1	4	3	4	2	1	16時33分

(1-7) 長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望

放課後児童クラブの夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の利用希望をたずねたところ、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（25.9%）と「高学年（4～6年生）になっても利用したい」（28.9%）をあわせた利用希望者（54.8%）が過半数を占めています。

図表10-10 長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望

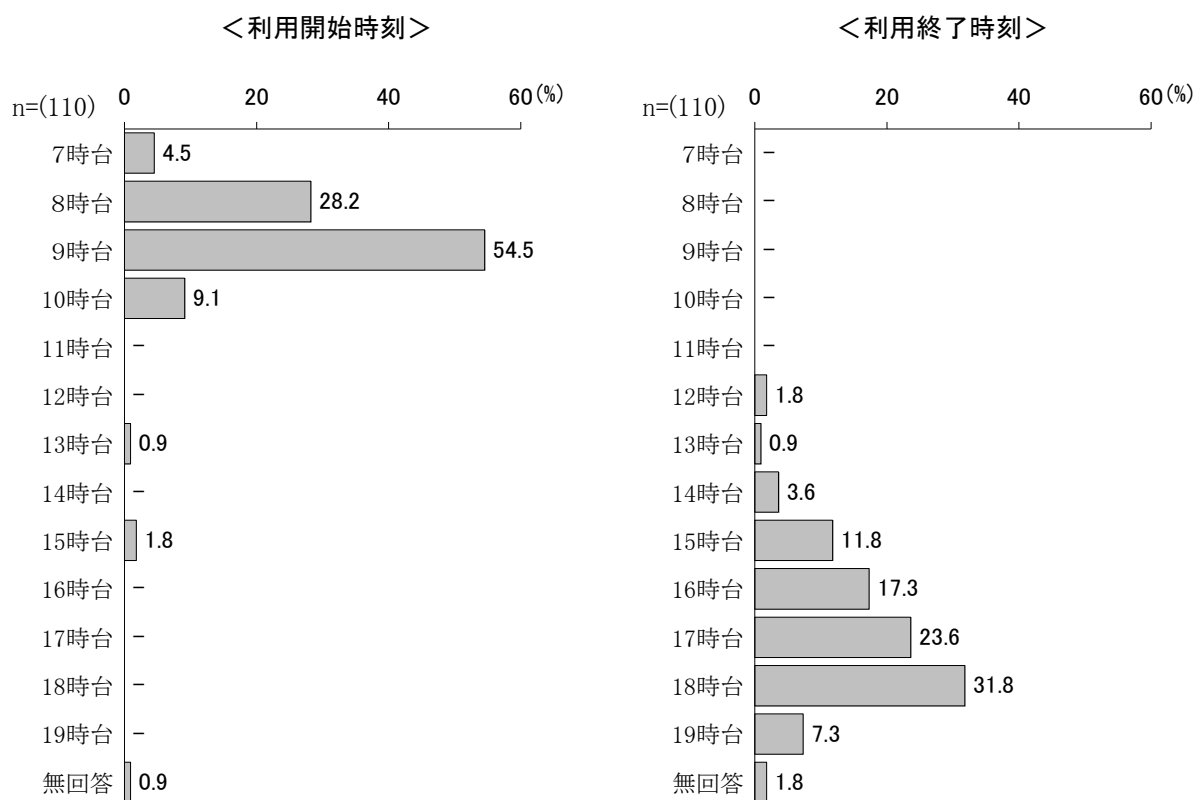


(1-8) 長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望時間帯

利用したい人に利用したい希望帯をたずねたところ、利用開始時刻は「9時台」(54.5%)が過半数を占め、「8時台」(28.2%)が続いており、平均時刻は8時51分となっています。

利用終了時刻は「18時台」(31.8%)が3割強で最も多く、「17時台」(23.6%)、「16時台」(17.3%)と続いており、平均時刻は16時48分となっています。

図表10-11 長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望時間帯



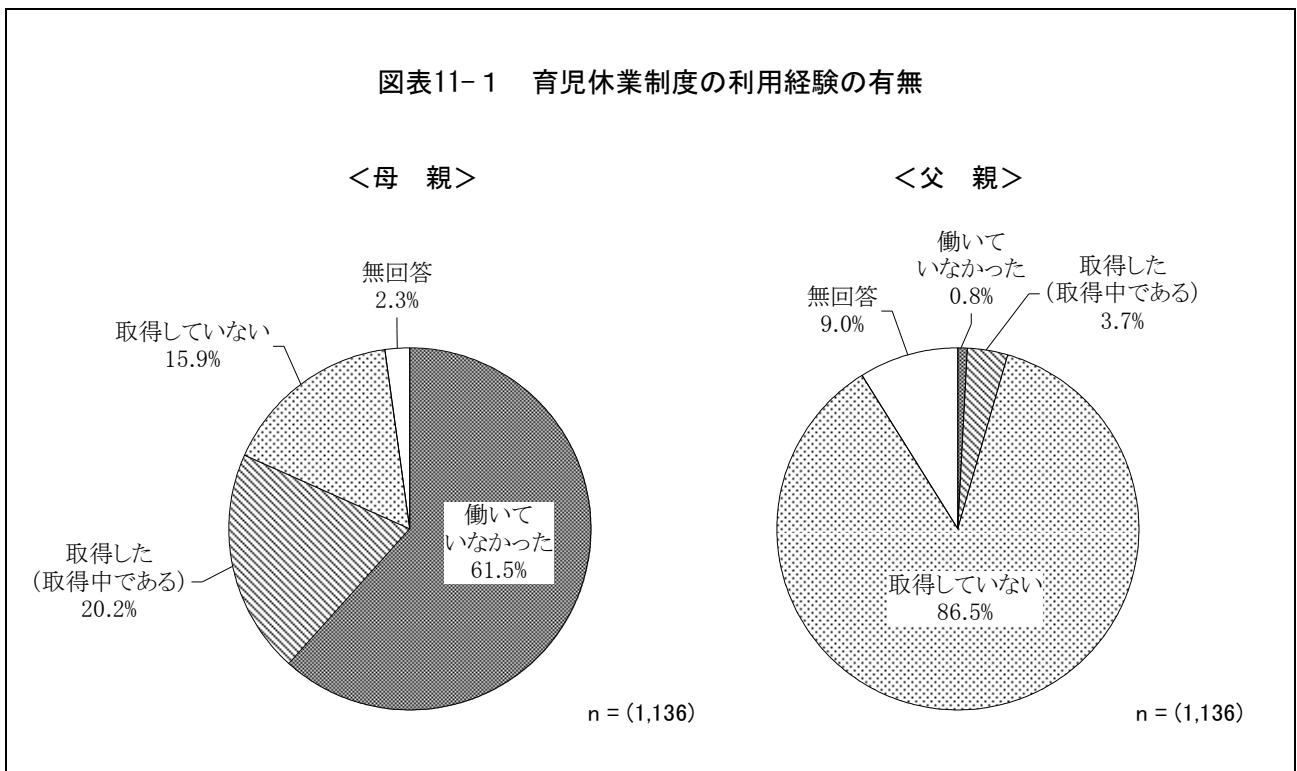
11 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

(1) 育児休業制度の利用経験の有無

育児休業制度の利用経験の有無をたずねたところ、母親は「働いていなかった」(61.5%)が6割以上を占め、「取得した(取得中である)」が20.2%、「取得していない」が15.9%となっています。

父親は、「取得していない」(86.5%)が8割台半ばを占め、「取得した(取得中である)」は3.7%にとどまっています。

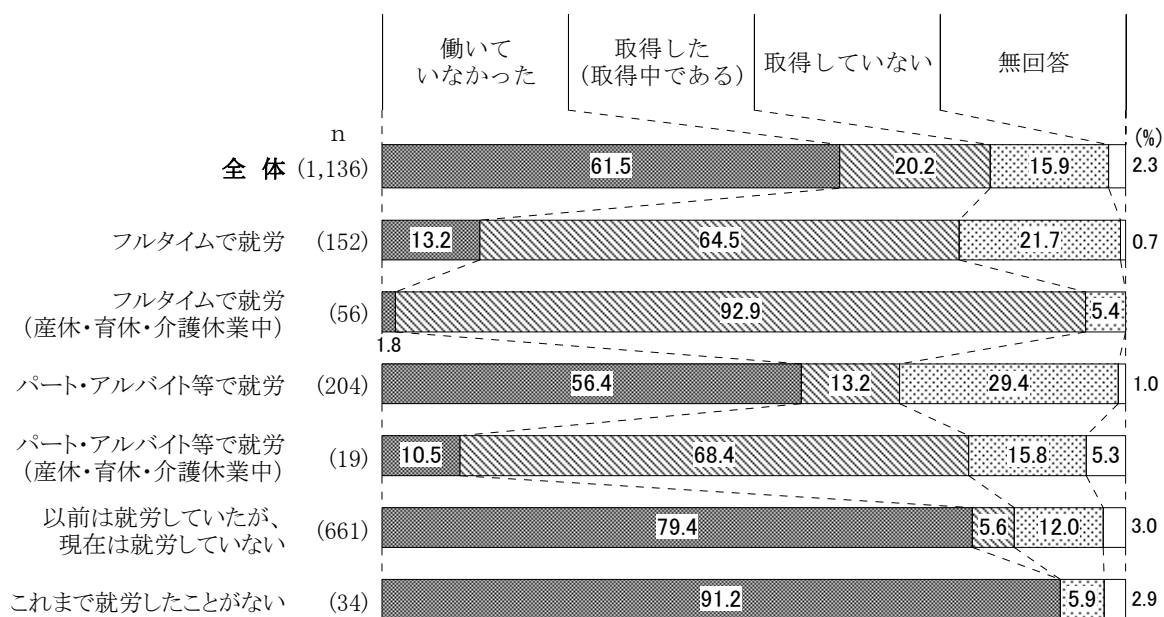
図表11-1 育児休業制度の利用経験の有無



■ 母親の職業別

母親の育児休業制度の利用経験の有無を母親の職業別にみると、フルタイムで就労している人は「取得した」(65.4%)が6割台半ばを占め、「取得していない」(21.7%)は2割強となっています。一方、パート・アルバイト等で就労している人は「取得した」は13.2%となっており、大きな乖離がみられます。

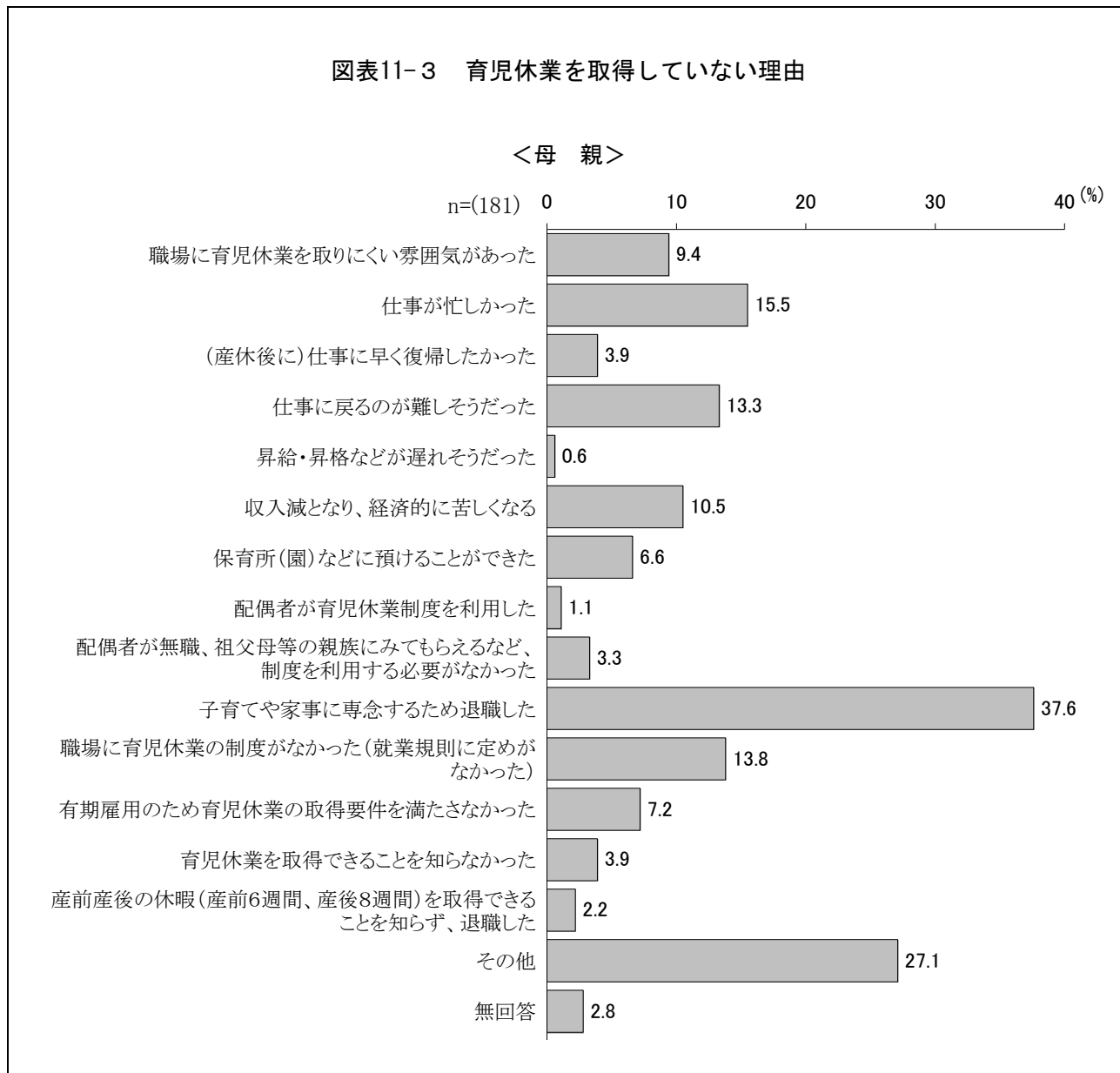
図表11-2 育児休業制度の利用経験の有無(母親) - 母親の職業別



(1-1) 育児休業を取得していない理由

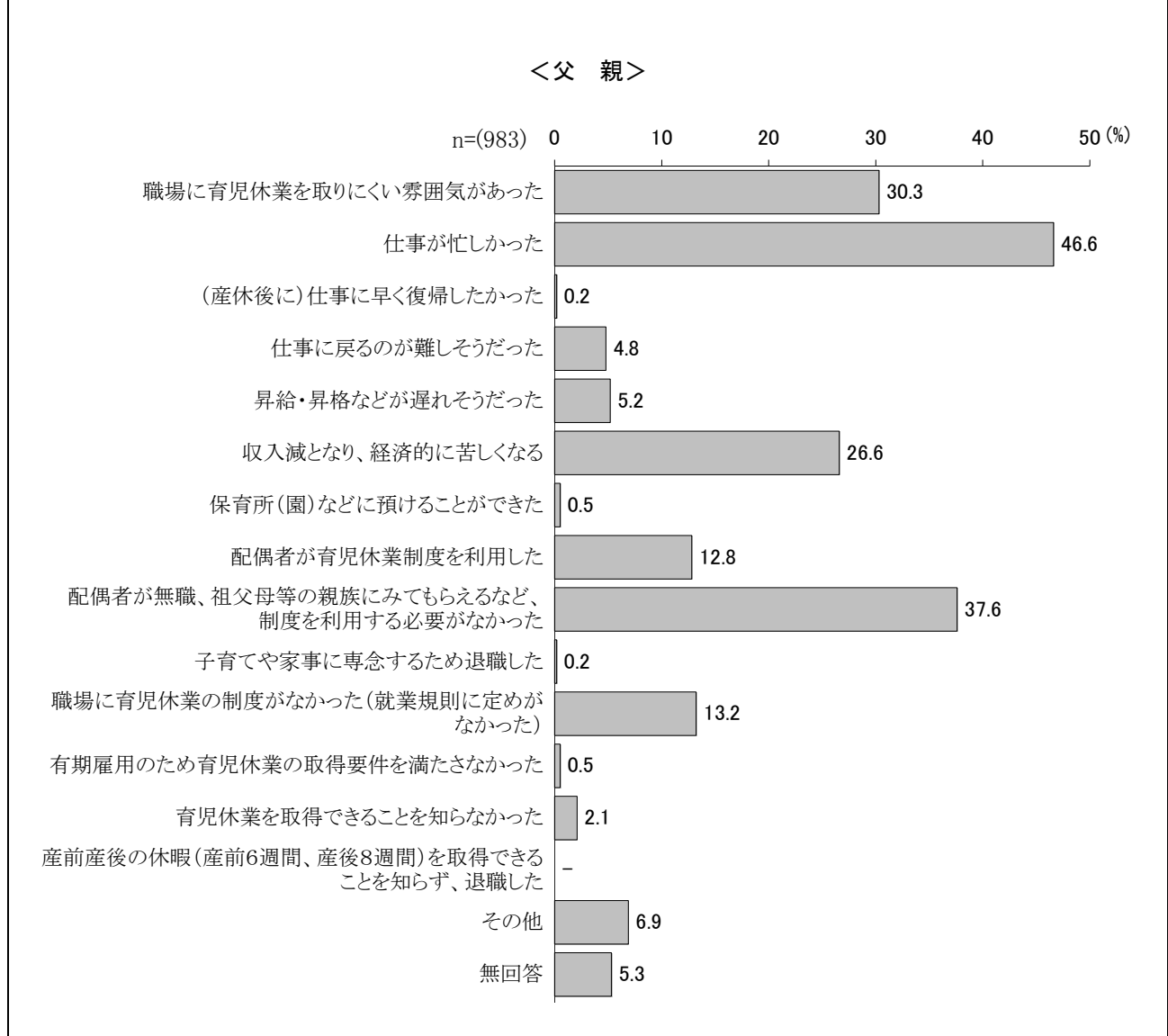
育児休業を取得しなかった場合の理由を複数回答でたずねたところ、母親は、「子育てや家事に専念するため退職した」(37.6%)が4割近くで特に高くなっています。以下、「仕事が忙しかった」(15.5%)、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」(13.8%)、「仕事に戻るのが難しそうだった」(13.3%)などとなっています。

図表11-3 育児休業を取得していない理由



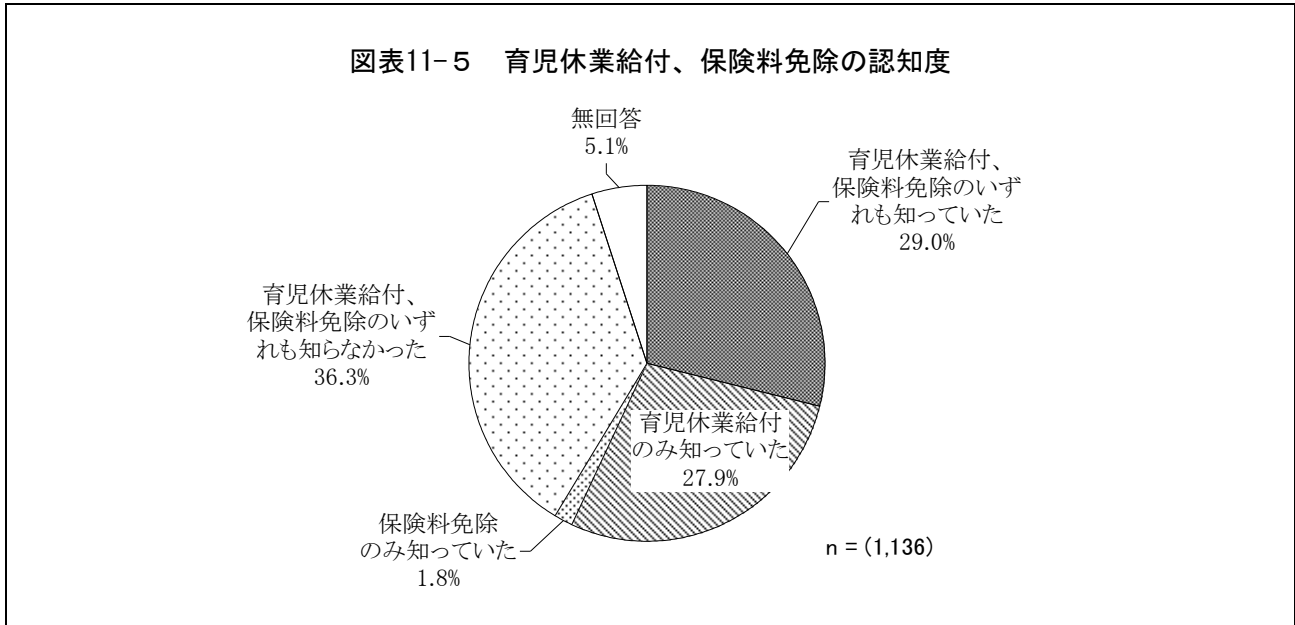
父親は、「仕事が忙しかった」(46.6%)が半数近くで最も高くなっています。以下、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(37.6%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(30.3%)、「収入源となり、経済的に苦しくなる」(26.6%)などとなっています。

図表11-4 育児休業を取得していない理由



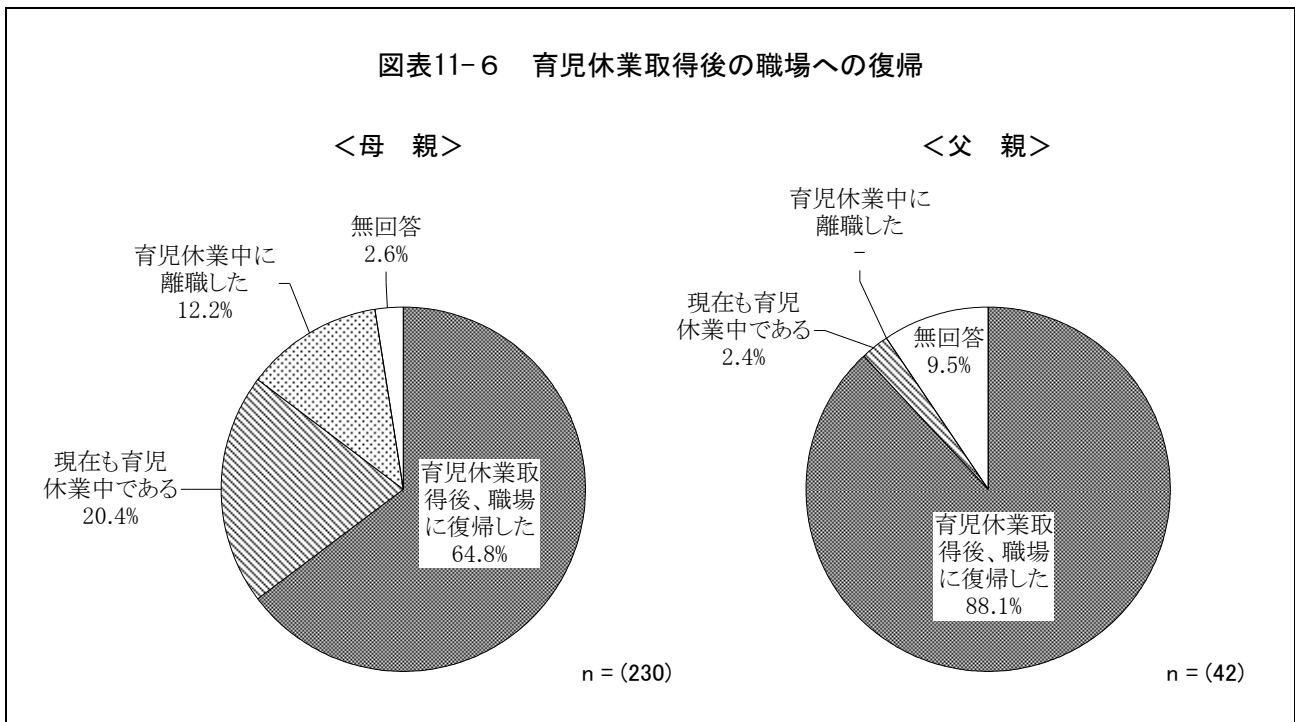
(1-2) 育児休業給付、保険料免除の認知度

育児休業給付の支給、健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みの認知度をたずねたところ、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」(29.0%)は約3割で、「育児休業給付のみ知っていた」が27.9%となっています。一方、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」(36.3%)は3割台半ばとなっています。



(1-3) 育児休業取得後の職場への復帰

育児休業を取得した場合、取得後に職場に復帰したかをたずねたところ、母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」(64.8%)が6割台半ばを占め、「育児休業中に離職した」は12.2%となっています。父親は「育児休業取得後、職場に復帰した」(88.1%)が回答者のほぼ全数を占めています。

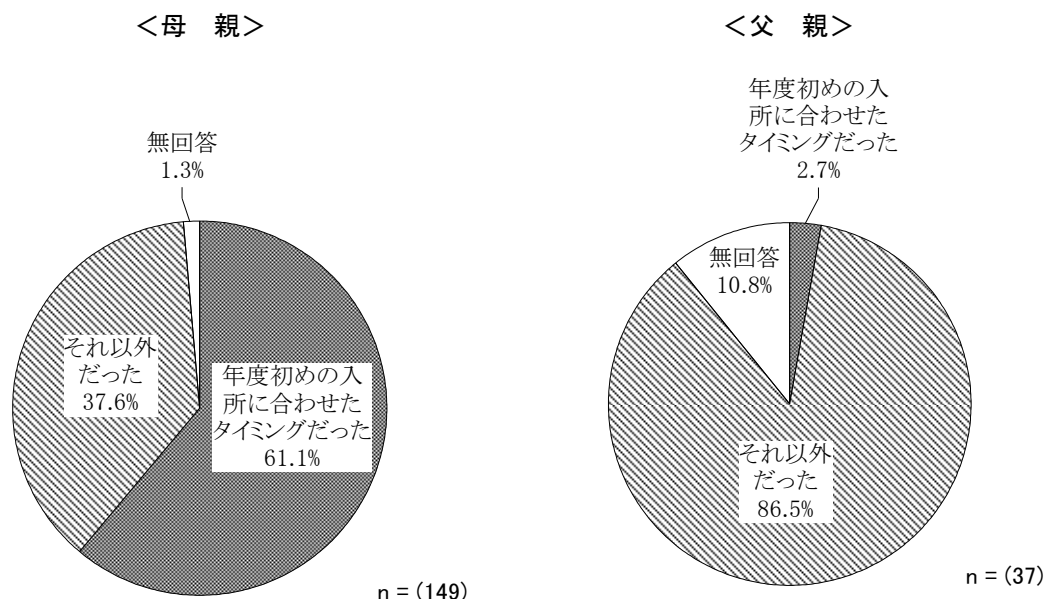


(1-4) 育児休業復帰のタイミング

育児休業を取得した場合、復帰のタイミングが年度初めの保育所入所に合わせたタイミングだったかをたずねたところ、母親は「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(61.1%)が6割強、「それ以外だった」(37.6%)が4割弱となっています。

父親は「それ以外だった」(86.5%)が回答者のほとんどを占めています。

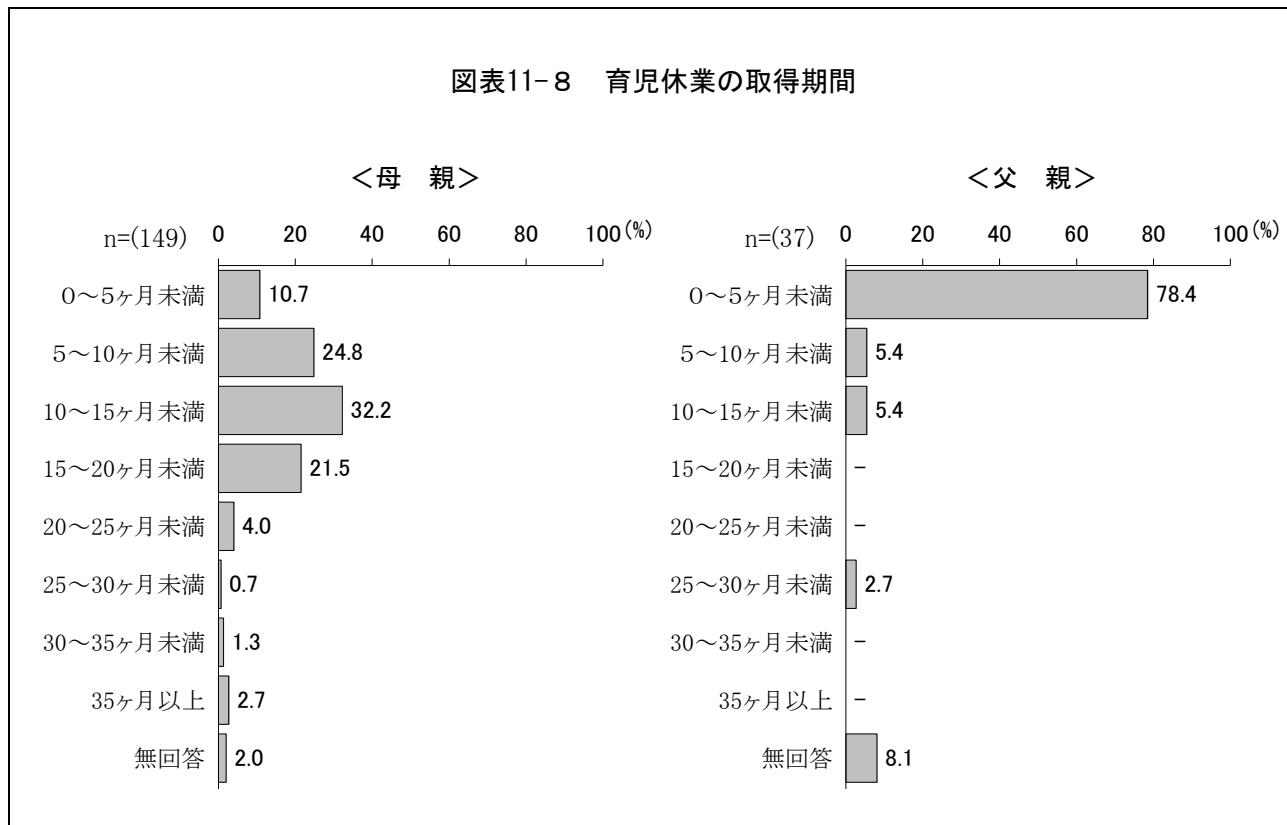
図表11-7 育児休業復帰のタイミング



(1-5) 育児休業の取得期間

育児休業を取得した場合の取得期間をたずねたところ、母親は「10～15ヶ月未満」(32.2%)が3割を超えて最も高く、「5～10ヶ月未満」(24.8%)、「15～20ヶ月未満」(21.5%)が続いており、平均取得期間は12.34ヶ月となっています。

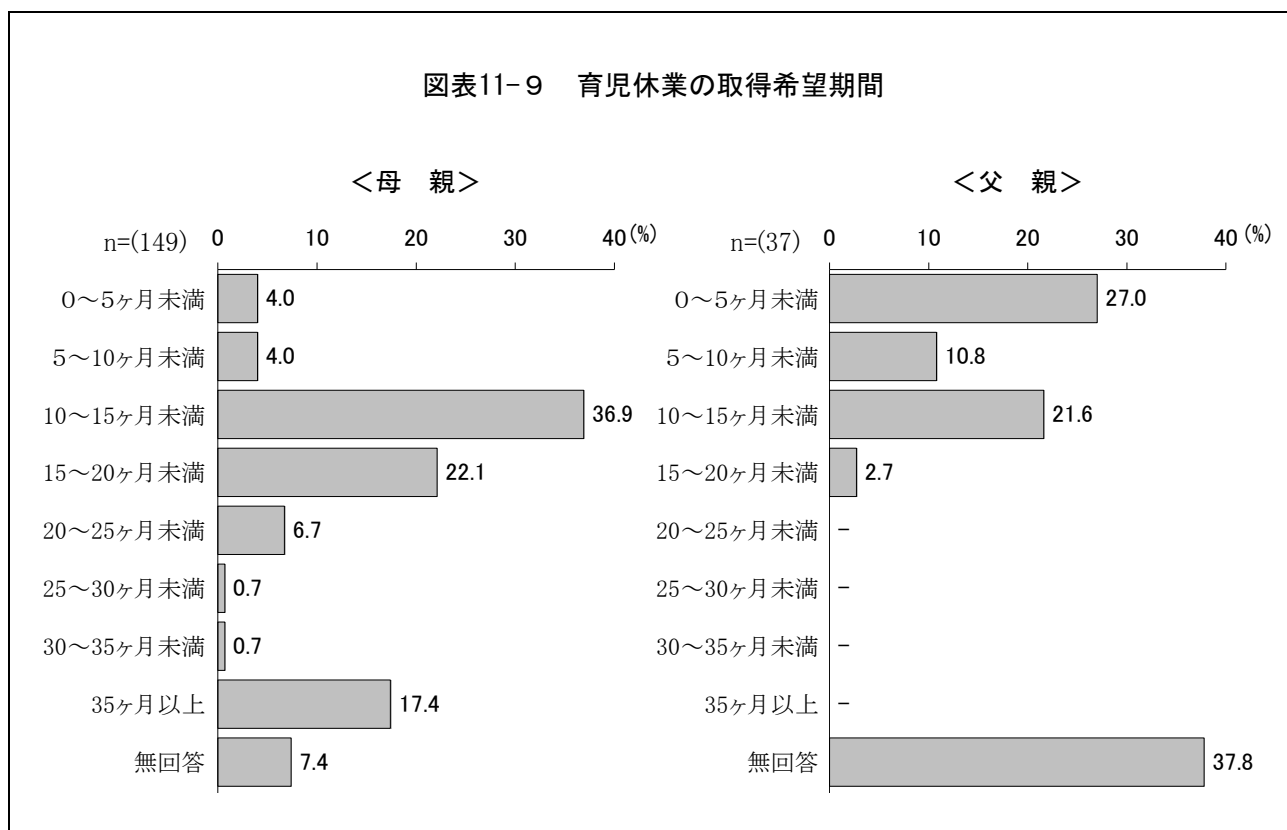
父親は「0～5ヶ月未満」(78.4%)が8割近くを占め、平均取得期間は2.65ヶ月となっています。



(1-6) 育児休業の取得希望期間

育児休業を取得したかった期間をたずねたところ、母親は「10～15ヶ月未満」(36.9%)が3割台半ばで最も高く、「15～20ヶ月未満」(22.1%)、「35ヶ月以上」(17.4%)が続いており、平均希望期間は19.01ヶ月となっています。

父親は「0～5ヶ月未満」(27.0%)と「10～15ヶ月未満」(21.6%)が高くなっており、平均希望期間は6.57ヶ月となっています。

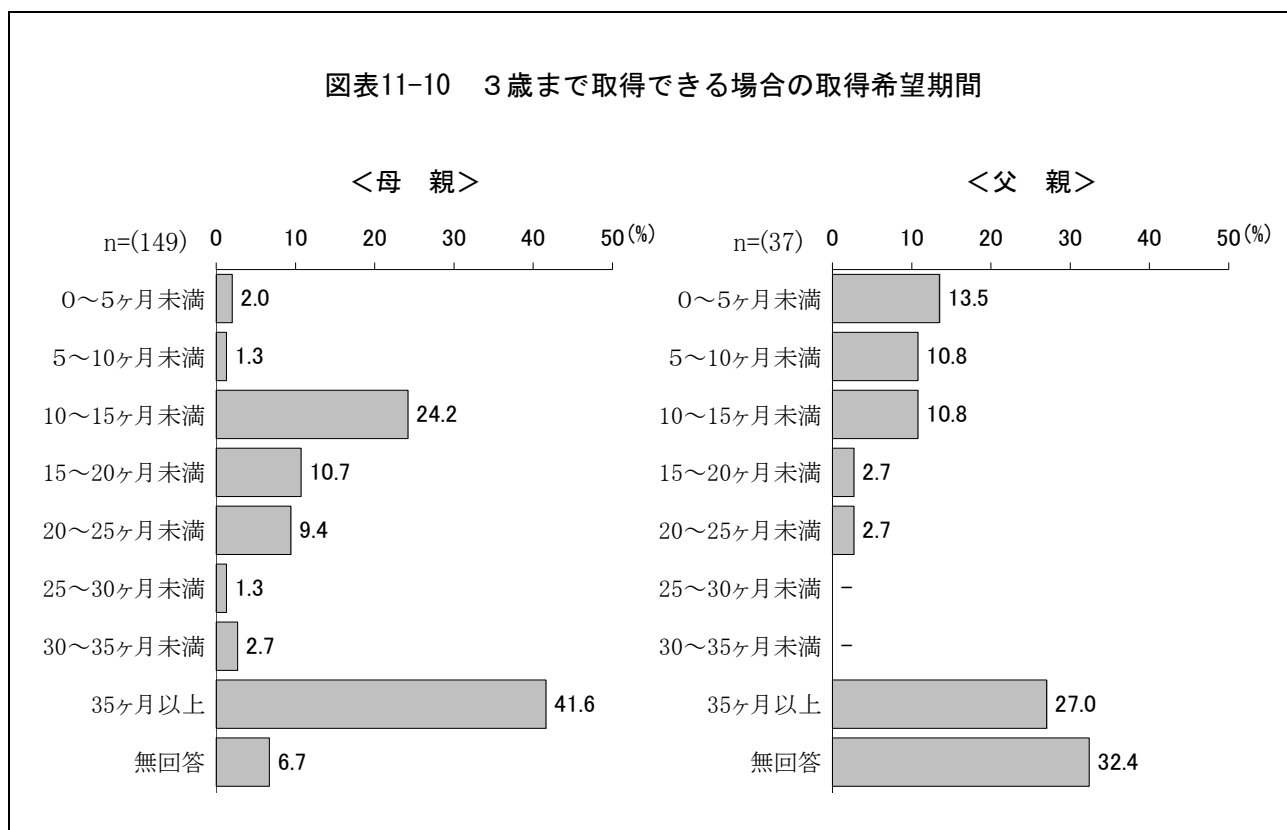


(1-7) 3歳まで取得できる場合の取得希望期間

育児休業が3歳まで取得できる場合に希望する期間をたずねたところ、母親は「35ヶ月以上」(41.6%)が4割以上を占め、「10～15ヶ月未満」が24.2%で続いており、平均希望期間は25.09ヶ月となっています。

父親は、回答者の中では「35ヶ月以上」(27.0%)が最も高くなっていますが、15ヶ月未満と回答している人も多くなっています。平均希望期間は19.24ヶ月となっています。

図表11-10 3歳まで取得できる場合の取得希望期間

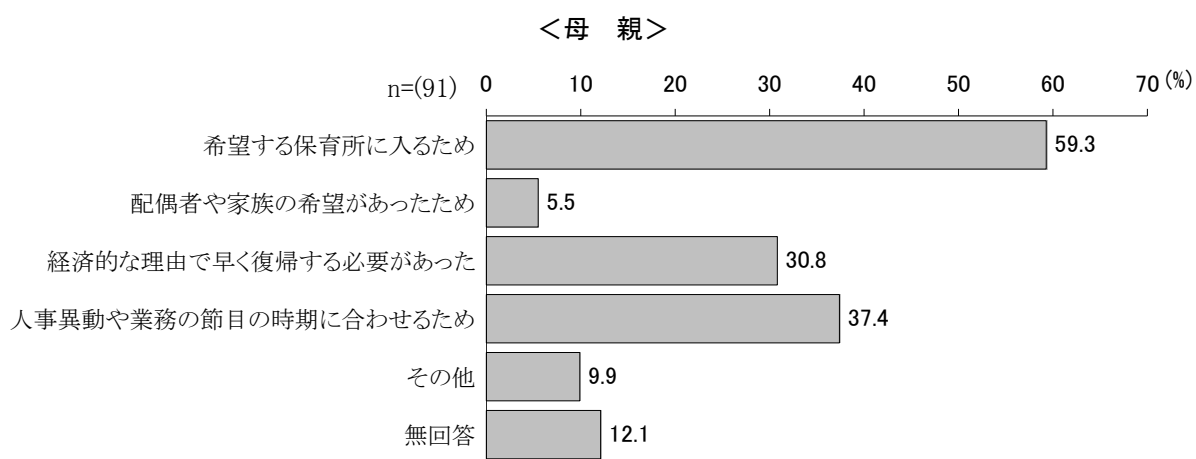


(1-8) 希望の時期に職場復帰しなかった理由

育児休業の実際の取得期間と、希望する取得期間が異なった場合に、その理由について複数回答でたずねたところ、母親は「希望する保育所に入るため」(59.3%)が約6割で最も高く、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(37.4%)、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」(30.8%)などとなっています。

父親は、回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表11-11 希望の時期に職場復帰しなかった理由 - 「希望」より早く復帰した理由



<父 親>

(人)

n	希望する保育所に入るため	配偶者や家族の希望があったため	経済的な理由で早く復帰する必要がある	人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	その他	無回答
16	-	1	6	4	4	5

希望より遅く復帰した理由は、回答人数が少ないので図表を参考とします。

図表11-12 希望の時期に職場復帰しなかった理由 - 「希望」より遅く復帰した理由

<母 親>

(人)

n	希望する保育所に入れなかったため	自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため	配偶者や家族の希望があったため	職場の受け入れ態勢が整っていないため	子どもをみてくれる人がいなかったため	その他	無回答
11	7	1	-	-	-	1	3

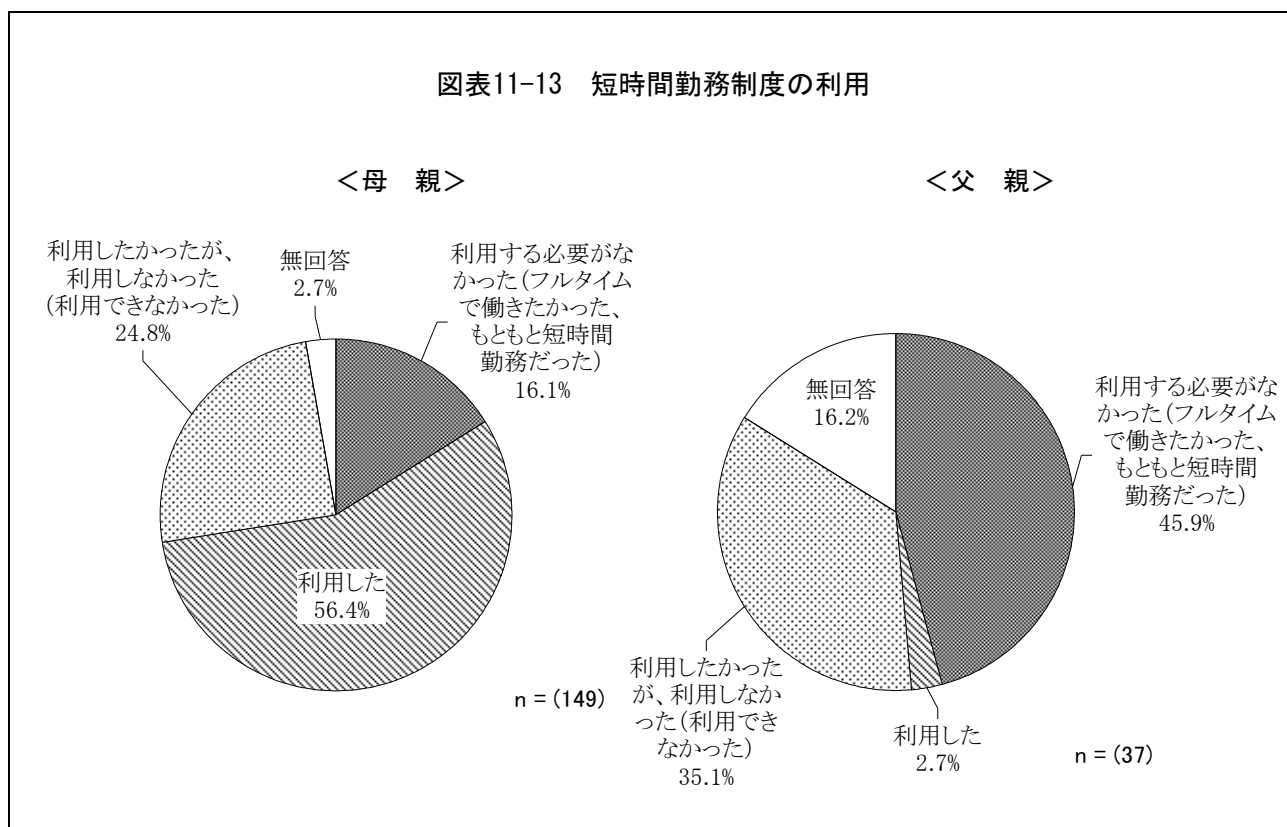
※父親は該当者1名、無回答だった。

(1-9) 短時間勤務制度の利用

育児休業取得後に職場に復帰した場合、短時間勤務制度を利用したかをたずねたところ、母親は「利用した」(56.4%)が過半数を占め、「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が24.8%、「利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」が16.1%となっています。

父親は「利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」(45.9%)が半数弱、「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が35.1%となっており、「利用した」は2.7%とわずかとなっています。

図表11-13 短時間勤務制度の利用

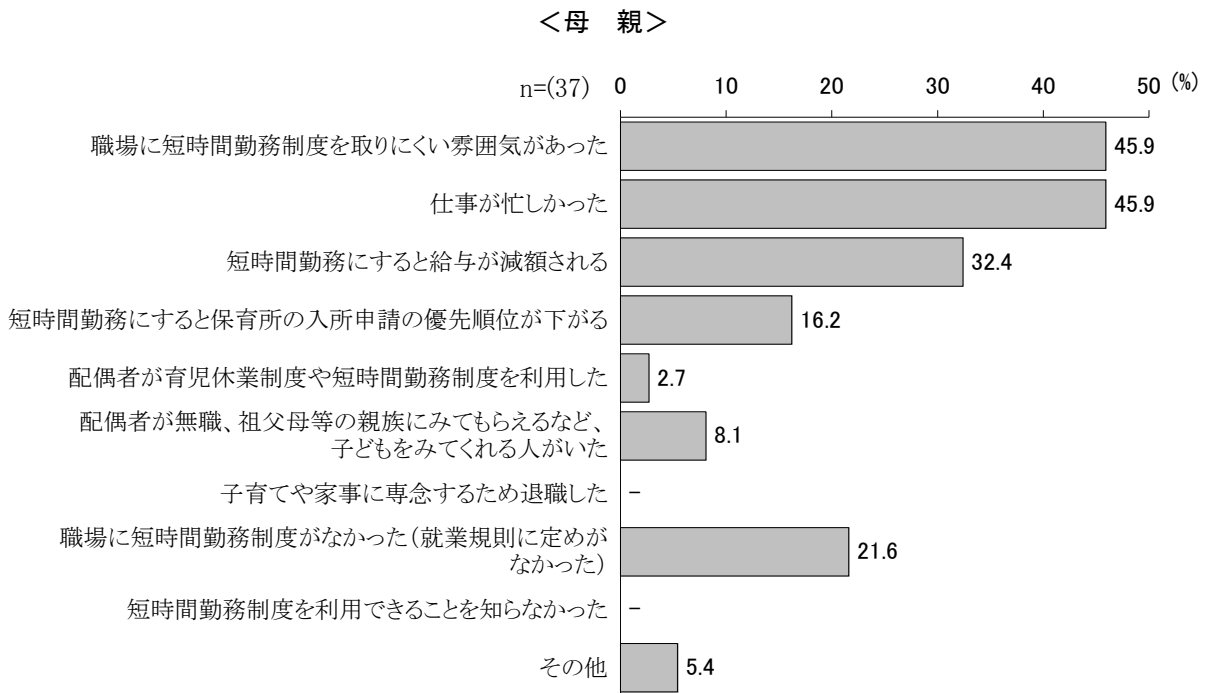


(1-10) 短時間勤務制度を利用しなかった理由

短時間勤務制度を利用しなかった(利用できなかった)理由を複数回答でたずねたところ、母親は「職場に短時間勤務制度をとりにくい雰囲気があった」と「仕事が忙しかった」がともに45.9%と高くなっています。

父親は、回答人数が少ないので図表は参考程度とします。

図表11-14 短時間勤務制度を利用しなかった理由



<父 親>

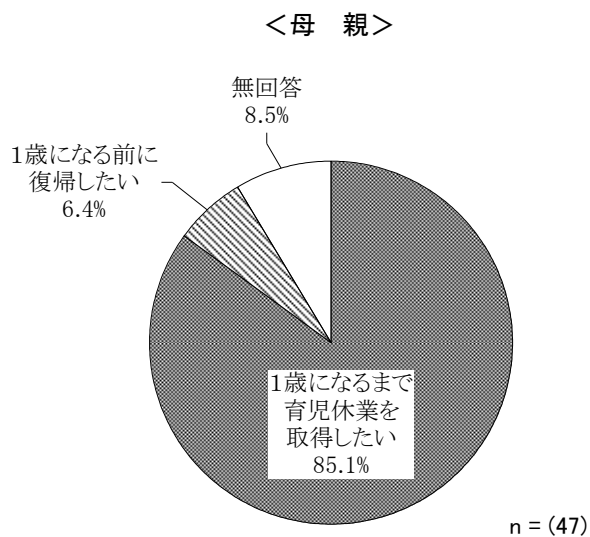
(人)

n	職場に短時間勤務制度をとりにくい雰囲気があった	仕事が忙しかった	短時間勤務にすると給与が減額される	短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる	配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した	配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、子どもをみてくれる人がいた	子育てや家事に専念するため退職した	職場に短時間勤務制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	短時間勤務制度を利用できることを知らなかった	その他	無回答
13	-	6	-	-	2	3	-	1	1	-	2

(1-11) 子どもが1歳時に必ず利用できる事業の利用意向

現在育児休業中の方に、子どもが1歳になった時に必ず利用できる事業があった場合利用したいかをたずねたところ、母親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」(85.1%)が8割台半ばを占め、「1歳になる前に復帰したい」は6.4%にとどまっています。

図表11-15 子どもが1歳時に必ず利用できる事業の利用意向

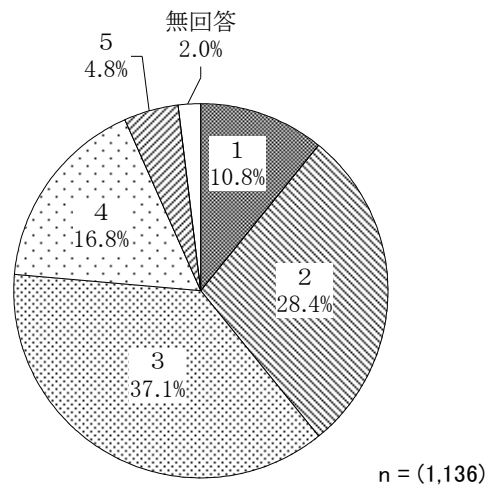


※父親は該当者1人、「1歳になるまで育児休業を取得したい」と回答

(2) 子育て環境・支援への満足度

居住地の子育て環境や支援への満足度をたずねたところ、5段階評価の「3」（中間地点、37.1%）が4割近くを占めて最も高くなっています。次いで「2」（やや低い、28.4%）、「4」（やや高い、16.8%）の順となっており、平均評価点は2.76点となっています。

図表11-16 子育て環境・支援への満足度



※「1」を“満足度が低い”、「5」を“満足度が高い”とし、1～5までの数値を選んでもらった。

(3) 自由意見

最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関する意見を自由記入形式でたずねたところ、700人の方の記入がありました。1人の方が複数の内容を記入している場合もあるため、意見の総件数は1,330件となっています。以下は意見を内容ごとにまとめたものです。

内 容	回答数	構成比
<子どもの遊び場や居場所について>	317	23.8%
公園・広場の増設	190	14.3%
公園・広場の環境の整備	77	5.8%
屋内で遊べる施設等の充実	25	1.9%
スポーツ施設の充実	8	0.6%
海・山など自然環境の整備や自然環境を生かした遊び場の充実	6	0.5%
図書館の充実	5	0.4%
その他	6	0.5%
<地域の子育て支援事業について>	214	16.1%
児童館・青少年会館のひろばの充実	53	4.0%
子育て支援センターぽけっとの充実	45	3.4%
情報提供体制の充実	34	2.6%
子育てイベントの充実	18	1.4%
子育て交流の充実	18	1.4%
子育て講座の充実	10	0.8%
相談体制の充実	10	0.8%
その他	26	2.0%
<定期的な教育・保育事業について>	191	14.4%
認定保育所の増設、入所基準の緩和	139	10.5%
認定保育所の預かり時間の延長、保育内容の充実	21	1.6%
認定こども園の開設	11	0.8%
認定幼稚園の増設、入園基準の厳格化	11	0.8%
認定幼稚園の預かり時間の延長、教育内容の充実	2	0.2%
その他	7	0.5%
<経済的問題について>	104	7.8%
子ども手当や就園奨励費の増額や所得制限の緩和	33	2.5%
医療費助成の年齢制限や所得制限の緩和	27	2.0%
教育費・保育料等の負担の悩み	23	1.7%
出産までにかかる費用の助成	12	0.9%
その他	9	0.7%
<交通インフラについて>	99	7.4%
安全な歩道、自転車道の整備	52	3.9%
教育・保育施設や公共施設を利用する際の駐車場の整備	24	1.8%
公共施設や道路などがベビーカーの移動に不便なことへの不満	11	0.8%
教育・保育施設や公共施設に行くための交通機関の充実	10	0.8%
その他	2	0.2%

内 容	回答数	構成比
<小学校就学後の放課後の過ごし方について>	88	6.6%
放課後児童クラブ（学童保育）の充実	54	4.1%
放課後の遊び場所の充実、放課後子ども教室の開設	28	2.1%
小学生の一時預かりの充実	6	0.5%
<不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について>	77	5.8%
一時預かり事業の充実	72	5.4%
ファミリー・サポート・センターの充実	3	0.2%
その他	2	0.2%
<子どもの医療や病児・病後児保育について>	69	5.2%
健診・予防接種等への要望	26	2.0%
病児・病後児保育の充実	23	1.7%
医療施設の増設	20	1.5%
<子育て支援行政について>	53	4.0%
子育て支援行政への不満	16	1.2%
子育て支援行政の更なる充実を期待	10	0.8%
町職員の対応への不満	9	0.7%
本アンケートへの不満・要望	9	0.7%
その他	9	0.7%
<学校教育について>	30	2.3%
幼稚園、小・中学校における給食の実施・充実	12	0.9%
小学校の学区の見直し	8	0.6%
小・中学校の教育の充実	7	0.5%
その他	3	0.2%
<防犯体制への不安>	26	2.0%
通学路等への街灯設置の要望	10	0.8%
通学路等のパトロールの要望	7	0.5%
夕方のチャイムの時間を早める	5	0.4%
その他	4	0.3%
<社会の中での子育て等について>	24	1.8%
地域や社会で子どもを育てる意識が希薄なこと	10	0.8%
子育てと就業を両立しにくい現状やその是正への期待感など	4	0.3%
子どもを産み育てることや専業主婦に対する社会的評価が低いこと	2	0.2%
その他	8	0.6%
<土曜・休日や長期休暇中の教育・保育事業の利用希望について>	20	1.5%
長期休暇中の保育の充実	16	1.2%
土日・祝日の保育の充実	4	0.3%
<その他>	18	1.4%
商業施設や金融機関の誘致	11	0.8%
その他	7	0.5%
計	1,330	100.0%

葉山町

子ども・子育て支援新制度に関するアンケート調査
報告書

平成 26 年 3 月

葉山町 保健福祉部 子ども育成課

〒240-0192 神奈川県三浦郡葉山町堀内2135番地

電話 046-876-1111 内線221・223